

# 京都市内遺跡詳細分布調査報告

令和4年度

2023年3月

京都市文化市民局



# 京都市内遺跡詳細分布調査報告

令和4年度

2023年3月

京都市文化市民局





1 醜醐ノ森瓦窯跡（西賀茂山荘）(21S525) 滝1全景（南東から）



1 史跡方広寺大仏殿跡及び石塁・石塔、法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡（3N060）西面（修理前）



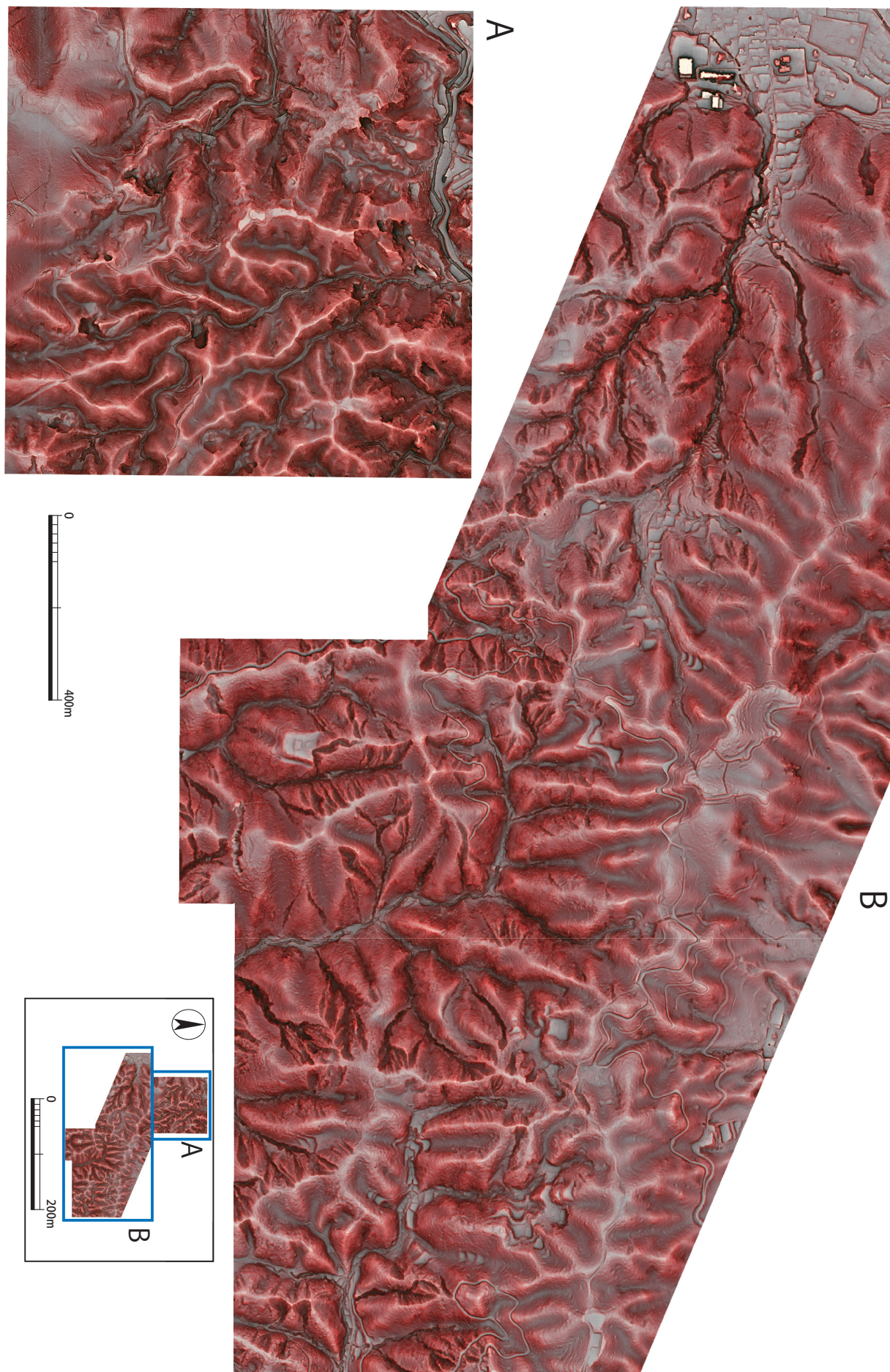
2 史跡方広寺大仏殿跡及び石塁・石塔、法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡（3N060）西面（修理後）



1 史跡方広寺大仏殿跡及び石罌・石塔、法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡（3N060）平面（修理前）



2 史跡方広寺大仏殿跡及び石罌・石塔、法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡（3N060）平面（修理後）



1 如意寺跡ほか (21A003・22A001) 赤色立体図 (1 : 12,000)

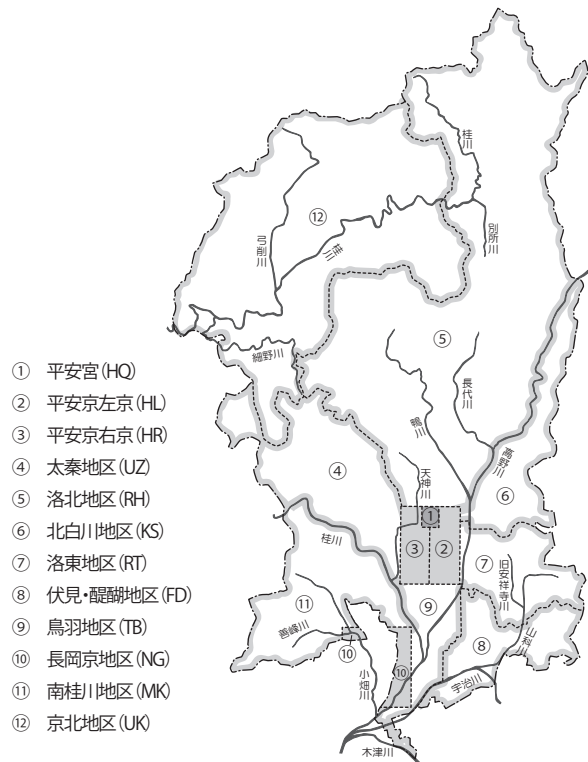


# 例 言

1. 本書は京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した令和4年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。令和4年1月から令和4年12月まで実施した詳細分布調査のうち、重要な成果があったものを本文で報告し、その他のものを一覧表に列記している。
2. 本文の執筆分担は、本文の末尾に記している。
3. 本書報告の調査のうち、基準点測量した調査の方位および座標は、世界測地系平面直角座標系VIによる。標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。またこれ以外の場合は、既存公共物などを仮基準点（KBM）として用いている。
4. 本書で使用した調査位置図は京都市発行の都市計画基本図（縮尺1／2,500）と一部京都市公共物GISを調整し、作成したものである。このほか、巻末の図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。  
 図版1～13 1／8,000、図版14～29 1／10,000  
 （ただし25-1は1／25,000、26-2は1／20,000）
5. 本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は、一部を除き、平尾政幸「土師器再考」（『洛史』研究紀要第12号、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2019年）に準拠する。

750	840	930	1020	1110	1170	1260	1350	1410	1500	1590	1680	1740	1800	1860
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	

6. 本書で使用した土色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』2016年度版に準じる。
7. 調査一覧表では各時代の「時代」は省略し、調査日も簡略に記している。遺跡名は、平安宮跡、平安京跡、長岡京跡については、官衙・条坊を優先して記載した。西暦も年を省略している。
8. 調査及び整理にあたっては、飯沼 俊哉、上茶谷 美保、上別府 亜紀、早川 仁志、林 友紀、松本 和子、山口 大地、吉本 健吾の協力を得た。
9. 調査及び本書作成は、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が担当し、（公財）京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。



地区設定概念図

# 本文目次

I 調査概要	1
II 平安京左京	6
1 平安京左京一条四坊十六町・二条三坊十六町跡、公家町遺跡、京都新城跡 (21H356)	6
2 平安京左京二条四坊一・八町跡、公家町遺跡、京都新城跡、烏丸丸太町遺跡 (21H088)	9
3 平安京左京三条二坊十一町跡 (19H145)	13
4 平安京左京三条四坊八町跡、等持寺跡 (21H461)	20
5 平安京左京五条二坊十六町跡、烏丸綾小路遺跡 (22H008)	22
III その他の遺跡	24
1 醍醐ノ森瓦窯跡 (21S525)	24
2 木野墓窯跡 (19A002)	32
3 植物園北遺跡 (21S686)	38
4 吉田二本松町遺跡、吉田上大路町遺跡 (22S150)	40
5 円成寺跡、中尾城跡、浄土寺七廻り町遺跡、如意ヶ嶽経塚群、如意ヶ嶽城跡、如意寺跡、 鹿ヶ谷経塚、岩座跡、安祥寺経塚群、安祥寺上寺跡 (21A003・22A001)	43
6 史跡方広寺大仏殿跡及び石罫・石塔、法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡 (3N060)	49
7 法住寺殿跡、方広寺跡、六波羅政庁跡 (18S799)	56
8 寺本城跡 (21S791)	59
9 伏見城跡 (22F269)	61
10 淀城跡、長岡京左京跡 (条坊外) (21S037)	64
11 愛宕山遺跡及び愛宕山遺跡隣接地 (21A004)	67
IV 調査一覧表	71

報告書抄録

# 挿図目次

地区設定概念図	i
I 調査概要	
図1 詳細分布調査の年間件数推移	2

II - 1 平安京左京一条四坊十六町・二条三坊十六町跡、公家町遺跡、京都新城跡	
図 2	調査位置図 ..... 6
図 3	No. 4～8 地点位置図・平面図・断面図・柱状図 ..... 7
図 4	〔校正〕内裏細覧之図 ..... 7
図 5	門跡検出状況（北から） ..... 8
図 6	門跡検出状況（西から） ..... 8
II - 2 平安京左京二条四坊一・八町跡、公家町遺跡、京都新城跡、烏丸丸太町遺跡	
図 7	調査位置図 ..... 9
図 8	調査地点及び KBM 位置図 ..... 10
図 9	調査地点各断面図 ..... 10
図 10	⑧地点（北西から） ..... 12
図 11	⑧地点断面状況（北西から） ..... 12
図 12	⑨地点（北から） ..... 12
図 13	⑨地点護岸石南側苔地部分断面（東から） ..... 12
図 14	⑨地点護岸石池部分断面（東から） ..... 12
II - 3 平安京左京三条二坊十一町跡	
図 15	調査位置図 ..... 13
図 16	調査地点位置図 ..... 13
図 17	調査区断面図 ..... 14
図 18	遺構面全体図 ..... 16
図 19	土坑墓 100 遺構平断面図 ..... 17
図 20	土坑墓 100 出土遺物実測図 ..... 17
図 21	出土遺物実測図 ..... 18
II - 4 平安京左京三条四坊八町跡、等持寺跡	
図 22	調査位置図 ..... 20
図 23	調査地点位置図 ..... 20
図 24	調査地点断面図 ..... 21
図 25	出土遺物実測図 ..... 21
II - 5 平安京左京五条二坊十六町跡、烏丸綾小路遺跡	
図 26	調査位置図 ..... 22
図 27	調査地点位置図 ..... 22

図 28	調査地点断面図	23
III - 1 醍醐ノ森瓦窯跡		
図 29	調査位置図	24
図 30	醍醐ノ森調査前遠景（北西から）	24
図 31	庭園遺構調査前風景（南東から）	24
図 32	調査区配置図	25
図 33	庭園遺構全景（南から）	26
図 34	詳細分布調査実測図	27
図 35	庭園平面図	28
図 36	滝 1・2 立面図	29
図 37	滝 1 石材（西から）	29
図 38	滝 1 エレベーション図	30
図 39	滝 2 全景（南から）	30
III - 2 木野墓窯跡		
図 40	調査位置図	32
図 41	木野墓窯付近地形測量図	33
図 42	土器実測図 1	34
図 43	土器実測図 2	35
図 44	採取瓦類実測図及び拓影	36
III - 3 植物園北遺跡		
図 45	調査位置図	38
図 46	調査地点位置図	38
図 47	遺構平・断面図	39
III - 4 吉田二本松町遺跡、吉田上大路町遺跡		
図 48	調査位置図	40
図 49	調査地点位置図	40
図 50	No. 1 地点壁断面検出状況	40
図 51	調査区断面図	41
図 52	出土遺物実測図	42
図 53	土坑 1-4 遺物出土状況	42

III - 5 円成寺跡、中尾城跡、浄土寺七廻り町遺跡、如意ヶ嶽経塚群、如意ヶ嶽城跡、  
如意寺跡、鹿ヶ谷経塚、岩座跡、安祥寺経塚群、安祥寺上寺跡

図 54	測量図及び遺跡範囲	44
図 55	範囲①	44
図 56	範囲②	45
図 57	範囲③	45
図 58	範囲④	46
図 59	平坦面群③北東部（南から）	46
図 60	平坦面群④-B（南から）	46
図 61	採集遺物実測図	47

III - 6 史跡方広寺大仏殿跡及び石罫・石塔、法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡

図 62	調査位置図	49
図 63	芝台の間隙（北東から）	49
図 64	基壇石の孕み（南東から）	49
図 65	調査区配置図	50
図 66	解体作業風景（南から）	50
図 67	修理前平・立面図	51
図 68	地輪西面拓本	51
図 69	A-A` 断面図	51
図 70	A-A` 断面（南より）	51
図 71	修理後平・立面図	52
図 72	芝台内面に残る矢穴	52
図 73	出土遺物実測図及び拓影	53
図 74	（上）大仏殿復元図（下）「方広寺大仏惣指図」『中井家文書』	54

III - 7 法住寺殿跡、方広寺跡、六波羅政庁跡

図 75	調査位置図	56
図 76	調査地点位置図	56
図 77	井戸 1 断割り状況（東から）	57
図 78	井戸 2 検出状況（北から）	57
図 79	検出遺構平面断面図	57
図 80	出土遺物実測図	58

Ⅲ - 8 寺本城跡	
図 81 調査位置図	59
図 82 調査地点位置図	59
図 83 調査地点断面図	60
図 84 出土遺物実測図	60
Ⅲ - 9 伏見城跡	
図 85 調査位置図	61
図 86 調査地点位置図	61
図 87 調査地点と伏見城の曲輪	62
図 88 主な地点の柱状断面図	63
Ⅲ -10 長岡京左京跡（条坊外）、淀城跡	
図 89 調査位置と淀城の復元図	64
図 90 調査地点位置図	64
図 91 調査地点断面図	65
図 92 出土遺物実測図及び拓影	65
図 93 遺構面全体図	66
Ⅲ -11 愛宕山遺跡及び愛宕山遺跡隣接地	
図 94 調査位置図	67
図 95 平坦面 1 b（北から）	67
図 96 調査地点 1 平坦面配置図	68
図 97 調査地点 2 平坦面配置図	68
図 98 遺物実測図	69

## 表 目 次

表 1 令和 4 年の詳細分布調査件数	1
表 2 出土遺物概要表	5

# 図 版 目 次

## 巻頭図版

- 巻頭図版 1 1 醍醐ノ森瓦窯跡（西賀茂山荘）（21S525） 滝1全景（南東から）
- 巻頭図版 2 1 史跡方広寺大仏殿跡及び石塁・石塔、法住寺殿跡、六波羅政庁跡、  
方広寺跡（3N060） 西面（修理前）  
2 同 西面（修理後）
- 巻頭図版 3 1 同 平面（修理前）  
2 同 平面（修理後）
- 巻頭図版 4 1 如意寺跡ほか（21A003・22A001） 赤色立体図

## 図版 1～29 調査位置図

- 図版 1 平安宮
- 図版 2 平安京左京北辺～三条一・二坊
- 図版 3 平安京左京北辺～三条三・四坊
- 図版 4 平安京左京四～六条一・二坊
- 図版 5 平安京左京四～六条三・四坊
- 図版 6 平安京左京七～九条一・二坊
- 図版 7 平安京左京七～九条三・四坊
- 図版 8 平安京右京北辺～三条三・四坊
- 図版 9 平安京右京北辺～三条一・二坊
- 図版 10 平安京右京四～六条三・四坊
- 図版 11 平安京右京四～六条一・二坊
- 図版 12 平安京右京七～九条三・四坊
- 図版 13 平安京右京七～九条一・二坊
- 図版 14 伏見城跡、桃山古墳群（永井久太郎古墳）、板橋廢寺、御香宮廢寺、三淵氏伏見城跡、  
指月城跡
- 図版 15 伏見城跡、桃山古墳群（永井久太郎古墳）
- 図版 16 1 香隆寺跡 2 御土居跡 3 鹿苑寺旧境内（北殿）、史跡御土居跡、御土居跡、  
紫野齋院跡、上京遺跡、尊重寺跡、世尊寺跡、聚楽第跡、北野遺跡、北野廢寺、  
北野製鉄遺跡
- 図版 17 1 御土居跡 2 史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社） 3 寺ノ内旧域、紫野齋院跡、  
上京遺跡、世尊寺跡、聚楽第跡、相国寺旧境内、常盤井殿町遺跡、一条室町殿跡、  
公家町遺跡、寺町旧域

- 図版 18 1 檜原遺跡 2 革嶋遺跡 3 中久世遺跡、長岡京跡、東土川遺跡
- 図版 19 長岡京跡、芝ヶ本遺跡、久我殿遺跡、久我東町遺跡
- 図版 20 長岡京跡、淀水垂大下津町遺跡、旧淀城跡、淀城跡、木津川河床遺跡
- 図版 21 音戸山古墳群、円宗寺跡、草木町遺跡、常盤柏ノ木古墳群、村ノ内町遺跡、  
常盤東ノ町古墳群、太秦馬塚町遺跡、上ノ段町遺跡、広隆寺旧境内、一ノ井遺跡、  
千首塚古墳、多藪町遺跡、西野町遺跡、御所ノ内町遺跡、海正寺跡
- 図版 22 北白川瓦窯跡、上終町遺跡、北白川廃寺、小倉町別当町遺跡、北白川追分町遺跡、  
追分町古墳群、北白川追分町縄文遺跡、吉田上大路町遺跡、名勝清風荘庭園、田中関田町遺跡、  
吉田泉殿町遺跡、吉田二本松町遺跡、白河街区跡、史跡聖護院旧仮皇居、白河北殿跡、  
白河南殿跡、得長寿院跡、尊勝寺跡、法勝寺跡、岡崎遺跡、東光寺跡、禪林寺旧境内
- 図版 23 祇園遺跡、名勝円山公園、建仁寺境内、法観寺旧境内、六波羅政庁跡、  
音羽・五条坂窯跡、史跡方広寺大仏殿跡及び石塁・石塔、方広寺跡、法住寺殿跡、  
法性寺跡、鳥部（辺）野、鳥戸野古墳群
- 図版 24 1 大覚寺古墳群、広沢古墳群、嵯峨遺跡、宝幢寺境内、嵯峨北堀町遺跡、臨川寺境内、  
嵯峨折戸町遺跡 2 植物園北遺跡、芝本瓦窯跡
- 図版 25 1 円成寺跡、中尾城跡、浄土寺七廻り町遺跡、如意ヶ嶽経塚群、如意ヶ嶽城跡、如意寺跡、  
鹿ヶ谷経塚、岩座跡、安祥寺経塚群、安祥寺上寺跡 2 鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡
- 図版 26 1 醍醐ノ森瓦窯跡、大宮北山ノ前瓦窯跡 2 愛宕山遺跡 3 中臣遺跡、稻荷塚古墳、  
中臣十三塚 4 稻荷山古墳群、伏見稻荷大社境内、極楽寺跡、深草遺跡、寺本城跡
- 図版 27 1 薬王坂遺跡 2 上ノ庄田瓦窯跡、蟹ヶ坂瓦窯跡 3 栗栖野瓦窯跡、  
木野墓窯跡 4 松ヶ崎廃寺 5 沖殿町遺跡 6 一乗寺松田町遺跡  
7 法成寺跡、公家町遺跡 8 寺町旧域
- 図版 28 1 法性寺跡 2 鳥部（辺）野、本多山古墳群 3 西野山遺跡群（西野山古墓）  
4 安祥寺下寺跡 5 山科本願寺跡（寺内町遺跡） 6 山科本願寺南殿跡  
7 大宅遺跡、大宅廃寺 8 史跡随心院境内
- 図版 29 1 おうせんでう廃寺 2 法界寺旧境内 3 唐橋遺跡 4 芹川城跡  
5 冨ノ森城跡 6 長岡京跡 7 長岡京跡、上里北ノ町遺跡 8 穀塚古墳

#### 図版 30・31 遺構

- 図版 30 II - 3 平安京左京三条二坊十一町跡（19H145）遺構  
1 調査区北東部（No.2）全景（南から）  
2 調査区北西部（No.3）全景（南西から）
- 図版 31 II - 3 平安京左京三条二坊十一町跡（19H145）遺構  
1 調査区南東部（No.4）全景（南から）  
2 調査区南西部（No.5）全景（南から）



# I 調査概要

本書は、文化庁国庫補助事業に伴う令和4年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本書では、令和4年1月4日から3月31日までの令和3年度分213件、令和4年4月1日から12月28日までの令和4年度分363件、計576件を報告する(表1)。

今年度、京都市文化市民局文化財保護課埋蔵文化財係では5年ぶりに新規採用をおこない、2名の職員が新たに加わった。京都市の埋蔵文化財保護行政をより充実させるためである。その新規採用者の入庁直前、ロシアによるウクライナ侵攻が始まった。紛争地から遠く離れた京都で仕事を始めた新入職員は複雑な想いである。新入職員の一人はこんな話をしてくれた。「私達の仕事は戦争に対して無力です。いったん戦争が始まれば戦争遂行に必要な仕事しか行われなくなる。よそでは戦争をしているのに、仕事をしていていいのでしょうか」。別の新入職員は京都市の友好都市であるキーウの文化財が戦争被害を受けないかと心配していた。

文化財の調査保護は、その国の歴史構築の一助となる。そして、その歴史を学ぶことは過去を顧み、平和な国を作る礎となる。しかし、ひとたび戦争が始まると、文化財は簡単に破壊され消滅する。それを防ぐためにも、今は文化財の調査保護事業に邁進しなくてはならない。新入職員はそのことを肝に銘じ仕事に励むのであった。

詳細分布調査の総件数は前年に比べて3件増えている(図1)。昨年、一昨年とここ2年間減少傾向にあったのが横這いになった。地区ごとの増減では、平安京内(平安宮・左京・右京地区)が前年247件から本年257件へと増加した。昨年から引き続いて今年も増加した。平安京外で大きな変化がみられるのは、長岡京地区が14件、北白川地区と鳥羽地区が各5件増加している。減少は伏見・醍醐地区が15件、南桂川地区が13件であった。

この件数横這い状態が、令和元年から始まった新型コロナウイルス感染症の影響によって建築不況が底打ちしたことを示しているか否かは明確ではない。ここからは、ウクライナの戦争の影響が出てくる可能性も指摘できる。

詳細分布調査の件数は横這いであったが、調査によって検出できた遺構、遺物は多数ある。以下、

表1 令和4年の詳細分布調査件数

地 区	3年度1~3月	4年度4月~12月	小計	地 区	3年度1~3月	4年度4月~12月	小計
平安宮 (HQ)	29	52	81	洛東地区 (RT)	19	30	49
平安京左京 (HL)	40	71	111	伏見・醍醐地区 (FD)	16	29	45
平安京右京 (HR)	24	41	65	鳥羽地区 (TB)	12	19	31
太秦地区 (UZ)	11	27	38	長岡京地区 (NG)	21	13	34
洛北地区 (RH)	22	51	73	南桂川地区 (MK)	3	6	9
北白川地区 (KS)	15	24	39	京北地区 (UK)	1	0	1
				合 計	213	363	576

地区ごとの概要を述べる。

### ①平安宮（HQ）

平安宮域では、平安宮跡、鳳瑞遺跡、聚楽遺跡、聚楽第跡の4遺跡で81件の調査を行った。

### ②平安京左京（HL）

左京域では、平安京跡、上京遺跡、公家町遺跡、内膳町遺跡、京都新城跡、旧二条城跡、烏丸丸太町遺跡、高陽院跡、二条城北遺跡、二条殿御池城跡、烏丸御池遺跡、堀川御池遺跡、妙顕寺城跡、妙覚寺城跡、等持寺跡、三条せと物や町遺跡、寺町旧域、本隆寺の構え跡、妙満寺の構え跡、だいうすの城跡、烏丸綾小路遺跡、東市跡、御土居跡、東本願寺前古墓群、名勝渉成園、烏丸町遺跡の26遺跡で111件の調査を行った。

本書では一条四坊十六町・二条三坊十六町跡、公家町遺跡、京都新城跡の調査（21H356）で近世の門の礎石、二条四坊一・八町跡、公家町遺跡、京都新城跡、烏丸丸太町遺跡の調査（21H088）で九條池の汀石組み、三条二坊十一町跡の調査（19H145）で平安時代末期～室町時代のピット、土坑、土坑墓、溝など、三条四坊八町跡、等持寺跡の調査（21H461）で平安時代前・後期、室町時代の各遺構、五条二坊十六町跡、烏丸綾小路遺跡の調査（22H008）で平安時代後期のピットと土坑を検出したのでこの5件を報告する。

また、一条四坊十町跡、公家町遺跡、京都新城跡の調査（20H383）では、安土桃山時代の京都新城の堀を検出した。この調査は事前に試掘調査をおこなっているので『京都市内遺跡試掘調査報告 令和4年度』に報告する。

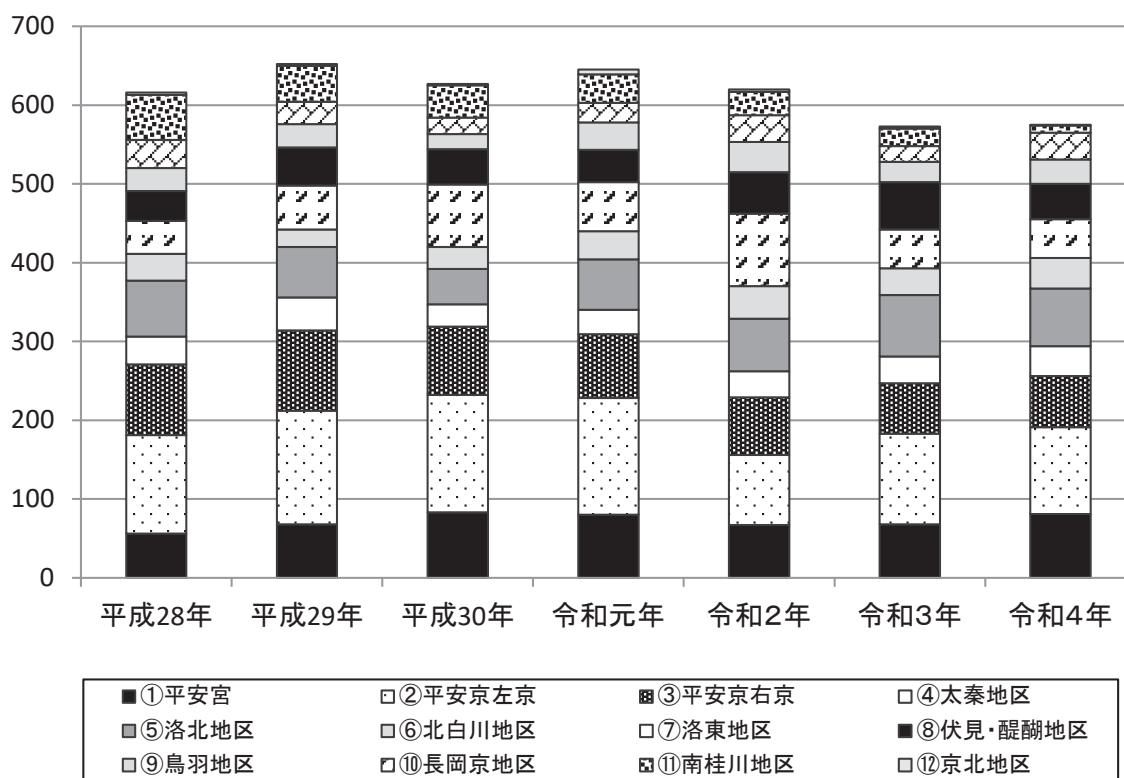


図1 詳細分布調査の年間件数推移

この他、平安時代の遺構として五条三坊四町跡、烏丸綾小路遺跡、だいうすの城跡の調査(21H692)でピット、二条二坊九町跡、高陽院跡、二条城北遺跡の調査(22H083)、四条二坊八町跡の調査(22H039)で包含層及び整地層、三条二坊二町跡、堀川御池遺跡の調査(22H090)と五条一坊八町跡、本隆寺の構え跡の調査(21H411)では後期の包含層を検出した。

平安時代末期～鎌倉時代は九条三坊十四町跡、烏丸町遺跡の調査(22H148)で井戸を検出した。

鎌倉時代は一条二坊十一・十三・十四町、三坊三・四・五・六・十一・十二町、二条三坊一町跡、旧二条城跡、烏丸丸太町遺跡の調査(20H744)で包含層、二条二坊十二・十三町跡の調査(21H744)では推定油小路西側溝地点で落込みを検出した。

室町時代の遺構は、北辺三坊五町跡、上京遺跡の調査(22H123)では推定一条大路北側溝地点で溝を検出している。

### ③平安京右京(HR)

右京域では、平安京跡、御土居跡、西ノ京遺跡、龍翔寺跡、壬生遺跡、山ノ内遺跡、西院遺跡、西京極遺跡、堂ノ口町遺跡、衣田町遺跡、西市跡、梅小路城跡、史跡西寺跡、西寺跡、唐橋遺跡の15遺跡で65件の調査を行った。

一条二坊十二・十三町跡の調査(21H631)で平安時代の土坑と包含層を検出した。六条四坊二町跡、西京極遺跡の調査(22H240)でも平安時代の包含層を検出している。九条二坊十六町跡の調査(22H282)では平安時代前期の包含層を検出している。

### ④太秦地区(UZ)

観空寺跡、大覚寺古墳群、広沢古墳群、嵯峨遺跡、臨川寺境内、宝幢寺境内、嵯峨折戸町遺跡、嵯峨北堀町遺跡、音戸山古墳群、円宗寺跡、草木町遺跡、常盤柏ノ木古墳群、常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡、太秦馬塚町遺跡、広隆寺旧境内、上ノ段町遺跡、西野町遺跡、多藪町遺跡、一ノ井遺跡、千首塚古墳、海正寺跡の22遺跡と御所ノ内町遺跡の隣接地で38件の調査を行った。

大覚寺古墳群の調査(22S193)で中世の包含層を検出した。円宗寺跡の調査(21S537)では近世のピット、土坑を検出した。

### ⑤洛北地区(RH)

葉王坂遺跡、上ノ庄田瓦窯跡、蟹ヶ坂瓦窯跡、醍醐ノ森瓦窯跡、大宮北山ノ前瓦窯跡、栗栖野瓦窯跡、木野墓窯跡、植物園北遺跡、芝本瓦窯跡、松ヶ崎廃寺、御土居跡、史跡御土居跡、鹿苑寺旧境内(北殿)、香隆寺跡、北野廃寺、北野遺跡、北野製鉄遺跡、聚楽第跡、尊重寺跡、世尊寺跡、紫野齋院跡、寺ノ内旧域、上京遺跡、一条室町殿跡、相国寺旧境内、公家町遺跡、常盤井殿町遺跡、寺町旧域、史跡賀茂御祖神社境内(下鴨神社)の29遺跡で73件の調査を行った。

本書では醍醐ノ森瓦窯跡の調査(21S525)で江戸時代の庭園跡を確認したので報告する。木野墓窯跡の調査(19A002)では飛鳥時代の須恵器と瓦を多量に採集したので報告する。植物園北遺跡の調査(21S686)で時期不明の竪穴建物跡を検出したので報告する。

この他、北野廃寺、北野遺跡の調査(21S110)と史跡賀茂御祖神社境内(下鴨神社)の調査(3N068)では平安時代の包含層を検出している。

## ⑥北白川地区（K S）

沖殿町遺跡、一乗寺松田町遺跡、北白川廃寺、上終町遺跡、北白川瓦窯跡、小倉町別当町遺跡、追分町古墳群、北白川追分町遺跡、北白川追分町縄文遺跡、公家町遺跡、名勝清風荘庭園、吉田上大路町遺跡、田中関田町遺跡、吉田泉殿町遺跡、吉田二本松町遺跡、白河街区跡、史跡聖護院旧仮皇居、白河北殿跡、白河南殿跡、得長寿院跡、尊勝寺跡、法勝寺跡、岡崎遺跡、東光寺跡、禪林寺旧境内、法成寺跡、円成寺跡、如意ヶ嶽経塚群、如意ヶ嶽城跡、如意寺跡、鹿ヶ谷経塚、岩座跡、安祥寺経塚群、安祥寺上寺跡、中尾城跡、浄土寺七廻り町遺跡の36遺跡で39件の調査を行った。

本書では吉田二本松町遺跡、吉田上大路町遺跡の調査（22S150）で鎌倉時代の土坑、ピット、包含層を検出したので報告する。円成寺跡、如意ヶ嶽経塚群、如意ヶ嶽城跡、如意寺跡、鹿ヶ谷経塚、岩座跡、安祥寺経塚群、安祥寺上寺跡の調査（21A012）と中尾城跡、浄土寺七廻り町遺跡の調査（22A001）で赤色立体図を作成し、未確認平坦地の踏査を行い平安時代中期の遺跡を発見したので合わせて報告する。また法成寺跡の調査（20S145）で時期不明の礎石と鎌倉時代の石仏を検出したので『京都市文化財保護課研究紀要 第6号』に報告する。公家町遺跡の調査（20H502）では江戸時代の石組み暗渠を検出したのだが、この調査は後に試掘調査を行ったので『京都市内遺跡試掘調査報告 令和4年度』に報告する。

この他、追分町古墳群、北白川追分町遺跡、北白川追分町縄文遺跡、吉田上大路町遺跡の調査（21S771）では弥生時代前期末の土石流堆積を検出している。また史跡聖護院旧仮皇居、白河街区跡の調査（3N038）で平安時代後期の包含層を検出した。

## ⑦洛東地区（R T）

寺町旧域、祇園遺跡、名勝円山公園、建仁寺境内、法観寺旧境内、音羽・五条坂窯跡、六波羅政庁跡、法住寺殿跡、方広寺跡、史跡方広寺大仏殿跡及び石塁・石塔、法性寺跡、鳥戸野古墳群、鳥部（辺）野、本多山古墳群、西野山遺跡群（西野山古墓）、安祥寺下寺跡、山科本願寺跡（寺内町遺跡）、山科本願寺南殿跡、中臣遺跡、稻荷塚古墳、中臣十三塚、大宅廃寺、大宅遺跡、史跡隨心院境内の24遺跡で49件の調査を行った。

本書では法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡、史跡方広寺大仏殿跡及び石塁・石塔の石塔修理に伴う調査（3N060）を報告する。法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡の調査（18S799）で室町時代と時期不明の井戸を2基検出したので報告する。法性寺跡の調査（21S276）では近世の整地層や土坑、東福寺現存の廊下の礎石と掘方を確認。また、創建期法堂の基壇土と考えられる黄橙色砂礫を確認。『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和5年度』に報告する予定である。

この他、六波羅政庁跡の調査（22S077）では平安時代後期の包含層を検出した。

## ⑧伏見・醍醐地区（F D）

稻荷山古墳群、伏見稻荷大社境内、極楽寺跡、寺本城跡、おうせんでう廃寺、伏見城跡、桃山古墳群（永井久太郎古墳）、板橋廃寺、御香宮廃寺、三淵氏伏見城跡、指月城跡、法界寺旧境内の12遺跡で45件の調査を行った。

本書では寺本城跡の調査（21S791）で中世の溝または大土坑と考えられる遺構を検出したので報告する。伏見城跡の調査（22F269）では安土桃山時代の整地層を検出したので報告する。

伏見城跡に関連すると思われる遺構は、伏見城跡の調査（20F557）で2021年の『伏見城跡』の発掘調査で検出した石列の延長部や犬走り、石垣と裏込めなどを検出している。その他、伏見城跡の調査4箇所（19F791、21F607、22F085、22F431）で土坑、造成土、包含層などを検出した。

#### ⑨鳥羽地区（TB）

唐橋遺跡、深草遺跡、鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡、芹川城跡、久我殿遺跡、久我東町遺跡、富ノ森城跡、淀城跡、木津川河床遺跡の10遺跡で31件の調査を行った。

深草遺跡の調査（22S174）で弥生時代の包含層を検出している。他に唐橋の調査（22S141）で時期不明の包含層を検出した。

#### ⑩長岡京地区（NG）

長岡京跡、東土川遺跡、芝ヶ本遺跡、淀水垂大下津町遺跡、旧淀城跡、淀城跡、上里北ノ町遺跡の7遺跡で34件の調査を行った。

左京跡（条坊外）、淀城跡の調査（21S037）では江戸時代末期の礎石と瓦溜めを検出したので報告する。

この他、左京二条四坊十一・十三・十四町跡の調査（21NG424）と左京五条四坊十二町跡の調査（21NG282）では時期不明であるが包含層を検出した。

#### ⑪南桂川地区（MK）

穀塚古墳、革嶋遺跡、檜原遺跡、中久世遺跡、上里北ノ町遺跡の5遺跡で9件の調査をおこなった。

中久世遺跡の調査（22S048）で鎌倉時代の溝を検出している。

#### ⑫京北地区（UK）

愛宕山遺跡と愛宕山遺跡隣接地で調査を行った。

本書では愛宕山遺跡、愛宕山遺跡隣接地の調査（21A004）で平安時代前期の平坦面を確認したので報告する。

（吉本健吾・新田和央）

表2 出土遺物概要表

	Aランク点数 (箱数)	内訳	Bランク 箱数	Cランク 箱数	出土箱数 合計
点数 及び 箱数	143点 (8箱)	土師器47点、須恵器49点、 黒色土器1点、瓦器4点、焼締陶器4点、 施釉陶器5点、緑釉陶器2点、 灰釉陶器5点、軒丸瓦4点、軒平瓦5点、 丸瓦2点、平瓦5点、土製品2点、 金属製品6点、石製品1点、木製品1点	1箱	9箱	18箱

## Ⅱ - 1 平安京左京一条四坊十六町・二条三坊十六町跡、公家町遺跡、京都新城跡（21H356）

### 1. 調査の経緯

本件は、京都御苑内におけるデジタルサイネージ新設工事に伴う詳細分布調査である。設置個所は御苑内の3か所であり、周知の埋蔵文化財包蔵地である「公家町遺跡」、「平安京跡」及び「京都新城跡」に該当する。このうち、顕著な遺構を検出したNo.4～8地点の成果を報告する。なお、これらの地点は上記遺跡のうち、公家町遺跡にのみ該当する。調査は令和4年1月21日から3月8日のうち6日間実施し、合計8地点で図面を作成した。

現在の京都御苑は、江戸時代に公家が集住した公家町におおむね重複している。今回の報告地点である乾御門東側付近には、幕末に北側東側から伏原家、堀河家、舟橋家、近衛家、南側に一条家が屋敷を構えていた（図4）<sup>1)</sup>。

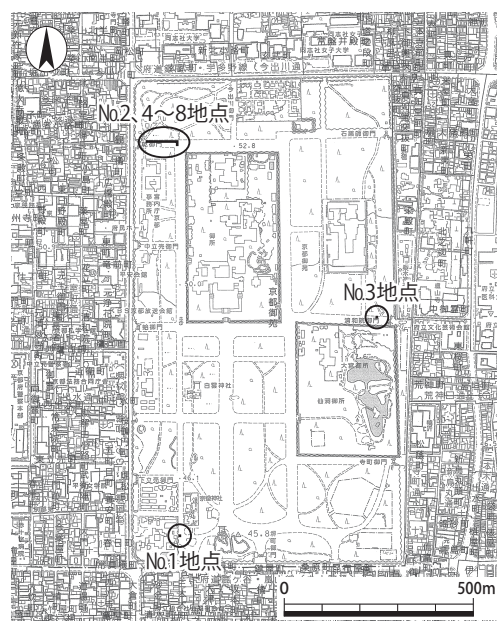


図2 調査位置図（1：20,000）

### 2. 検出遺構

御苑北西部のNo.8地点において、方形の切石が並んでいる状況を確認した。石材は盛土直下のGL-0.23 mに据えられた状態で、2石が並ぶ。同地点ではほかにも多数の石材を検出し、一部は面を揃えて据えている状況であった。したがって、ある程度原位置を保っていると考えられる。南壁際で検出した切石には軸受になると思しき円形の穴が穿たれていた。御苑内の道路は公家町の道路を一定程度踏襲しており、No.4地点では、路面が幾重にも重なっていることを確認している。それゆえ、No.8地点の石材は道路に面して構築されたものと推定でき、石材の軸受が門扉の軸を受けるものと考えれば、ここに門があったと推定するのが自然であろう。No.5～7地点では、同じく盛土直下で焼土を含む土坑を検出している。遺物は確認できておらず、確定はできないが、盛土直下であることから蛤御門の変に伴う元治の大火（元治元年〔1864〕）による焼土の可能性が高く、石材を検出した遺構面は幕末のものと判断する。

元治元年刊行の「内裏細覽之図」（京都市歴史資料館蔵）<sup>2)</sup>では烏丸通から公家町へと入った北側は伏原家、堀河（堀川）家の屋敷が並んでおり、検出位置から堀川家屋敷に伴う遺構である可能性が高い。

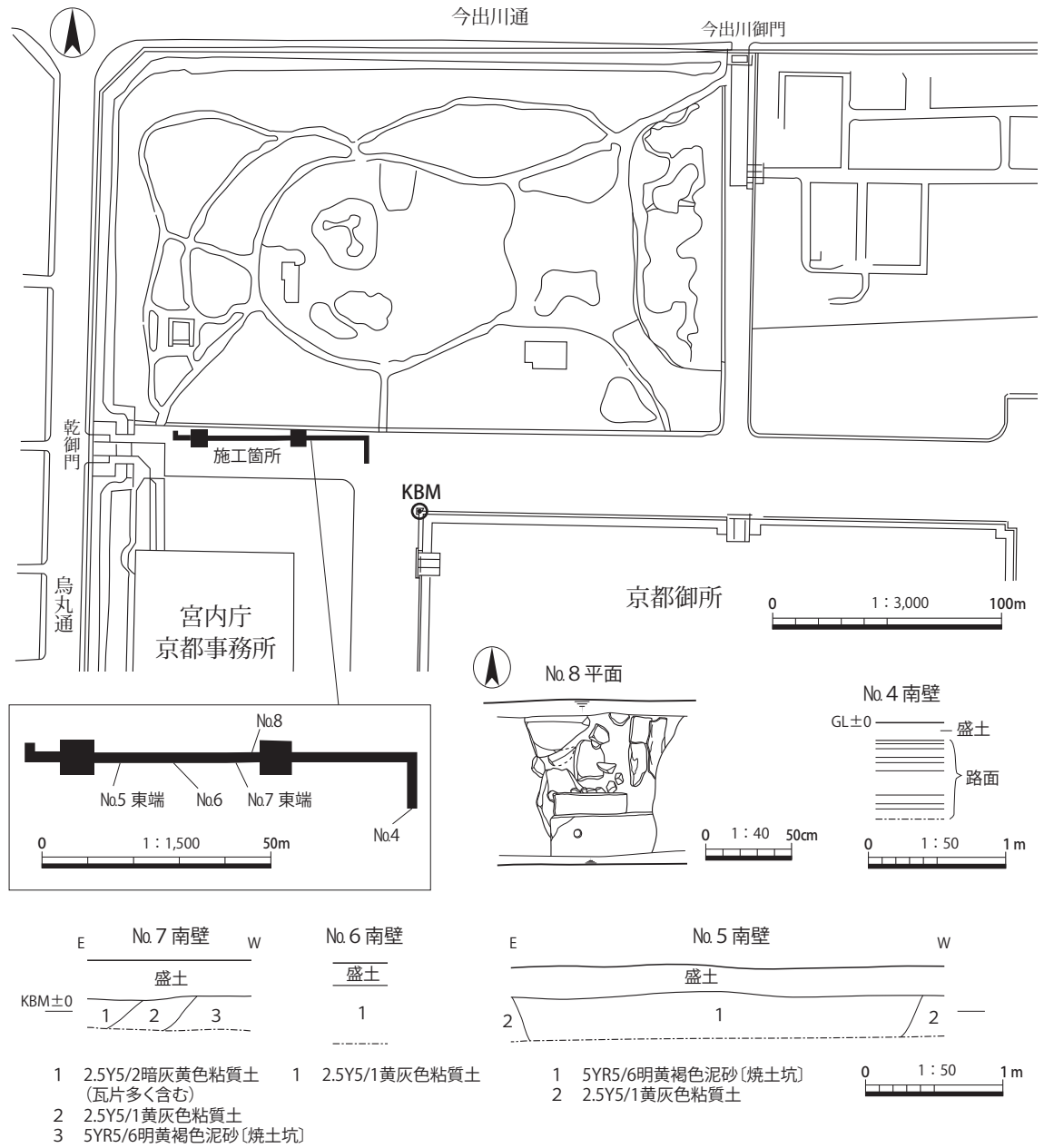


図3 No. 4～8 地点位置図・平面図・断面図・柱状図（スケールはそれぞれに記載）

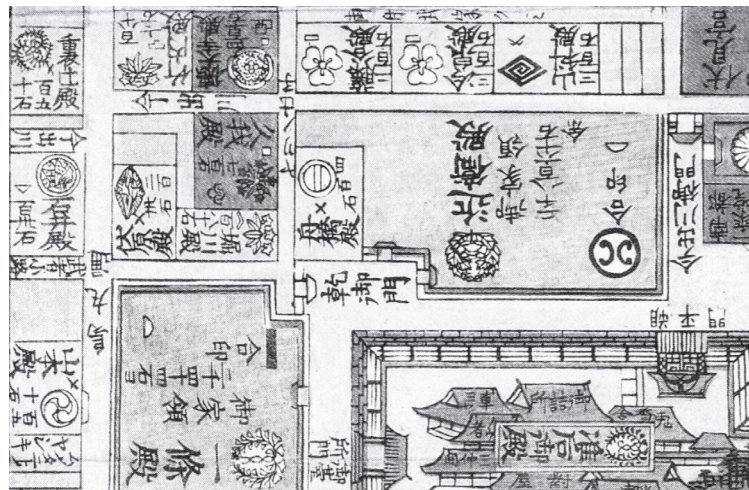


図4 [校正] 内裏細覽之図 元治元年刊（出典：註1 文献）

### 3. まとめ

今回の調査では、公家屋敷の外構に伴う遺構を検出した。工事に伴い、当課が現地で確認した時点で、すでに石材が取り上げられてしまっていた箇所がいくつかある。京都御苑は江戸時代を通じて公家町であり、明治時代以降は公園として整備されたため、遺構の遺存状況が極めて良い。それだけに、小規模な工事であったとしても遺構に影響が及ぶ可能性が高い。京都御苑の情報発信力を高めるための工事によって、地中の遺構に大きな影響を与えては本末転倒と言える。京都御苑の本質的な価値を損ねることのないように工事がおこなわれるよう注視したい。

(新田和央)

註

- 1) 『内裏図集成 京都御所と公家町』叢書京都の史料 14、京都市歴史資料館、2016年。
- 2) 註1に同じ。



図5 門跡検出状況（北から）



図6 門跡検出状況（西から）



## Ⅱ-2 平安京左京二条四坊一・八町跡、公家町遺跡、 京都新城跡、烏丸丸太町遺跡（21H088）

### 1. 調査の経緯（図7）

本件は、上京区京都御苑の南西隅に所在する拾翠亭の保存修理等工事に伴う詳細分布調査である。拾翠亭は、江戸時代後期に九條家の屋敷地に設けられた庭園内に別邸として建てられた茶室である。今回の工事は、茶室である拾翠亭の保存修理が主であるが、これに伴い、拾翠亭の東側に広がる九條池の護岸修理や新規埋設管設置に伴う掘削が行われることとなった。

九條池は、宝永の大火（宝永5年〔1708〕）を教訓にして設けられた「明地」に存在する防火用の「池」が九條家屋敷に取り込まれ、山を借景とした眺めを意識した庭園の池として整備されたと考えられている。池として整備された年代は明らかではないが、安永初期～天保13年（1842）の間と推定している。池の改修はこれまでに大内保存事業の一環で、明治11年（1878）～同13年（1880）に池外周部の石垣の積直しが行われている。また昭和29年（1954）9月～同30年（1955）3月に池の浚渫及び修復工事が行われ、ここでも池外周部の石垣の積直しが行われている。この工事で確認された池護岸や池底の記録が残っている。記録には、地山の礫層の上に10～20cmの粘土がうたれ、粘土の上には10cm程の砂利が敷かれており、池底の最深部は1.7mもあったとある。池汀線を全周する護岸石については、一抱えほどの河原石が、勾配が緩いながらも石垣と表現できるような積み方で、水深1m程まで敷き詰められていたと記されている<sup>1)</sup>。このほか、昭和58年の拾翠亭の改修工事に伴い、一部浚渫や石積の工事、平成6年に護岸石の補修などが随時行わ

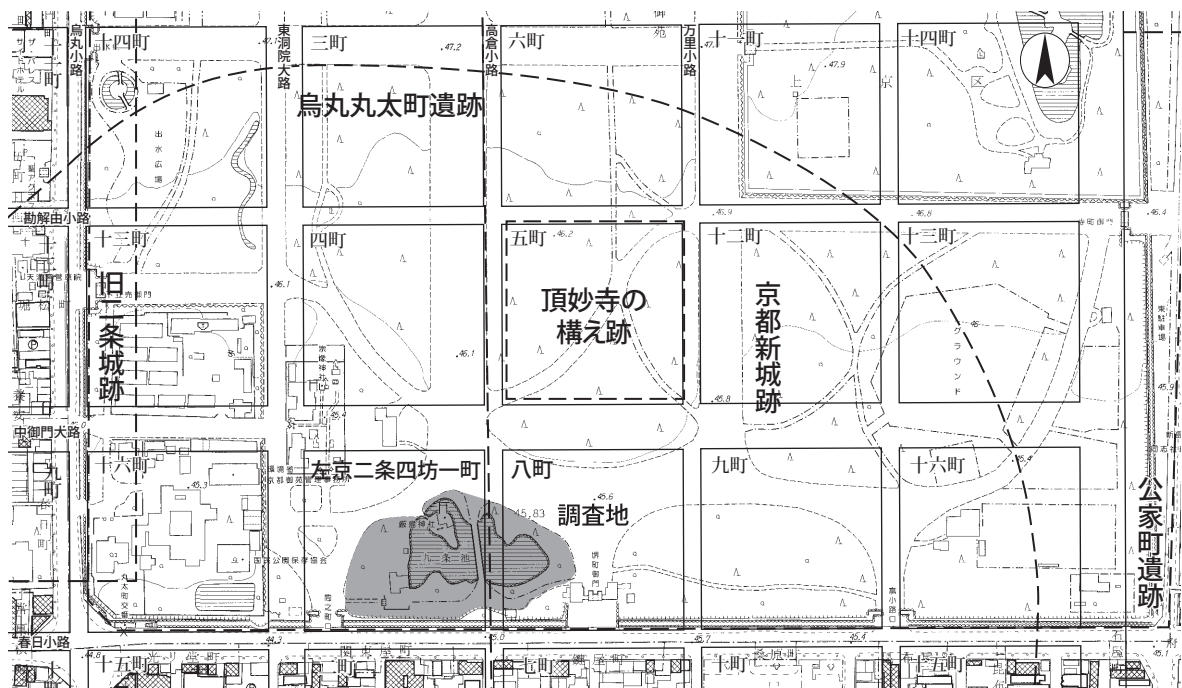


図7 調査位置図（1：5,000）

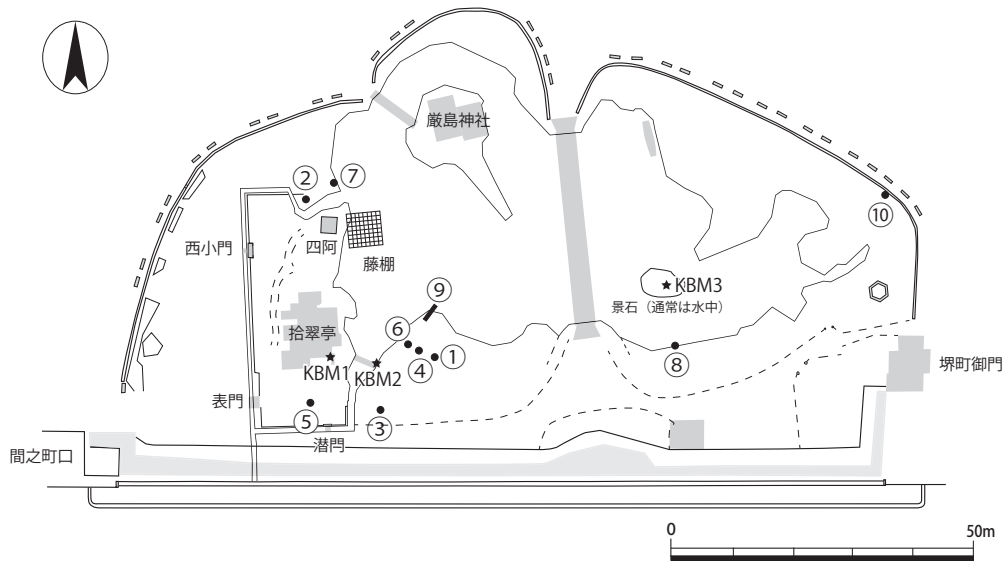


図8 調査地点及び KBM 位置図 (1 : 1,250)

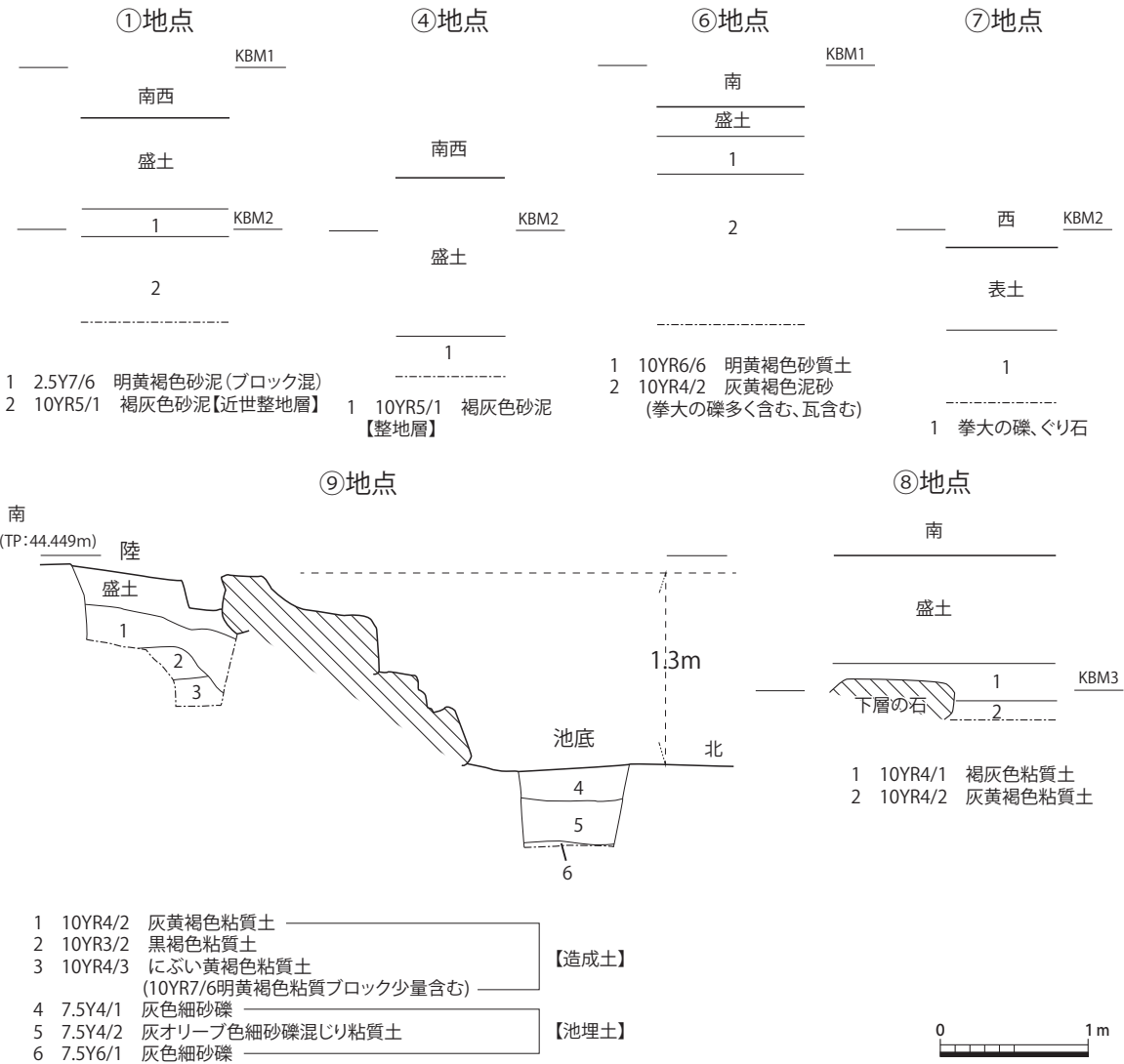


図9 調査地点各断面図 (1 : 50)

れている<sup>2)</sup>。

なお対象地は、平安京左京二条四坊一・八町跡、公家町遺跡、京都新城跡、烏丸丸太町遺跡に該当し、調査期間は、令和3年9月3日から令和4年3月30日である。

## 2. 調査成果

今回の調査では、計10地点の断面観察を行った。10地点中7地点(図8-①～⑥・⑩)は新規埋設管設置などの護岸修理以外に伴う調査で、②、③、⑤、⑩地点では工事掘削深度が、近現代盛土内に収まることを確認し、①、④、⑥地点では、盛土以下、近世包含層などを確認した(図9)。このほか、10地点中3地点(図8-⑦～⑨)は池の護岸修理範囲の調査である。⑦・⑧地点は、護岸石積みの背面部分の断面観察である。⑦地点は池西側に位置し、表土以下、GL-0.21～-0.42mまで護岸石積みの裏込めと考えられる拳大の礫を確認した。⑧地点は池南東部に位置し、すでに護岸石積み1石目の背面の構築土は失われ、2石目の上部が確認できる状況であった。断面観察は石積みの背面にあたる南側で行い、盛土以下、GL-0.29mで褐灰色粘質土、-0.4～-0.47mで灰黄褐色粘質土を確認した。護岸石積みに関する栗石などは確認できなかった。⑨地点は池の南西部にあたる。護岸石積みを挟み、池底部分と池南側の陸部分の断面観察を行なった。陸部分は盛土以下、GL-0.25mで灰黄褐色粘質土(⑨地点-1層)、-0.55mで黒褐色粘質土(⑨地点-2層)、-0.78～-0.95mでにぶい黄褐色粘質土(⑨地点-3層)を確認した。2・3層は、陸部分の造成土と考えられ、これらを覆うように1層が堆積し、さらに、この層が護岸石の下に潜り込んでいることから、1層は護岸石設置のための造成土と考えられる。以上の堆積状況から、池の護岸石と南側の庭部分は一体で構築されていると考えられる。池部は現状池底をGLとし、GL±0.0mで灰色細砂礫、GL-0.2mで灰オリーブ色砂礫混じり粘質土、-0.45～-0.5mまで灰色細砂礫を確認した。いずれも無遺物層で、地山である可能性が高いが、周辺調査成果を勘案すると地山であると断定できず<sup>3)</sup>、池埋土もしくは御苑内で認められる洪水砂層の可能性も考えられる。

## 3. まとめ

今回の調査では、九條池の護岸修理に伴う断面観察を主とした調査を行った。結果、大半の工事掘削箇所が、現代盛土及び近代盛土中に収まることを確認した。九條池のこれまでの工事経過を踏まえると、明治以降の改修工事範囲内に掘削が収まっているものと考えられる。⑨地点では、遺物が確認できなかったが、池南側の陸部分の堆積は後世の攪乱を受けている痕跡は認められず、安永初期～天保13年(1842)の間の堆積である可能性がある。

九條池はこれまでに何度も浚渫、改修、修復がおこなわれているものの、池自体を大きく改変するような工事はなく、池の保全が図られている。将来も、維持管理のための修繕・修復は継続して行われることになろうが、現状を保全しつつ、影響を免れない箇所については、遺跡の記録保存を適切に行っていきたい。

(奥井智子)



図10 ㊸地点（北西から）



図11 ㊸地点断面状況（北西から）



図12 ㊹地点（北から）



図13 ㊹地点護岸石南側苔地部分断面（東から）



図14 ㊹地点護岸石池部分断面（東から）

註

- 1) 尼崎博正「旧九条邸園池の変遷」『京都芸術短期大学紀要』、1983年。
- 2) 尼崎博正「閑院宮邸跡と九條邸跡の園地成立秘話」『京都御苑NEWS』第151号、2022年。
- 3) 昭和29年（1954）に行なわれた浚渫及び修復復工事では、地山が砂礫層であることが確認されているが、地山上面に粘土が打たれ、またその上に数十cmの砂利が確認されている。無遺物砂礫層を確認しているものの、池底に打たれているべき粘土を確認できておらず、地山であると断定できない。  
尼崎博正「閑院宮邸跡と九條邸跡の園地成立秘話」『京都御苑NEWS』第151号、2022年。

## Ⅱ-3 平安京左京三条二坊十一町跡（19H145）

### 1. 調査に至る経緯と経過

調査地は、堀川通と御池通の交差点より南東に位置する。平安京の復元では、左京三条二坊十一町の南辺に相当し、敷地境が綾小路北築地心推定ラインと重なる。今回、この区画に共同住宅の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。

この町域には、平安時代前期に三筆として名高い橘逸勢の邸宅「蛟松殿」が存在したとの地歴が残る。蛟松殿は平安時代中期に右大臣源師房が入手し、その後は娘婿である関白藤原師実<sup>はいまつ</sup>に相続されたが、安元の大火（太郎焼亡・1177年）により焼失したとされており、その後の所有者は不明である。

周辺では、平成29年度に町域の東辺において試掘調査が実施され、GL-1.55mで地山が確認されている（図15-調査①）。ここでは近世以後の削平が著しいものの、室町時代の遺構が一部に残存しており、町内における人々の起居が窺える。また令和2年度には堀川通と姉小路通の交差点の北東区画で試掘調査が行われ、GL-1.3～-2.0mで平安時代～近世の包含層と各時期の遺構面が確認された（調査②）。対象地の南東部では姉小路北側溝もしくは町域内溝と推測される東西溝が検出されており、限定的ではあるものの町内に遺構が残存することが示された。

今回の工事では、まず敷地の四辺に簡易土留めを埋設し、その後、島状に残った中央部をGL-3.0mまで総掘りする工法をとる。このため、土留設置のための筋掘りの段階で立会調査を行ったところ、壁断面に包含層及び遺構が良好に残存することを確認した（図16-No.1地点）。急遽、設計者及び工事施工者と協議し、工事掘削を5エリア（No.2～5）に分けて段階的に行うこと、また遺構群がもっと

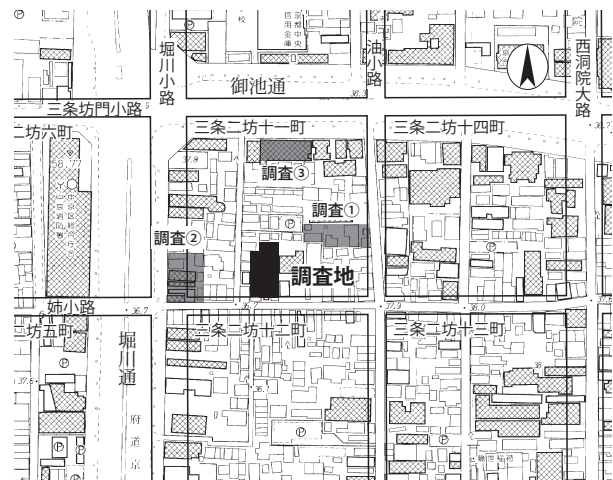


図15 調査位置図（1：5,000）

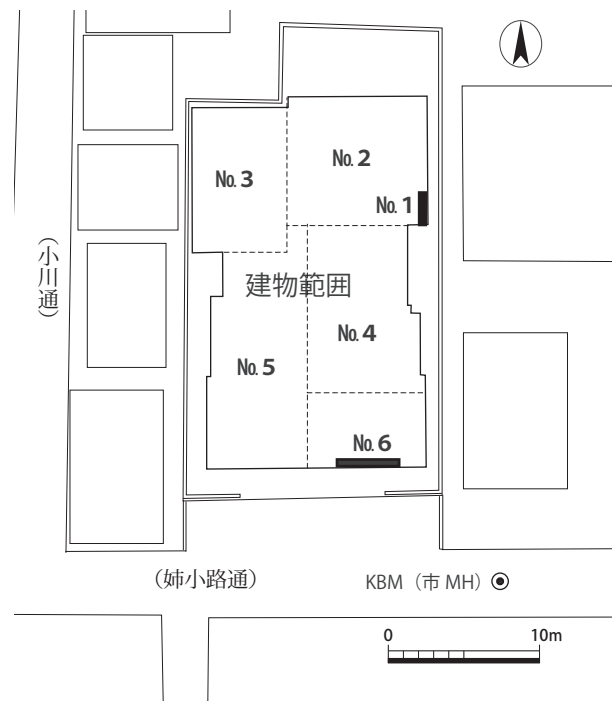


図16 調査地点位置図（1：500）

も稠密に残存する平安時代末期整地層上面レベル（GL-1.0 m程度）で一旦掘削を停止し、平面検出と遺構掘削を完了した後に再度掘削を行う方法をとることとなった。調査の結果、調査区内のほぼ全域で平安時代～近世のピット、土坑、溝、土坑墓等の遺構を検出した。調査期間は2021年11月11日～18日のうち6日間及び2022年1月5日である。

## 2. 調査成果

### (1) 基本層序

基本層序は、現代盛土、近世堆積層、中世包含層、平安時代整地層、自然流路（無遺物層）である。ここでは自然流路を地山として認識した。

GL-0.25 mで黒褐色粗砂混じりシルト（近世堆積層）、-0.55 mで暗灰黄色粗砂混じり粘土質シルト（桃山期～近世初頭包含層）、-0.7 mでオリーブ褐色粗砂混じり粘土質シルト（室町時代後期包含層）、-0.9 mで灰オリーブ色微砂混じり粘土質シルト（室町時代前期包含層）、-1.1 mで灰色微砂混じり粘土質シルト（平安時代末期整地層）、-1.25 mで地山に至る。室町時代前期包含層の上面では室町時代後期の遺構群が、また平安時代末期整地層の上面では平安時代末期、鎌倉時代、室

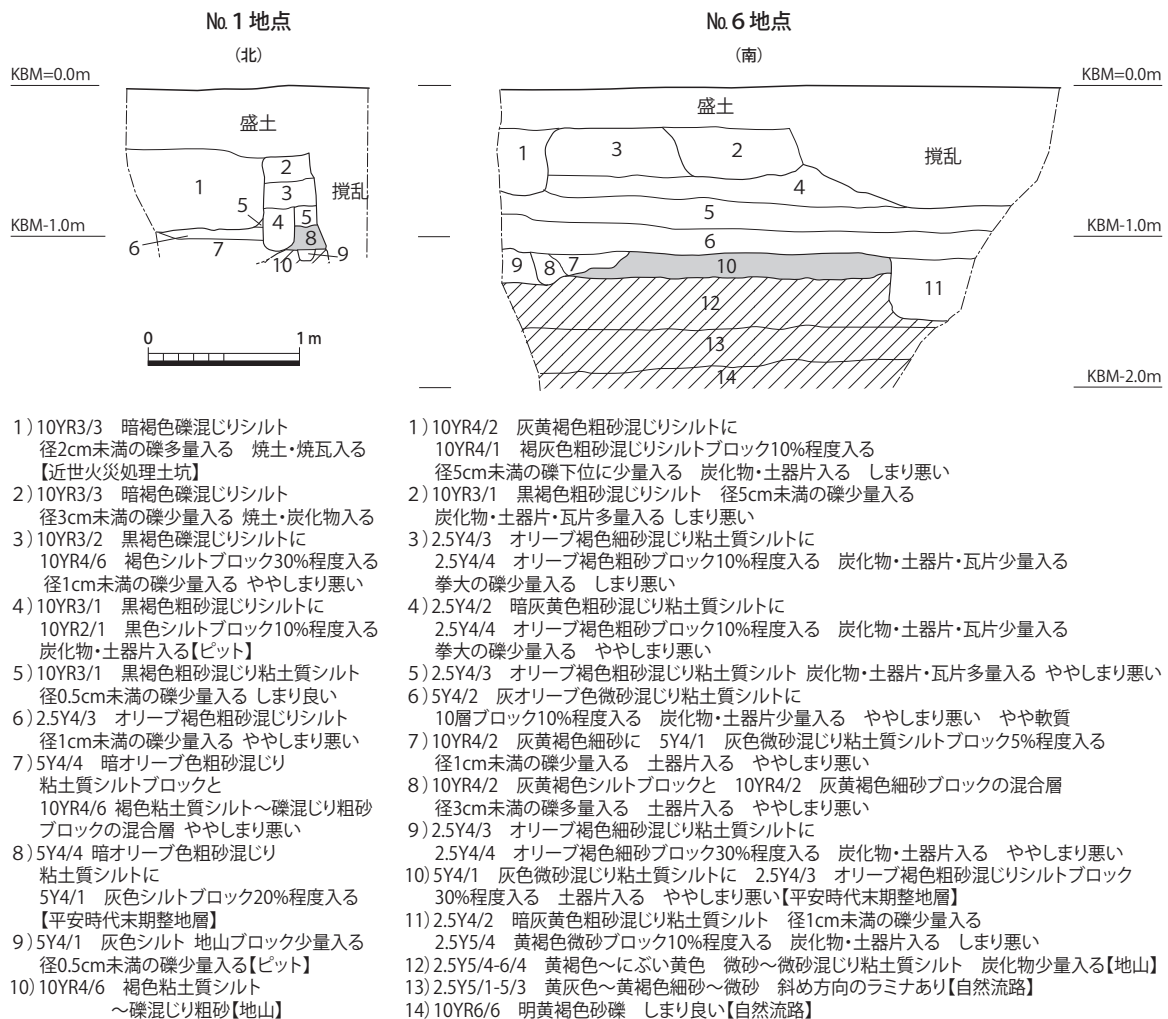


図 17 調査区断面図（1：50）

町時代前期の遺構群の切り込みが確認できる。また僅かではあるが、整地層の下面（地山上面）において平安時代中期以前のピットの成立を確認した。

なお、現地表面はほぼフラットに成形されているが、地山上面及び平安時代整地層は北から南へ向かって緩やかに傾斜している。

## （2）遺構

**土坑 32** No.3区北辺で検出した遺構である。平面形状は、長辺 0.6 m、短辺 0.45 mの隅丸方形を呈する。断面形状は方形で、最大深度 0.25 mを測る。埋土は灰黄褐色砂質シルトを主体とする。遺構内から土師器皿（図 21-9）が出土した。12 世紀の遺構である。この周辺には同時期のピットが集中し、東西方向に連続する傾向がある。建物や柵列が存在した可能性が考えられる。

**柱穴 35** No.3区の西半部で検出した遺構である。平面形状は一辺 0.5 mを測る隅丸方形で、中央に直径 0.2 mを測る柱あたりが残る。残存深度は 0.25 mの椀形を呈する。遺構内から土師器皿（図 21-22）が出土した。14 世紀の遺構である。付近には 14～15 世紀のピットが集中することから、建物が存在した可能性が高い。

**溝 88** 調査区のほぼ中央で検出した小溝である。検出長は 5.9 m、最大幅は 0.4 mを測る。南北方向に主軸をもち、直線的にのびるが、四行八門の地割とは一致しない。区画溝もしくは建物に付随する遺構であると推測される。遺構内から土師器皿、須恵器甕、瓦質土器釜が出土した。15 世紀の遺構である。

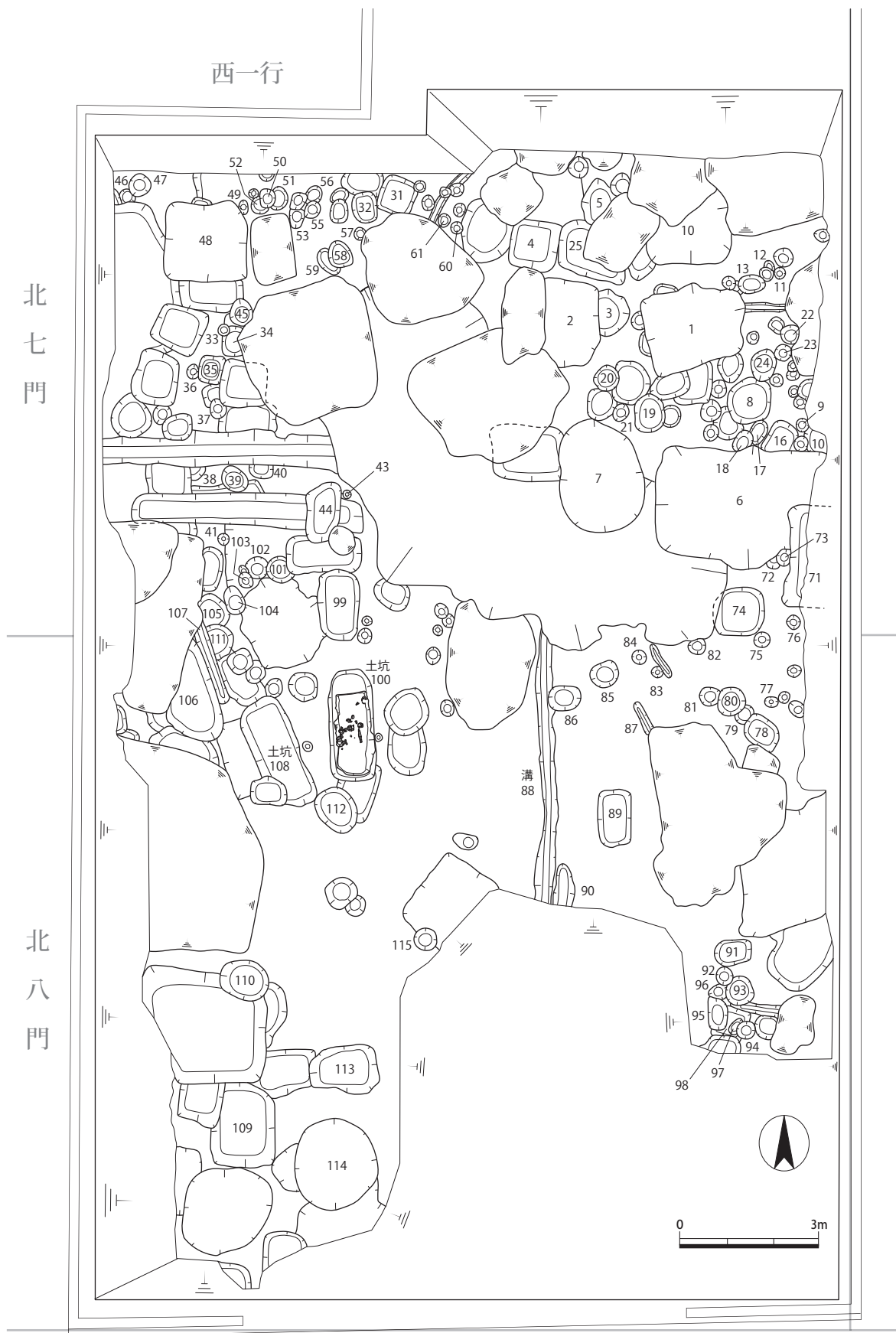
**土坑墓 100** No.4区のほぼ中央で確認した土坑墓である。遺構上端の平面形状は歪な隅丸方形で、最大長 2.4 m、最大幅 1.0 mを測る。その内部南寄りに南北長 1.75 m、東西幅 0.7～0.8 mの規模の掘り方があり（図 19）、さらにその中央部が浅く落ち込む（図 19 破線部分）。下層の下端はほぼ隅丸方形を呈することから、土坑内に棺や側板が設置されていた可能性が高い。

埋土のうち上層は、室町時代包含層であるオリブ褐色粗砂混じり粘土質シルトに近似し、炭と土器片を多量に含む。下層は暗オリブ褐色粗砂混じり粘土質シルトを主体とする。中央部の浅い落ち込みには地山ブロックを含む混合層が充填されており、墓の底面を整えた痕跡（整形土）と推測される。上層からは土師器皿、須恵器甕、白磁碗の破片が、下層からは瓦質土器鍋、土師器皿、白磁皿、鉄製刀が出土した（図 20）。14 世紀後半～15 世紀初頭の遺構である。

**土坑 113** No.5区南辺で検出した土坑である。平面形状は不定形で、南北長 1.0 m、東西幅 1.5 mを測る。最大深度は 0.1 m、断面形状は浅い皿形を呈する。埋土は炭化物と土器片を多く含む。遺構内から、土師器皿が 5 点（図 21-15～19）と須恵器甕、備前焼甕の小片が出土した。大幅に削平を受けているものの、土坑墓であった可能性が考えられる。14 世紀の遺構である。

## （3）遺物

図 20 には、土坑墓 100 より出土した遺物を示した。1～14 は土師器皿である。1 はへそ皿で底部中央を突出させる。2～6 は直径 9～10 cmを測る小皿で、体部外面は指オサエ、口縁部には 1 段ナデを施す。14 世紀の製品である。7・8 は外方へ短く開く器形を有する小型皿である。9～14 は外方へ大きく開く口縁部をもち、外面には 1～2 段のナデを施す。9 は灯明皿で、口縁の



姉小路

图 18 遺構面全体図 (1 : 125)

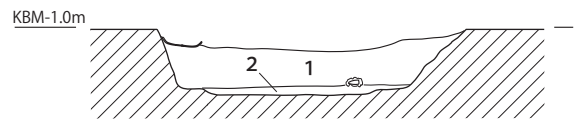
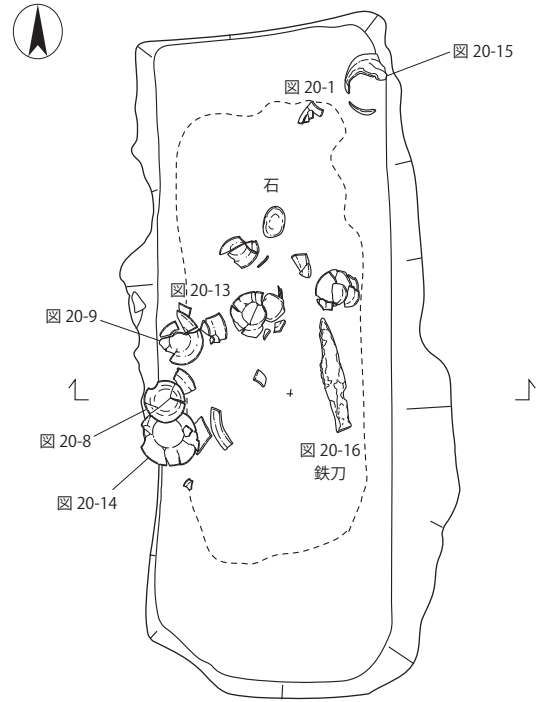


一部に炭化物が付着する。14世紀～15世紀初頭の製品である。

15は瓦質土器鍋でやや扁平な器形をもつ。外面はナデ、内面には横方向のハケを施す。15世紀の製品である。

16は鉄製の刀で、残存長は24.5cm、最大幅2.5cm、最大厚0.7cmを測る。大部分が錆に覆われており、遺存状態は悪く、束や柄の残存は認められなかった。

図21にはその他遺構及び包含層出土の遺物を図示した。1～10は平安時代後期(12世紀)所産の土師器皿である。1・3・4は「て」字状口縁をもつ器高の低い皿である。いずれも口縁端部が厚く、すでに屈曲のシャープさは失われている。2・8は外方へ開く口縁の外面には2段ナデを施す。9は深さのある器形で、やや厚めの器壁をもつ。11は土師器高杯の脚と杯の接合部である。脚部外面には工具による面取りを施す。平安時代の前期の製品である。平安時代後期整地層内より出土した。12は軒丸瓦で内区に複弁蓮華文、外区に珠文を配す。平安時代中期の製品である。14～23は室町時代前期(14～15世紀)の土師器皿である。14



- 1) 2.5Y4/3 オリーブ褐色粗砂混じりシルト  
径1cm未満の礫少量入る  
炭化物・土器片多量入る しまり悪い (下層)
- 2) 5Y4/4 暗オリーブ褐色粗砂まじり粘土質シルトブロックと  
10YR4/6 褐色粘土質シルト～礫まじり粗砂ブロックの混合層  
拳大の礫少量入る 土器片入る  
ややしまり悪い (底面成形土)



図19 土坑墓100 遺構平断面図(1:20)

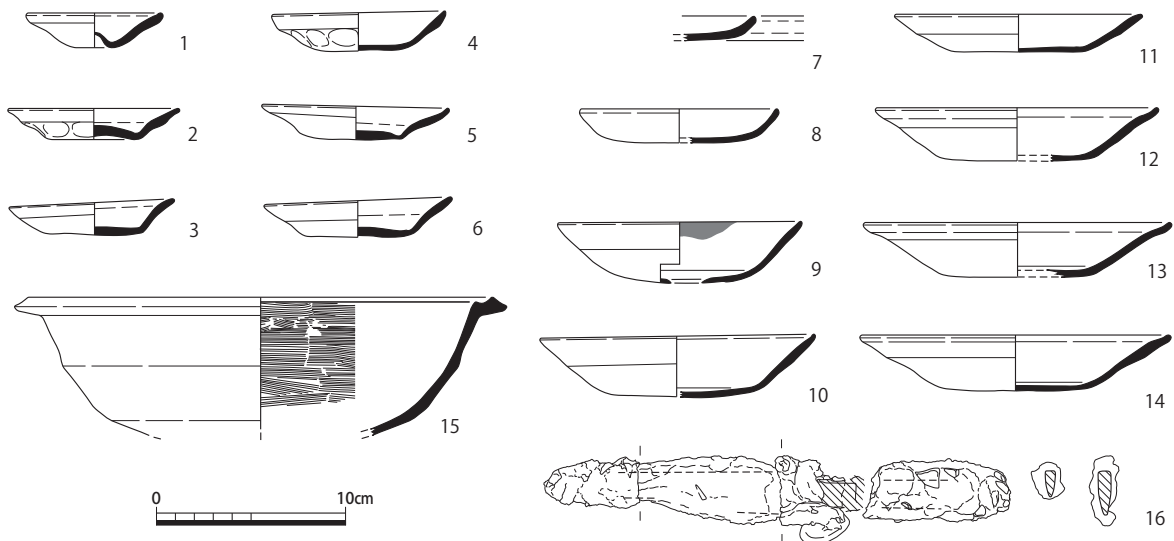
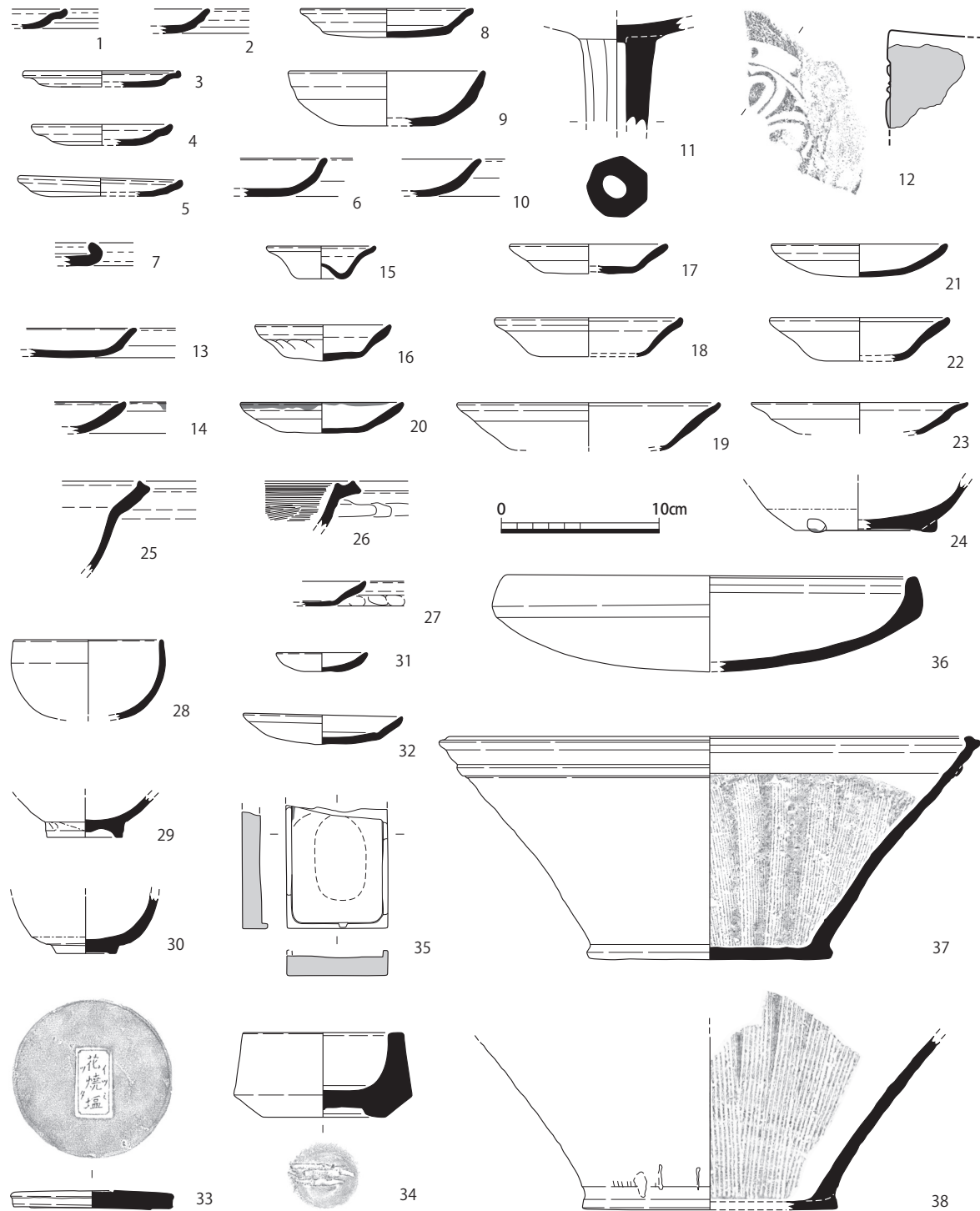


図20 土坑墓100 出土遺物実測図(1:4)

は灯明皿で口縁部に油滴が残る。15 はへそ皿で、底面が大きく盛り上がる。口縁端部は玉縁状に作る。16 は外面下部に強い指オサエ、口縁部に1段ナデを施す。21 は器壁の立ち上がりがやや丸みを帯びる器形を有し、口縁部に2段ナデを施す。これ以外の皿は、やや直線的もしくは反りをもつ



- |               |                      |             |             |             |
|---------------|----------------------|-------------|-------------|-------------|
| 1・2：ピット56     | 3・11・12：平安時代末期整地層    | 4～7：土坑31下層  | 8：土坑95      | 9：土坑32      |
| 10・20：あげ土     | 13：ピット94             | 14・30：土坑71  | 15～19：土坑113 | 21：ピット41    |
| 22：柱穴35       | 23：No.1地点3層          | 24・27：ピット24 | 25：ピット19    | 26：No.3区精査中 |
| 28・29・36：土坑89 | 31・32・37・38：No.6地点2層 | 33：土坑3      | 34：土坑2      | 35：土坑7      |

図21 出土遺物実測図(1:4)

て外方へ開く口縁をもち、口縁端部には1段ナデを施す。

24は瀬戸焼の直縁大皿の底部付近で、玉状の脚を3箇所備える。15世紀の製品である。25は土師器鍋の口縁部で、屈曲して外方へ開く。内外面ともに指ナデで仕上げている。16世紀の製品である。26は瓦質土器鍋の口縁で、蓋受けはシャープに作られている。外面は指オサエ、内面は横方向のハケを施す。15世紀の製品である。27・31・32は土師器皿で、16世紀以後の製品である。31は手捏ねの小皿、32は底部内面に圏線を廻らせる。

28～30は施釉陶器の碗である。28は肥前産、29は京焼である。33・34は焼締陶器で、近世後期の製品である。33は和泉産の塩壺の蓋で、上面に「花焼塩 イツミ フタ」の陽刻が施されている。34の高台内には焼成前の刻書「二」が認められる。35は泥岩製の方形碗で海部は欠損する。使用痕跡（摩滅痕）は顕著に残るが、氏名等の刻書は認められない。36は土師器の炮烙で、丸みを帯びた底面と短く立ち上がる口縁をもつ。

37・38は信楽焼の播鉢である。ともに外方へ張り出すように作る底面から反り気味に立ち上がる器壁をもつ。37の口縁部は屈曲して上方に立ち上がり、端部に面を作る。37の播目は7条、38は6条を1セットとする。16世紀後半～17世紀初頭の製品である。

### 3. まとめ

以上、平安京左京三条二坊十一町跡の調査成果について記述した。今回の調査では調査区内のほぼ全域で平安時代後期～近世の遺構を検出した。特に、鉄刀を副葬する土坑墓の発見は、室町時代にこの町内に居住した人々の性格を知る上で有用な手がかりとなろう。また、平安時代末期に遡る遺構群の集積は、当時の町域が広大な土地利用が可能な藤原摂関家の所有であったことを考慮すれば、邸宅等の構成要素であったことが想定できる。

平安京左京のうち、烏丸通から堀川通までの空間は、近現代の大規模開発を免れたことにより、遺構面が残存するケースが多い。重点的に調査指導を行うべき範囲である。

(黒須亜希子)

#### 引用文献

調査①：京都市文化市民局「VI 調査一覧」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成29年度』、2018年。

調査②：京都市文化市民局「VI 調査一覧」『京都市内遺跡試掘調査報告 令和2年度』、2021年。

調査③：京都市文化市民観光局文化財保護課「試掘・立会調査一覧表」『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 国庫補助による試掘・立会調査報告』昭和54年度、1980年。

赤松佳奈「京都市の様相―発掘事例から垣間見える葬送と信仰―」『墓石ができるまで～中世墓地の展開と近世墓地の成立～』第25回京都府埋蔵文化財研究会発表資料集、2018年。

## Ⅱ - 4 平安京左京三条四坊八町跡、等持寺跡 (21H461)

### 1. 調査に至る経緯と経過

調査地は、押小路通と柳馬場通の交差点より北に位置する。平安京の条坊復元では左京三条四坊八町跡の東辺に相当し、敷地の一部が万里小路にかかる。今回、この区画に共同住宅の建設が計画されたため、詳細分布調査をおこなった。

この町域には、平安時代後期に後白河院の近臣として知られた権大納言源資賢の邸宅のほか、右少将藤原親平の母の邸宅があった。また鎌倉時代には太政大臣源通光の邸宅が存在したとの地歴が残る。その後、室町時代には足利將軍家の菩提寺である等持寺が建立された。

周辺では、平成 14 年度に調査地の南西において試掘調査が行われており、GL-1.7 m で土坑や柱穴を有する鎌倉時代～室町時代の遺構面が確認されている（図 22 調査①）。また、調査地の北西では令和 4 年度に試掘調査が行われており、GL-1.9 ～ 2.3 m の深度において平安時代の整地層が確認されている（調査②）。このほか万里小路を隔てた東側では平成 29 年度に試掘調査が行われ、小路に面した範囲において平安時代～中世の遺構面が複数確認されている（調査③）。以上の成果から、調査地においても GL-2.0 m 付近に平安時代～室町時代の遺構面が残存すると予測された。

調査の結果、対象範囲のうち西半部において包含層及び遺構の残存を確認した。ただし東半部は近世以後の攪乱により、遺構面を検出することはできなかった。

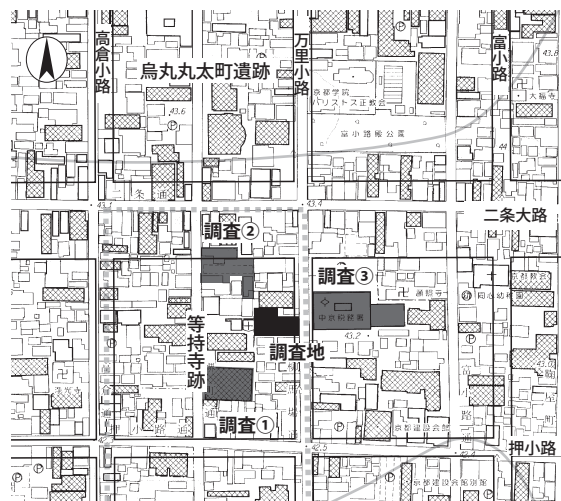


図 22 調査位置図 (1 : 5,000)

### 2. 調査成果

調査は、計 3 箇所断面観察を行った（図 23）。基本層序は GL-2.2 m まで近世堆積層、-2.2 ～ -2.3 m で室町時代包含層があり、その直下にオリーブ褐色微砂混じり粘土質シルトの地山が存在する。地山上面で平安時代前期・平安時代後期・室町時代の各時代の遺構が検出されることから、室町時代に大規模な削平を受けたことがわかる。今回検出した遺構はピットと土坑である。No. 2 地

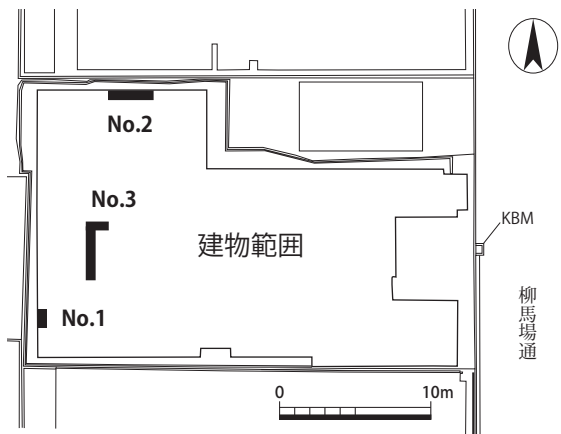


図 23 調査地点位置図 (1 : 500)

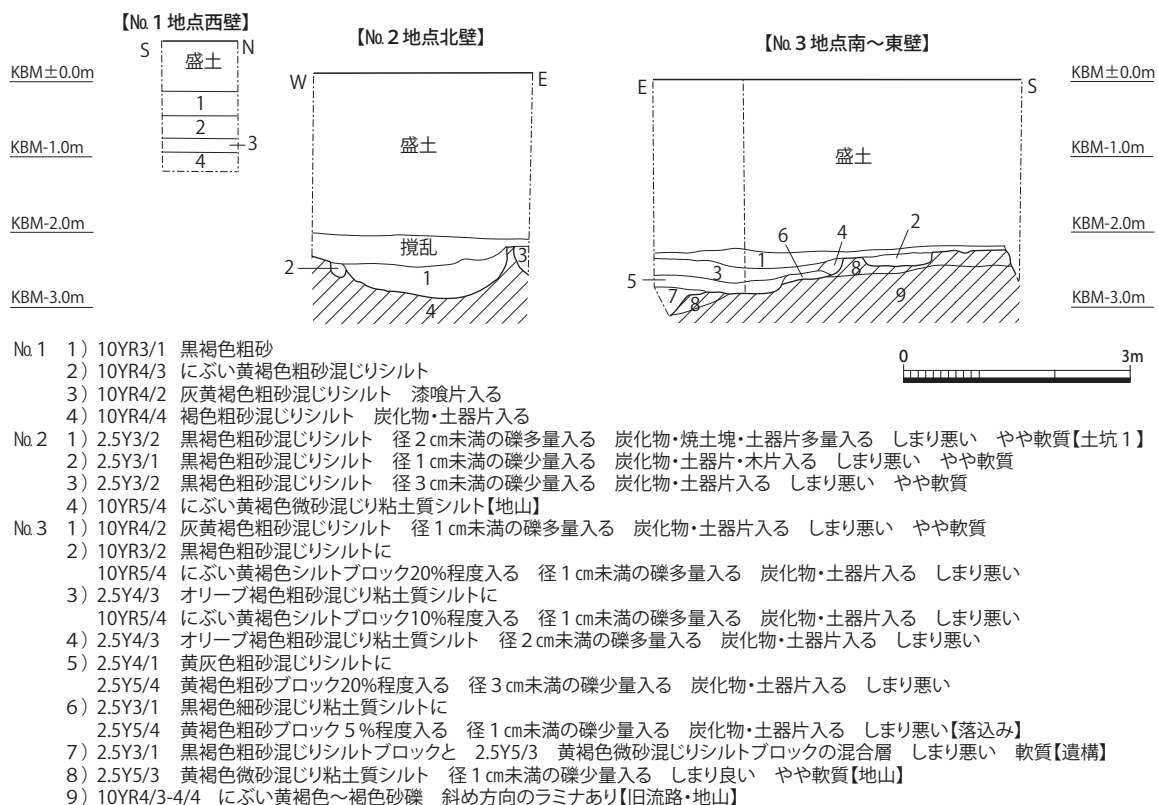


図24 調査地点断面図(1:100)

点の土坑1は、最大幅2.2m、最大深度0.5mを測る。埋土は黒褐色粗砂混じりシルトを主体とし、炭や焼土を多量に含む。鋳型または窯道具と見られる土製品(図25-1)、土師器皿(15世紀)、天目茶碗(図25-2)の破片が出土した。室町時代の廃棄土坑と推測される。No.3地点の落込みは、溝もしくは土坑の可能性のある遺構で、埋土から灰釉陶器皿(9世紀後半・図25-3)、白磁碗、土師器皿(12世紀)が出土した。

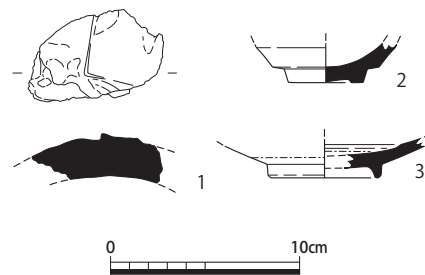


図25 出土遺物実測図(1:4)

### 3. まとめ

以上、左京三条四坊八町跡の調査成果を記述した。この町域には限定的ではあるものの平安時代～室町時代の遺構が濃密に残存する箇所がある。遺構面が地中深くに存在することから、近現代の削平を免れたケースも多い。大規模開発が多発する地域であることを踏まえ、より積極的な情報収集が求められると言えよう。

(黒須亜希子)

#### 引用文献

- 調査①：京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査報告 平成14年度』、2003年。  
 調査②：京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査報告 平成29年度』、2018年。  
 調査③：京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査報告 令和4年度』、2023年。

## Ⅱ-5 平安京左京五条二坊十六町跡、烏丸綾小路遺跡 (22H008)

### 1. 調査に至る経緯と経過

調査地は、四条通と堀川通の交差点より南東に位置する。平安京左京五条二坊十六町の南辺に相当し、敷地の一部が綾小路にかかる。また、弥生時代の大型集落である烏丸綾小路遺跡に含まれる。今回、この区画に共同住宅の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。

この町域の南東部には、平安時代後期に後白河天皇と二条天皇に仕えた権中納言藤原資長の邸宅があったとされる。資長は藤原北家真夏流の嫡流として後に隆盛する日野氏へと系譜をつないだが、中世期における当該地の相続については不明な点が多い。

周辺では、平成5年度に調査地の北隣接地において試掘調査が行われ、GL-0.75～-0.95 mの深度において室町時代～江戸時代の遺構面が確認されている(図26-調査①)。また、調査地の東では平成29年度に試掘調査が行われ、GL-0.75 mの深度において地山が確認されている(調査②)。ただし、いずれの調査においても近現代の削平が著しいとして、発掘調査の指導には至っていない。

以上のことから、今回の調査では遺構面の連続性を確認するとともに、中世以前に遡る遺構の検出を主目的とした。調査の結果、平安時代後期に遡る遺構を検出した。

### 2. 調査成果

調査は、対象地壁面の計4箇所において断面観察を実施した(図27)。基本層序は、GL-0.8 mで黒褐色粗砂混じりシルトの室町時代包含層、-1.0 mでオリーブ褐色細砂混じりシルトに暗灰黄色シルトブロックを含む平安時代後期整地層、以下、褐色細砂混じり粘土質シルトを主体とする地山である。

遺構面は、室町時代包含層の除去面及び平安時代整地層の除去面(地山上面)において確認した。

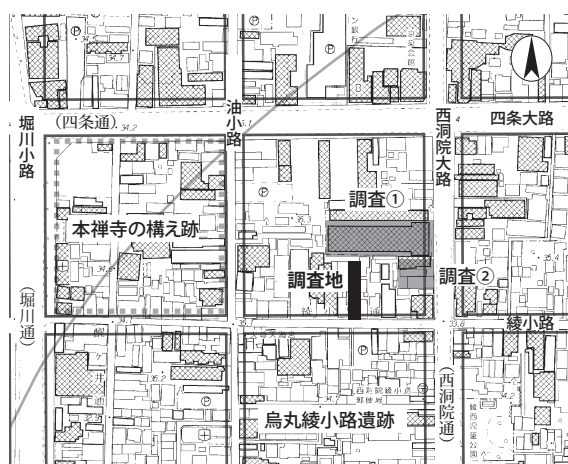


図26 調査位置図(1:5,000)

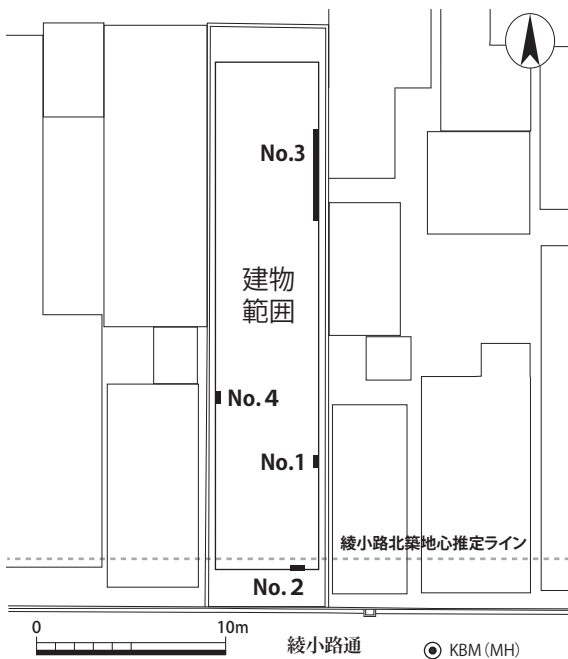


図27 調査地点位置図(1:400)

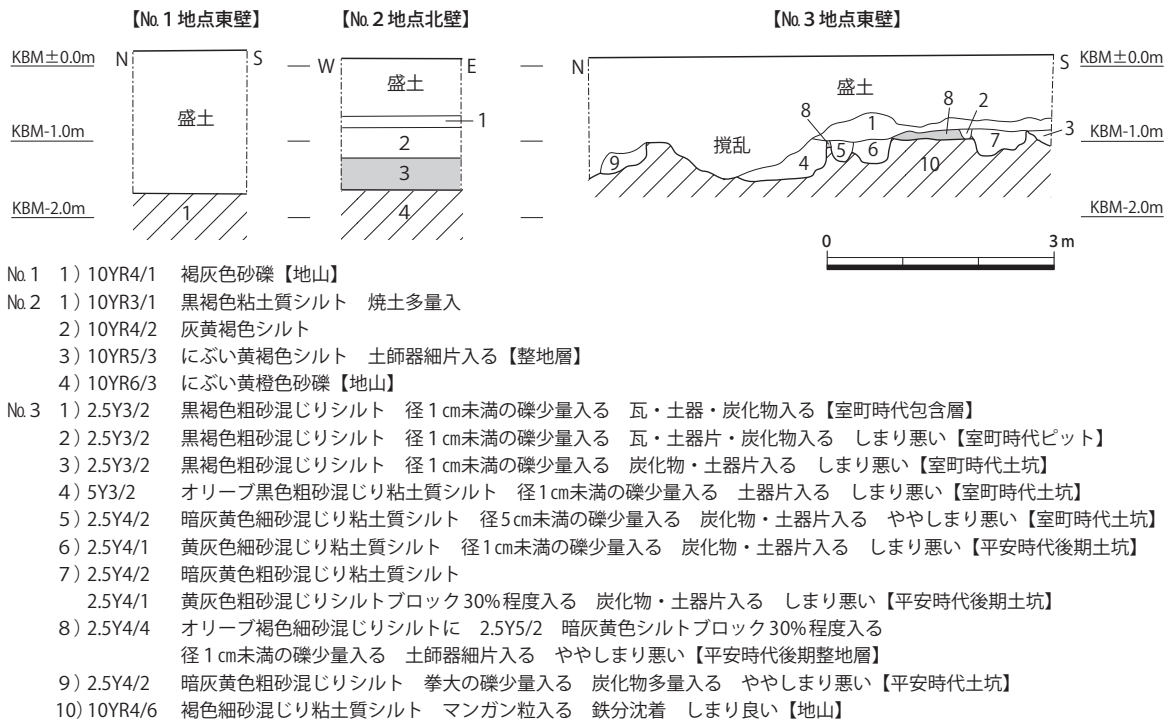


図 28 調査地点断面図 (1:100)

検出遺構は、鎌倉時代～室町時代土坑、ピット、平安時代後期土坑である。室町時代の包含層からは、土師器皿 (14～15世紀)・鍋、須恵器甕が出土した。

遺構はすべてNo.3地点で確認した。No.3地点の6層・7層・9層は、いずれも平安時代後期の遺構埋土である。断面形状は不定形、最大深度は0.3～0.4mを測る。6層からは「て」字状口縁をもつ土師器皿 (11世紀) が出土した。また9層からは、土師器皿と須恵器甕の小片のほか、拳大の礫と多量の炭化物片が出土した。

同3層・4層・5層は室町時代の遺構である。4層は大型土坑で、最大深度は0.5mを測る。遺構内から土師器皿 (14世紀) が出土した。3層からは、土師器皿 (15世紀) が出土した。5層はピット状の遺構で、埋土からは土師器皿 (13～15世紀) が出土した。

なお、出土遺物はすべて小片で、図化することはできなかった。

### 3. まとめ

以上、左京五条二坊十六町跡の調査成果について記述した。これまでこの町域は、近世以後の削平が著しく、遺構の残存状態は非常に悪いとの認識があった。しかし今回の調査では、平安時代後期に遡る遺構が確認でき、その深度と様相をつかむことができた。限られた範囲の調査であるが、当該地の歴史的復元に資するものとして報告しておきたい。

(黒須亜希子)

#### 引用文献

調査①：京都市文化観光局『京都市内遺跡試掘調査概報 平成5年度』、1994年。

調査②：京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査報告 平成29年度』、2018年。

### Ⅲ - 1 醍醐ノ森瓦窯跡（西賀茂山荘）（21S525）

#### 1. はじめに

本件は、北区西賀茂中川上町に所在する醍醐ノ森瓦窯跡の詳細分布調査である。当瓦窯跡は、昭和48年（1973）に区画整理に伴い発見された平安時代前期の官窯で（図29・32調査1）、緑釉瓦の生産地として知られている<sup>1)</sup>。また、遺跡に冠する「醍醐ノ森」の名は、江戸時代前期に造営された「西賀茂山荘」の跡地に鬱蒼と茂る森から名付けられたものである（図30）。

西賀茂山荘は、一条昭良が営んだ山荘で、寛永18年（1641）以降、複数に亘って3万坪に及ぶ広大な土地を買い求め、慶安4年（1651）に完成したとされる<sup>2)</sup>。昭良は後陽成天皇第9皇子で、摂関家である一条家に養子に出され、家督を継いだ後に摂政・関白を2度務めた人物である。承応元年（1652）に出家し恵観と号した。

恵観が寛文12年（1672）に薨ずると、山荘は次男冬嗣に伝領されている。その後冬嗣は、後水尾法皇の計らいによって新たに醍醐家を興し、山荘も醍醐家に継承された。享保14年（1729）には霊元上皇の行幸があったほか、貴顕の来訪が相次ぎ、同時代に造営された修学院離宮、桂離宮と並ぶ成熟した宮廷文化を象徴する空間として著名であった<sup>3)</sup>。

しかし東京奠都に伴い、醍醐家も東京に本邸を構えたため、当地は荒廃し、草木が鬱蒼と茂る森となり醍醐ノ森と呼称されるようになったと推察される。昭和33年（1958）には、森の中に残っ



図29 調査位置図（1：5,000）



図30 醍醐ノ森調査前遠景（北西から）



図31 庭園遺構調査前風景（南東から）



ていた茶屋は解体され、翌年、鎌倉市浄明寺町に移築、同 38 年には国指定の重要文化財に指定されている<sup>4)</sup>。その後醍醐ノ森は、由来を知る一部の周辺住民や研究者を除き、ほとんど知られることも無かった。

## 2. 調査に至る経緯

山荘跡地は、茶室移築後も鬱蒼とした森として残されていたが（図 30）、平成 28 年（2016）夏、その北東隅の一画が開発のために伐採され（図 29・32-調査 2）、隣接地北西部に滝石組と池跡らしい痕跡が残ることが知られることとなった（図 31）。調査 2 地点では、宅地開発に伴う試掘調査を平成 28 年 8 月 5 日に実施したが、盛土及び樹木根による攪乱等により、瓦窯跡を示す遺構、遺物は確認できなかった<sup>5)</sup>。隣接する滝石組の確認を行ったが、聞き取り調査から近代まで存在し

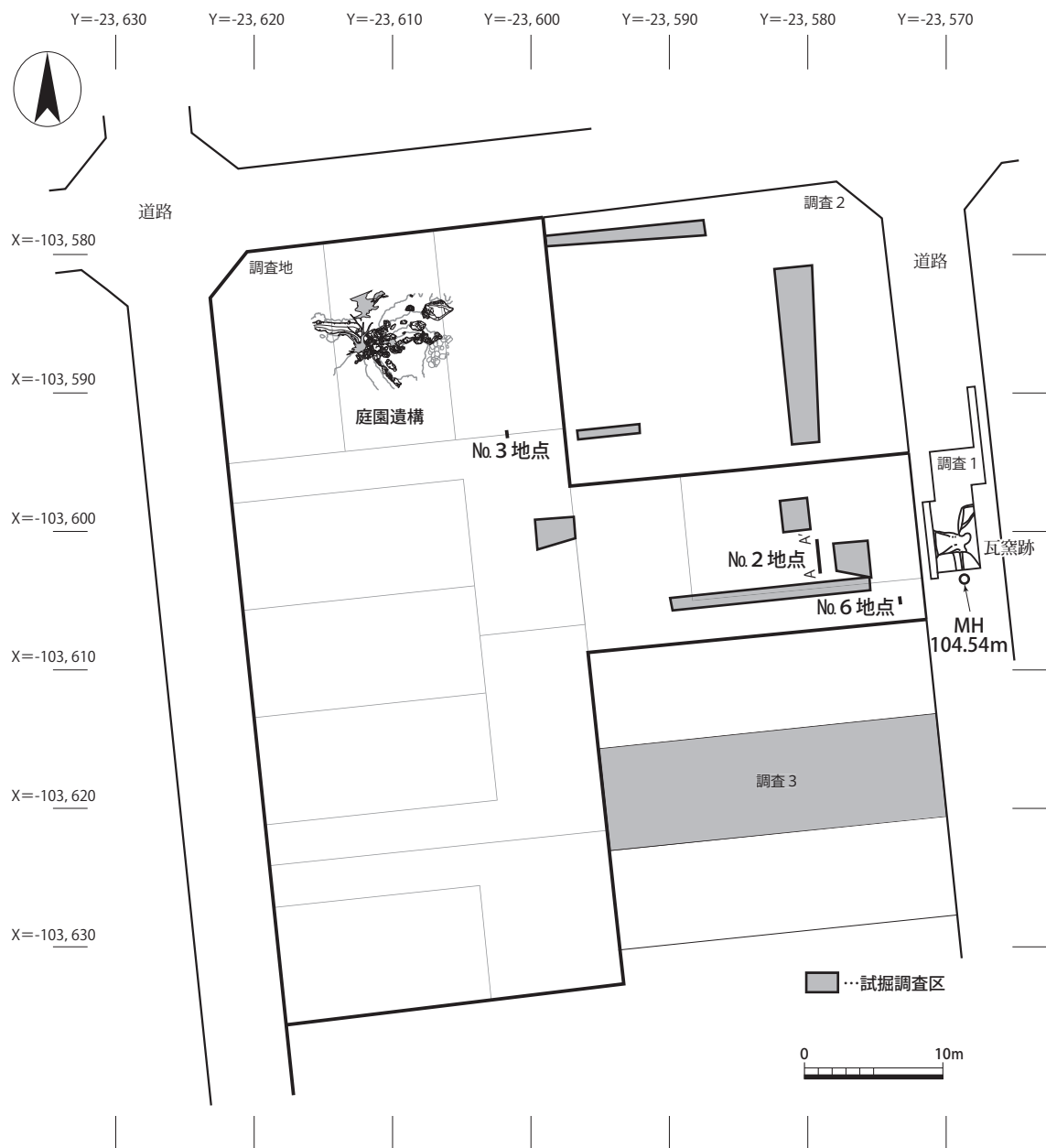


図 32 調査区配置図（1：500）

た山荘の遺構と判断している。

その後、近隣住人から、「醍醐ノ森」には江戸時代前期に造営された西賀茂山荘があり、解体、移築され、重要文化財となっている茶屋とともに、蹲踞などの石造物なども移されており、隣接地に残る滝石組などの庭園遺構も、建物と同様に重要な遺構であるとの指摘があり、調査を実施するよう文化財保護課に申し出があった。しかし、工事計画範囲ではなかったこと、所有者の許可が得られていないことを理由に調査は見送ることとなった。

令和4年（2022）に至り、庭園遺構を含む「醍醐ノ森」全域での宅地開発が計画され、瓦窯跡の包蔵地範囲を対象に、令和4年2月18日に試掘調査を実施した。その結果、瓦窯跡を示す遺構、遺物は確認できなかったものの、東側道路で発見された瓦窯跡に隣接して擁壁工事が計画されていたため、掘削時の立会を指導した。また、滝石組などの庭園遺構も造成に伴い撤去される計画であることから、近隣住人、文化財庭園関係者からの助力を得て、文化財保護課が窓口となり地主及び工事関係者に協力を求め、詳細分布調査を実施することとなった。

### 3. 調査の経緯

庭園調査に先立ち、擁壁工事掘削に伴う詳細分布調査を8月22日から実施した。庭園調査の開始にあたっては、繁茂する樹木及び竹の伐採が必要であったため、工事の進捗に合わせて順次伐採が進められたのを見計らい、9月20日より開始した。また、竹の伐根や表土掘削については、協力者から提供頂いたミニユンボにて進めた。調査は、滝石組を中心に落ち葉、腐葉土の除去を進め、水受石のほか、池護岸石が良好に残ることを確認した。池底の確認、石材の清掃を行い、9



図 33 庭園遺構全景（南から）

月 27 日にはオルソ測量及び写真撮影の記録作業を実施した（図 33）。庭園の調査面積は約 80 m<sup>2</sup> である。

## 4. 遺構

擁壁工事に伴い、瓦窯跡に隣接する敷地東端を中心に調査を実施した（図 32・34）。

**No.2 地点** 調査前の地表面は、瓦窯が発見された東側道路と比高約 2 m あり、標高 106.5 m である。盛土以下、GL-1.2 m でにぶい黄褐色泥砂、-1.3 m で明黄褐色シルト、-1.45 m でにぶい黄褐色泥砂、-1.6 m で土師器細片を含むにぶい黄褐色泥砂となる。にぶい黄褐色泥砂には、長さ 0.4 m、厚さ 0.15 m の上面が扁平な河原石を確認した。掘方は認められなかったが、礎石の可能性はある。石材上面の標高は 105.0 m である。なお、瓦窯跡に隣接する敷地東端にて、平安時代前期の平瓦細片を表採した。

**No.3 地点** 庭園遺構東側の擁壁工事に伴い実施した。盛土以下、GL-0.67 m で灰色泥土の湿地状堆積となる。湿地状堆積上面の標高は 105.79 m となる。

**No.6 地点** 盛土以下、GL-0.24 m で土師器片を含む褐色泥砂、-0.52 m で黄褐色粘質土の地山となる。地山上面の標高は 103.98 m である。

**庭園遺構（図 35～39・巻頭カラー写真図版 1）** 敷地北西部で確認した。北西から南東に向きを持ち、導水路跡（溝 3）、2 基の滝石組（滝 1・2）、護岸石を伴う。池底の標高は 105.4 m である。

**滝 1** 庭園西側に位置する落差 2.3 m を測る滝石組である。溝 3 から引水する。滝口の水落石は幅 0.5 m、厚さ 0.06 m の扁平な花崗岩で、水流部分を凹ませている。なお断面観察から、水落石は樹木の根により上方に傾いている。鏡石は、上部に高さ 1.4 m、幅 0.65 m のチャート、下部に高さ 0.75 m、幅 0.65 m の砂岩を組み合わせる構築し、鏡石の左右には複数のチャート、砂岩を添える。滝壺には 0.5 × 0.4 m の橙色のチャートを水受石に用い、下流には、0.55 × 0.4 m のチャー

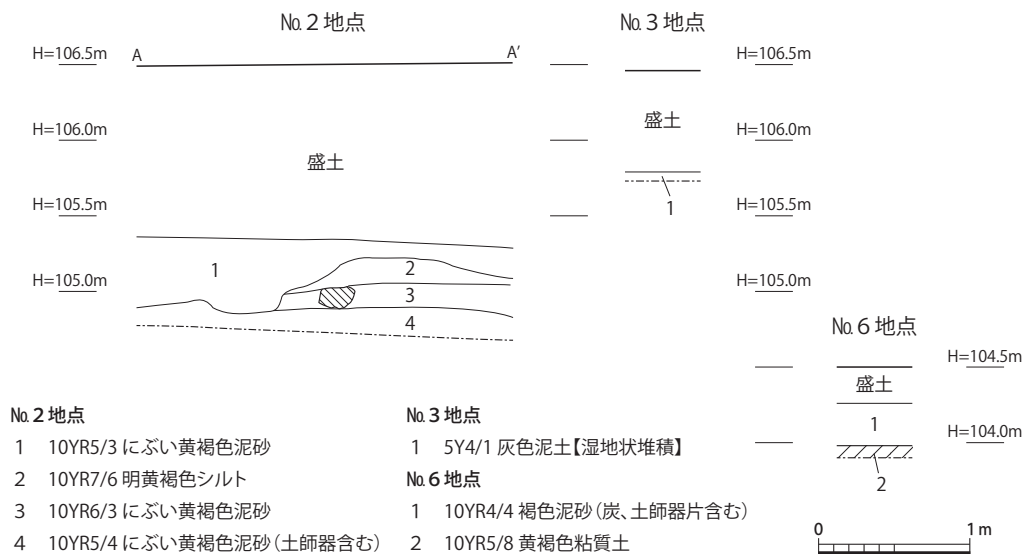


図 34 詳細分布調査実測図（1：50）

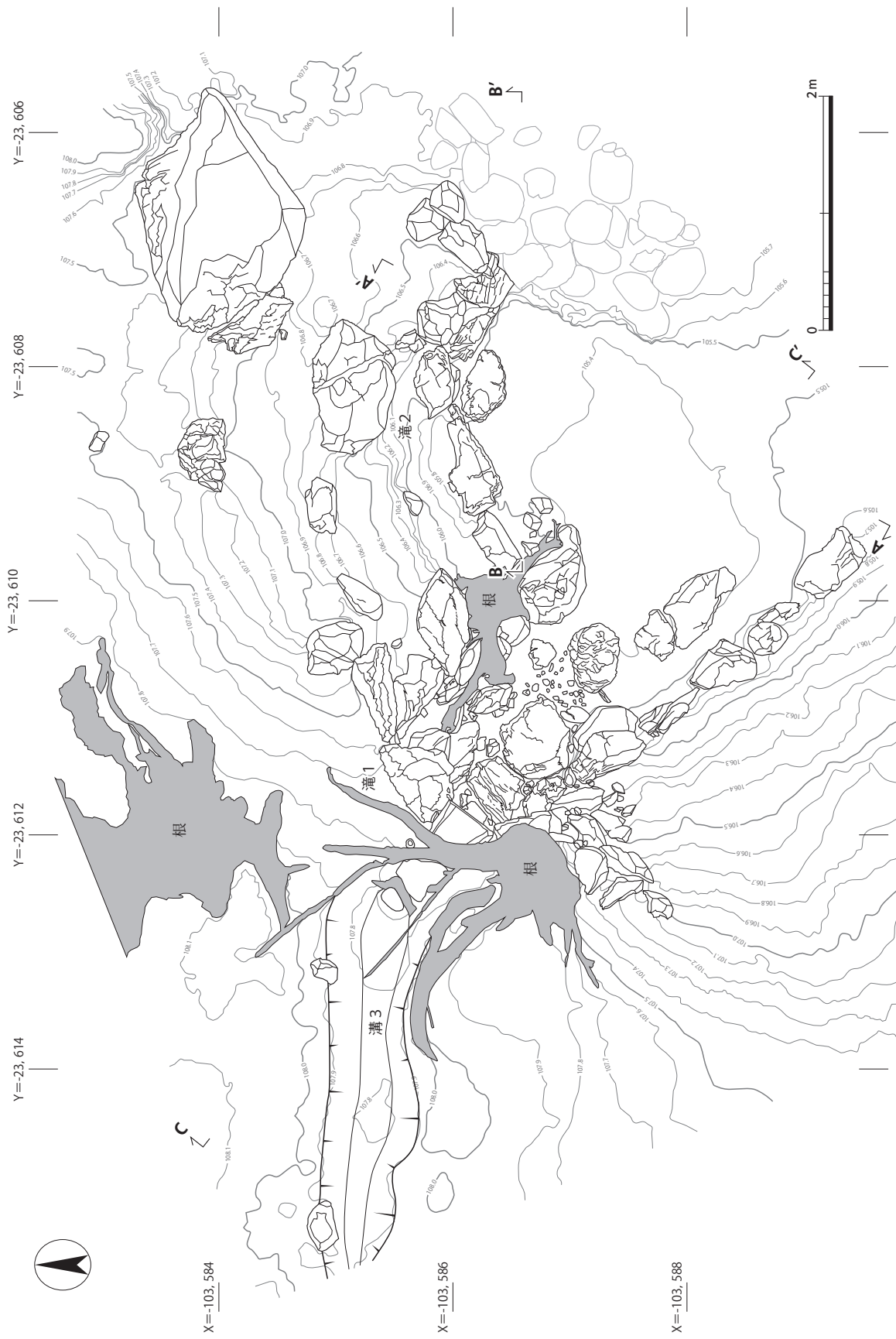


图 35 庭園平面図 (1 : 50)

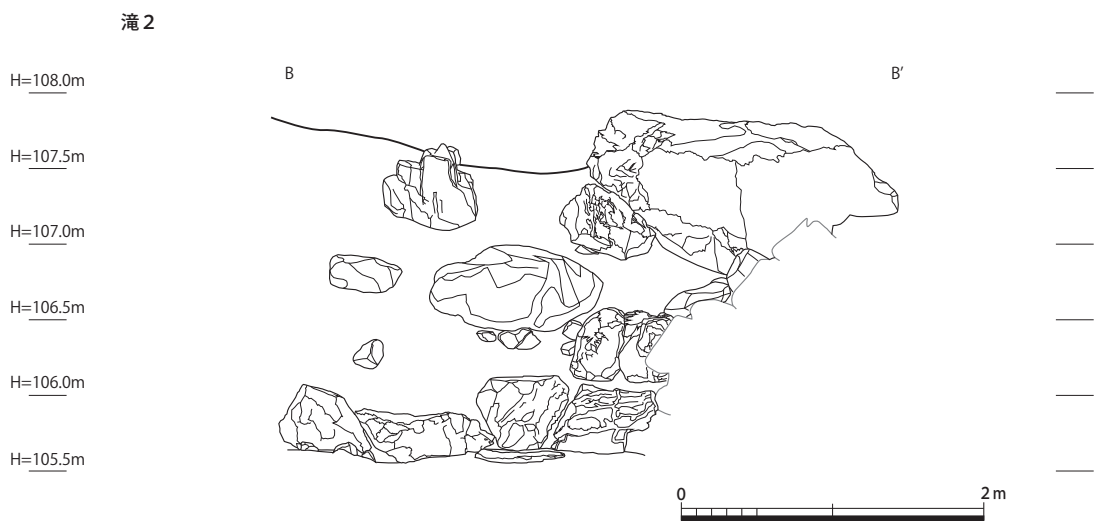


図36 滝1・2立面図(1:50)

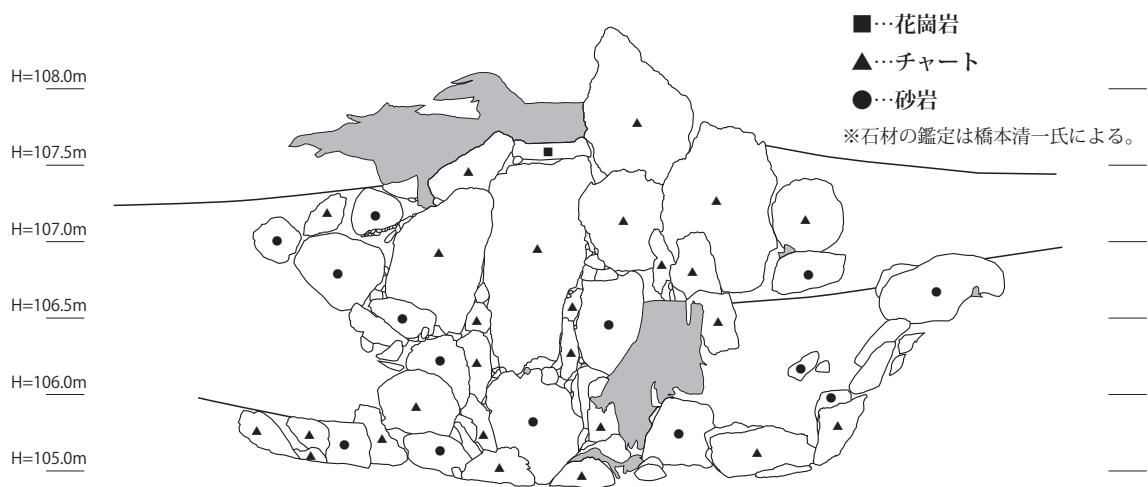


図37 滝1石材(西から)

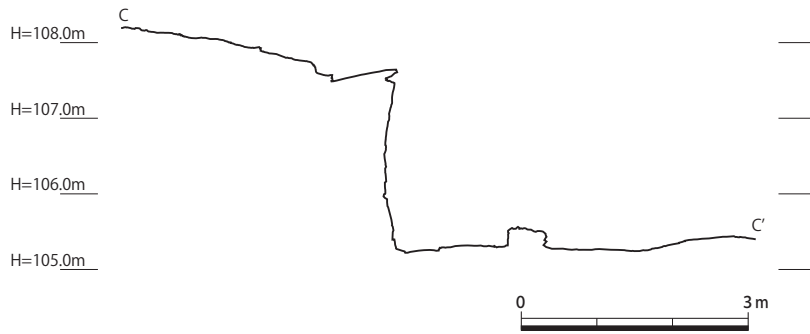


図38 滝1エレベーション図（1：50）

トの水分石を据える。

**滝2** 庭園北側に位置する滝石組である。導水路は不明であるが、滝流れの途中に長さ1.1m、厚さ0.5mの砂岩を横たえて水分石とし、鏡石の左右に水を分け、滝壺には0.6×0.3mのチャートを据えて水受石としている。調査中、地元古老の言により、かつてこちらにも水流があったとの証言が得られた。

**溝3** 滝1に導水するための東西方向の溝で、凹みとして残る。現状で幅0.8m、深さ0.15m以上を測り、滝1上部へ続く。溝肩口に長さ0.2～0.4mの河原石が点在しており、水路に伴う護岸石の残欠である可能性も考えられる。

## 5. まとめ

今回の調査では、醍醐ノ森瓦窯に関する顕著な遺構、遺物は認められなかったものの、近世前期に造営された西賀茂山荘跡地に残された庭園遺構の記録作業を実施した。

ここでは、周辺調査事例及び史料を踏まえ、確認した庭園遺構について若干の考察を試みる。西賀茂山荘は、一条昭良が趣向を凝らして造営した山荘で、3万坪に及ぶ広大な敷地を占めていた。往時を伝える古図には、数寄屋の主屋のほか複数の建物と池があったことがわかり<sup>6)</sup>、山荘を伝領した醍醐家の記録からも、「葦之池」や「宮ノ池」、「奈古會ノ池」の名が認められる<sup>7)</sup>。大正年間の都市計画図において、当地付近に屋敷と池が描かれ、さらに北東や北西にも池があることから往時の姿が偲ばれよう。No.3地点でも、標高105.79m以下に湿地状堆積が認められ、池底の標高が105.4～105.5mであることを鑑みると、調査地点よりもさらに東側に庭園が広がっていたこ



図39 滝2全景（南から）

とを示している。また、瓦窯跡を調査した昭和48年頃には東側は湿地帯であったとの記載があり<sup>8)</sup>、庭園が広範囲に展開していたことを示している。庭園と主屋との関係性については、No.2地点断面で確認した石材は礎石の可能性があり、図29-調査3で瓦が多量に出土していることから<sup>9)</sup>、今回確認した庭園遺構の南東側に建物群が展開していた蓋然性は高い。滝1や2が南からの視点を主景としていることからこれを裏付けられる。水系については、溝3の存在から西の山側から導水していたことは間違いない。山荘東側には、昭良の異母兄である後水尾上皇が建立した霊源寺が所在し、近代まで境内に園地が広がっていたことから、ここから導水していた可能性があるだろう。

以上、かつて広大な敷地を誇った西賀茂山荘で唯一残されていた庭園遺構について考察を述べた。今回の庭園調査は、その価値を見出した近隣住人からの申し出が無ければ、存在を知られること無く消滅していたことは間違いなく、皇室に連なる当代一流の文化人が営んだ庭園を記録保存に留めざるを得なかったのは痛惜に堪えない。近世の宮廷文化は、都であった京都で育まれたものであり、今後関係する遺跡、旧跡の保全に取り組むことが求められよう。

(吉野裕仁・鈴木久男・西森正晃)

#### 註

- 1) 『西賀茂瓦窯跡』平安京跡研究調査報告第4輯、(財)古代学協会、1978年。
- 2) 堀口捨己『茶室研究』復刻版、1987年による。出典は山荘を伝領した醍醐家が編纂した『温故録』であるが、原典を当り得なかった。
- 3) 「元陵御記」『列聖全集』御撰集一、列聖全集編纂会、1915年。
- 4) 註2) 『茶室研究』に茶屋移転及び再建の経緯が述べられている。
- 5) 「一覧表 (No.98)」『京都市内遺跡試掘調査報告書 平成28年度』、京都市文化市民局、2017年
- 6) 註2) による。
- 7) 註2) に引く『温故録』には、「舟着」や「舟宿」の記載があるほか、同書を書いた醍醐冬香が名付けたとされる「扇ノ滝」の名も認められる。想像の域を出ないが、今回確認した滝2は、その姿から「扇ノ滝」を指している可能性がある。
- 8) 註1) P.136
- 9) 「一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』京都市文化観光局、1991年による。ここでは鎌倉～安土桃山時代の瓦としているが、原図を確認したところ、棧瓦でも良いとの記載があり、西賀茂山荘内の建物に伴うものと捉えられよう。

調査協力者・団体 (敬称略・五十音順)

尼崎博正・柏田由香・(株)環境事業計画研究所・(公財)京都市埋蔵文化財研究所・近藤奈央・鈴木久男・仲隆裕・橋本清一・樋口造園(株)・前田義明・南孝雄・宮原健吾・村井伸也・吉野惇平・吉野裕仁・吉村龍二・吉村悠

記して感謝申し上げます。

## Ⅲ-2 木野墓窯跡（19A002）

### 1. はじめに

平成30年8月26日に発生した台風21号は非常に強い勢力を保ちながら徳島県南部に上陸し、その後、近畿・北陸地方を通過、9月5日には日本海沖で温帯低気圧に変化した。台風21号が日本列島各地にもたらした被害は甚大で、近畿地方を中心に大規模停電や倒木等が発生し、なかでも大阪府の関空島への浸水や関空連絡橋への船舶衝突などは記憶に新しい。

本報告の対象とした木野墓窯跡が位置する丘陵地（岩倉幡枝町）においても、倒木や土砂流出の被害があり、木野墓窯で生産・投棄されたと考えられる須恵器片や瓦片などが広範囲にわたって露出・散乱する状況にあった。そこで、京都市文化財保護課は遺物の散逸を懸念して、令和元年～4年にかけて踏査を実施した。

木野墓窯跡は宝ヶ池の北側、長代川右岸にあたる丘陵の南斜面に位置する瓦陶兼業窯である。1930年に木村捷三郎氏によってその存在が確認され、1960年には電気探査が行われたようである<sup>1)</sup>。その後、本格的な発掘調査の実施に至っていないが、1979年から1985年にかけて京都大学考古学研究会が踏査・測量・遺物の採集を行い、その調査成果が報告された（以下「京大報告書」と称す）<sup>2)</sup>。京大報告書によれば、遺物の散布が2個所に集中（ $\alpha$ ・ $\beta$ 地点）し（図41）、それぞれに灰原と思われる黒灰土が認められたとする。さらに、遺物散布地一帯の傾斜が約15度と緩やかであり、灰原と推測した土層が斜面上方まで見られることから、窯体の中心は丘陵地の上に築かれた墓地の位置にあったと想定された。また、採集された須恵器の特徴から木野墓窯跡の操業開始時期を7世紀第三四半期頃と想定し、軒丸瓦や平瓦の調整痕跡の特徴から、岩倉地域に点在する御用谷窯やケシ山窯、栗栖野5・6号窯の工人集団との関係性についても言及している。

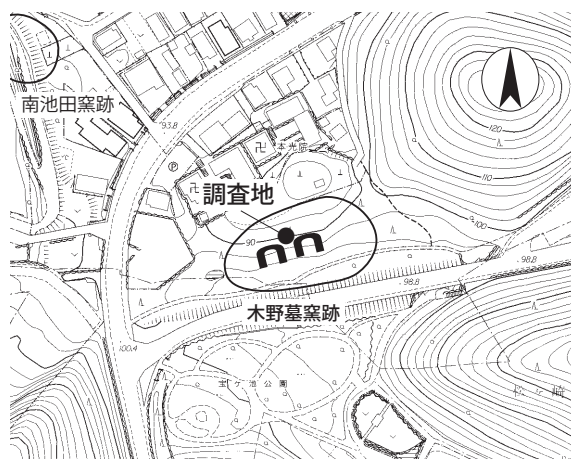


図40 調査位置図（1：5,000）

### 2. 遺物（図42～44）

今回の踏査では、コンテナ4箱分、破片にして約280点の遺物を採集した。遺物の内容は、須恵器が大半を占め、次いで瓦類となる。また、少量の窯体片のほか、緑釉陶器を1点採集している。なお、須恵器の器種及び平瓦凸面の叩き板の痕跡は、京大報告書内で提示されている分類に準拠する（以下、「京大分類」と称す）<sup>3)</sup>。

**土器類（図42・43）** 土器類は灰原を中心に散布する。特に明記しない限り、採集地点は灰原付近である。土器類は、23の緑釉陶器を除き須恵器である。1～15は杯蓋である。全てかえり



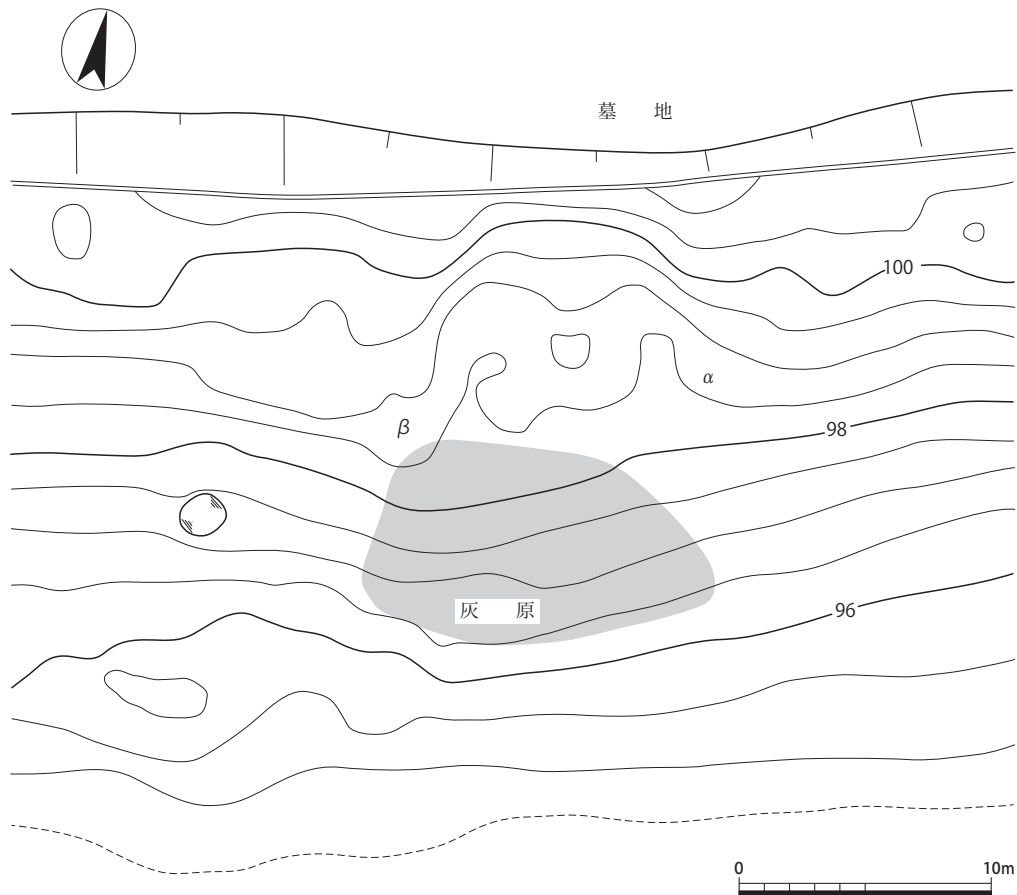


図 41 木野墓窯付近地形測量図（1：300） 1985年京都大学考古学研究会測量

を持ち、つまみ部分が残るものは宝珠形を呈する。口縁端部は丸みを持つが、11は端部がやや外反する。器高は低く、扁平なものが多い。口径は9.8～21.4cmのものもあるが、主体は12cm台と14～15cm台である。16～22は杯Aである。口縁端部がやや外反するもの（16・17・20）と直線的に立ち上がるもの（18・21・22）がある。口径は6.8～12.9cmとばらつきがある。底部が残存するもの（18・19・21・22）は、外面にヘラ切り痕を残す。23は灰原の東側約50m地点で採集した平安時代前期の緑釉陶器碗の底部である。高台径は7cm。24～27は杯Bの底部である。高台端部は外側に張り出し、強く踏ん張る。28～30は長頸壺で、28・29が口縁部、30が底部である。口径は28が7.7cm、29が9.9cmで、30の底径は12.2cmである。30の高台端部は外に張り出す。31は短頸壺で口径12cmである。32～37は甕である。口縁端部を肥厚させるもの（32・33）と端部外面下半に突帯を貼り付けるもの（35～37）がある。33は体部にカキメ調整を施す。34は頸部から口縁部にかけて大きく外反するが、これは被熱による歪みである。35～37は口縁部外面直下に櫛描き波状文を施す。波状文は7～9本で一組となり、二条の沈線の中に施すものが大半である。34・36は、体部内面には同心円状の当て具痕が残る。須恵器の年代は、7世紀第三四半期に属するものである。

**瓦類（図44）** 今回表採した瓦は丸瓦1点、平瓦16点、不明1点の合計18点である。このうち、紙幅の関係から5点を掲載した。瓦の採取地点は平瓦3～5がα地点で、残りは灰原付近である。

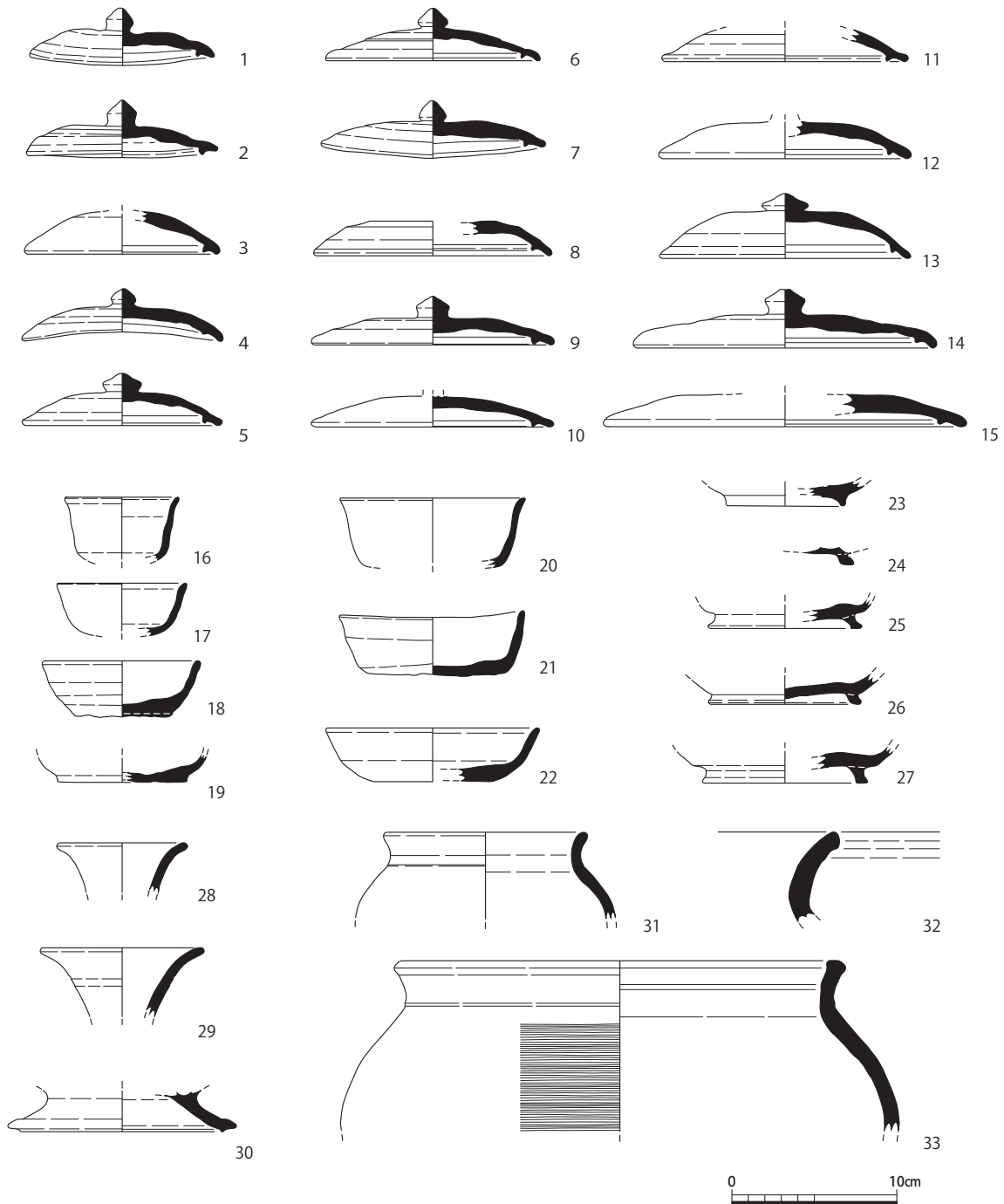


図42 土器実測図1 (1:4)

丸瓦及び平瓦の観察結果は以下の通りである。

**丸瓦** 瓦1は凸面縦ケズリ後にナデ、側面よりにケズリを施す。凹面は杵板圧痕と布目が残る。凹面の広端面よりに横ナデ、側面よりにケズリを施す。側面・広端面ともにケズリ、広端面のみ調整後に僅かに粘土附着する。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質である。

**平瓦** 瓦2は凸面叩き板(A5類)による調整・成形後に、側面・端面よりの一部にナデまたはケズリを施す。凹面は杵板圧痕と布目残り、凹面の側面・端面よりにナデ・ケズリを施す。側面・端面ともにケズリ。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質である。瓦3は凸面叩き板(A類)による調整・成形後に、側面・端面よりの一部にナデまたはケズリを施す。凹面は杵板圧痕と布目が

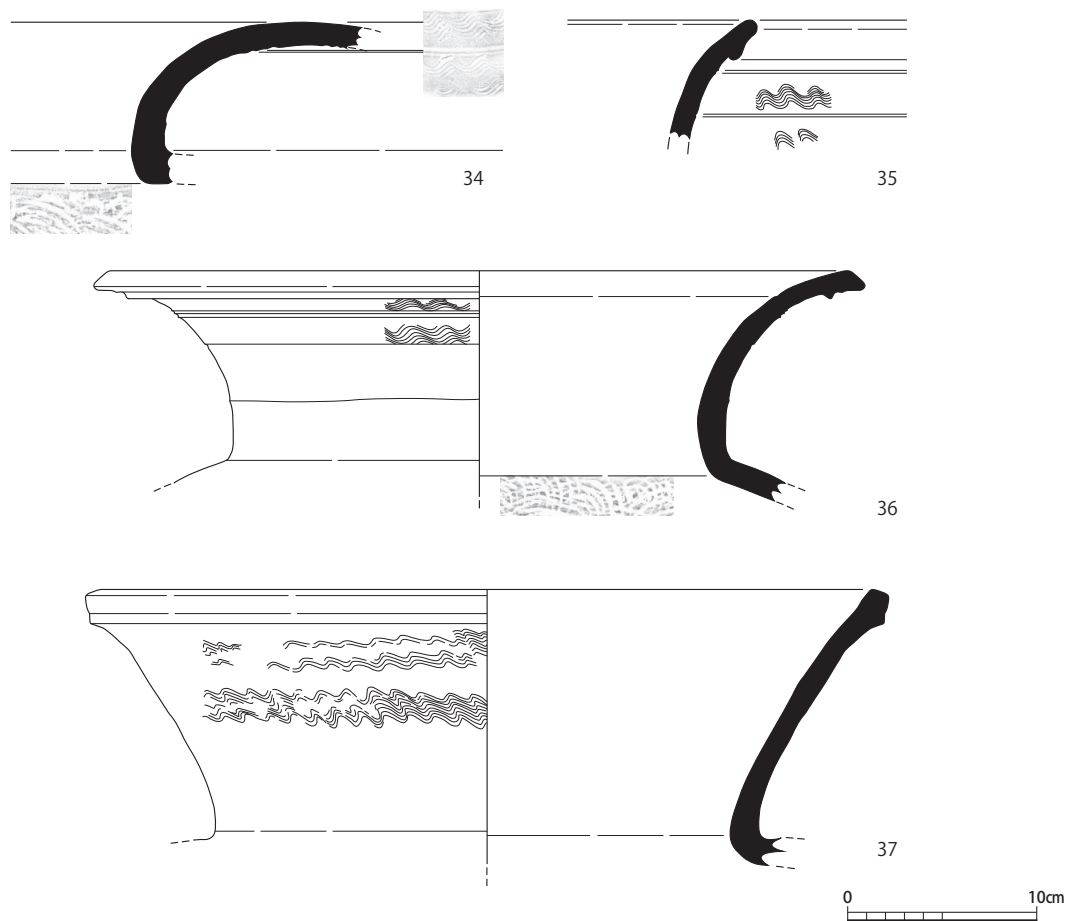


図43 土器実測図2（1：4）

残り、凹面の側面・端面寄りにナデ・ケズリを施す。側面・端面ともにケズる。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質である。瓦4は凸面叩き板（A3類）による調整・成形後に、側面・端面よりの一部にナデまたはケズリを施す。凹面は杵板圧痕と布目、粘土板の綴じ合わせが残る。凹面側面よりはケズリ、粘土板の綴じ合わせ部分は剥離を防ぐために押さえつけながらナデる。側面・端面ともにケズる。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質である。瓦5は凸面叩き板（A2類）による調整・成形後に、側面・端面寄りの一部にナデまたはケズリを施す。凹面は杵板圧痕と布目・分割界線が残る。凹面の側面寄りにケズリを施す。側面はケズる。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質である。

### 3. まとめ

今回採集した土器類及び瓦類は、京大報告書に掲載された木野墓窯跡の内容と同様の状況を示している。須恵器の器種は、杯A・Bや宝珠形つまみの杯蓋の出現など、律令期の器種構成であり、7世紀第三四半期に属するとされる年代観にも齟齬はない。1点のみ緑釉陶器碗を採集しているが、これまで木野墓窯での生産は確認されておらず、当該期に緑釉陶器の生産が確認できる隣接する幡枝地区からの混入品と捉えることが妥当であろう。

瓦類では、掲載することができなかつた瓦も含めた特徴を確認しておきたい。今回、採取した平

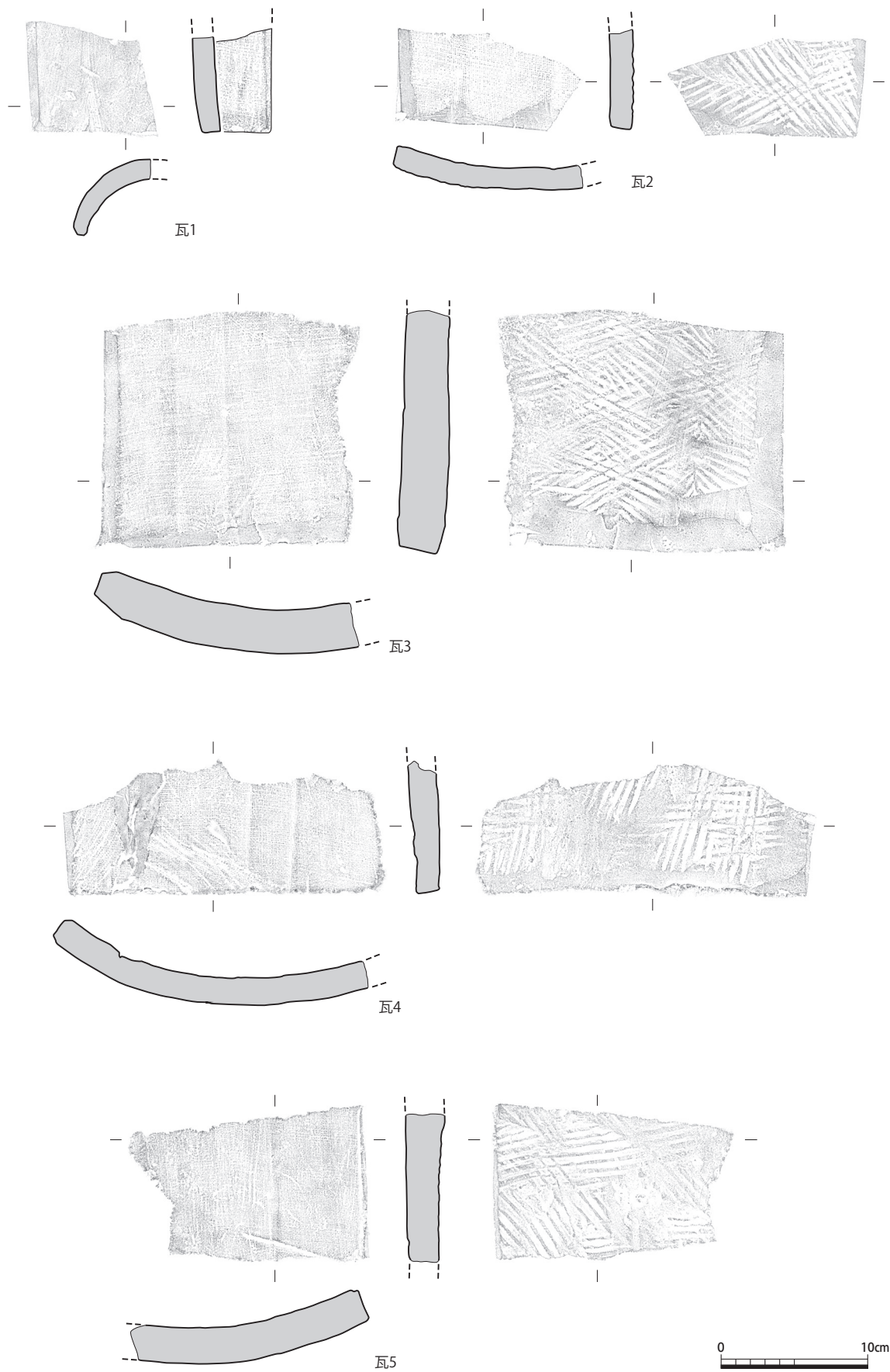


图 44 採取瓦類実測図及び拓影（1：4）

瓦の凸面の叩き板の痕跡は、京大分類 A 2 類が 1 点、A 3 類が 3 点、A 5 類が 1 点、A 3 もしくは 5 類が 2 点、A 不明類が 4 点、C 類が 3 点、不明が 2 点である。京大報告書によれば、A 1・3 類が主たる叩きとして用いられていたと推測しており、本件の採取点数は限定的ではあるが、上述の想定を肯定できる。また、側面の調整（形態）は、A 2 類が凸面側のみ面取り（京大分類 2）、A 3 類が凹凸面側面取り（京大分類 1）、A 5 類が凹凸面側面取り（1）、A 3 もしくは 5 類が凸面側のみ面取り（2）と不明、A 不明類が凹凸面側面取り（1）と凹面側のみ面取り（京大分類 3）、C 類が凸面側のみ面取り（2）と凹面のみ面取り（3）であり<sup>4)</sup>、基本的には未調整のものは認められなかった。また、丸瓦の点数が平瓦に比べて少ないことも、京大報告書と同様の状況を呈している。

なお、平瓦は梓板圧痕・粘土板の綴じ合わせ目・分割界線を確認できたことから、粘土板桶巻作りによって製作されたと推測できる。

以上、既報告の内容を追認することとなったが、台風被害に伴う倒木によって露出した遺物の報告を行った。現地では、風倒木の除去が行われたが、未だ大雨による土砂の流出によって遺物が新たに露出しており、早急に保存の措置を講ずる必要がある。

（鈴木久史・西森正晃・清水早織）

#### 註

- 1) 井下原博・岸本直文氏らの報告によれば、「電気探査については木村捷三郎氏の御教示により知るところとなり、宇佐（晋一）・星野（猷二）両氏にも話をうかがった。しかし、探査結果のデータについては、愛媛県文化財保護協会の乗杉茂氏を通して故松岡氏の御遺族にも問い合わせたが得ることができなかった。」とする。「第 3 章遺跡の現状」『岩倉古窯跡群』、京都大学考古学研究会、1992 年。
- 2) 『岩倉古窯跡群』、京都大学考古学研究会、1992 年。
- 3) 前田禎彦・下位幸弘「第 3 章 木野墓窯跡の採取遺物」『Trench』34、京都大学考古学研究会、1982 年。
- 4) 註 3 前田・下位報告。

### Ⅲ - 3 植物園北遺跡 (21S686)

#### 1. 調査に至る経緯と経過

調査地は、下鴨本通と北山通の交差点より南西に位置し、弥生時代～中世の大規模集落である植物園北遺跡の南辺に相当する。今回、この区画に個人住宅の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。

周辺では、南へ 160 m 隔てた地点で行われた詳細分布調査において、GL-0.2 m の深度より柱穴を有する古墳時代後期～飛鳥時代の遺構面が検出されている (図 45- 調査①)。また、南へ 70 m 隔てた地点では GL-0.5 m の深度において古墳時代後期の竪穴建物が、さらにその上位面より平安時代の柱穴が確認されている (調査②)。このほか、南西へ 150 m の区画では、平成 22 年度に発掘調査が行われており、GL-0.5 m の深度において飛鳥時代の竪穴建物と土坑、掘立柱建物があわせて検出されている (調査③)。

以上のことから、今回の調査地においても当該時期の遺構の存在が予測された。

#### 2. 調査成果

調査は、対象地の北辺において断面観察を行うとともに、一部において平面検出を行った。なお、遺構面は攪乱による削平が著しく、検出範囲は限られている。基本層序は、GL-0.2 m まで攪乱もしくは盛土があり、-0.3 m まで灰黄褐色シルトブロックを含む褐色粗砂混じりシルトの時期不明遺物包含層、以下、しまりの良い褐色粘土質シルトを主体とする地山となる。断面観察では複数のピットを、平面検出ではピット 4 基と土坑 1 基、竪穴建物 1 基を検出した。竪穴建物は攪乱と削平により多くを失うが、一辺 2.8 m 以上を測る隅丸方形プランをもつ遺構である。北壁面に壁溝の一部を確認することができる。

遺構群は、断面観察による切り合い状況からは、少なくとも 2 時期の成立が想定される。時期を示す出土遺物を得られていないため成立時期

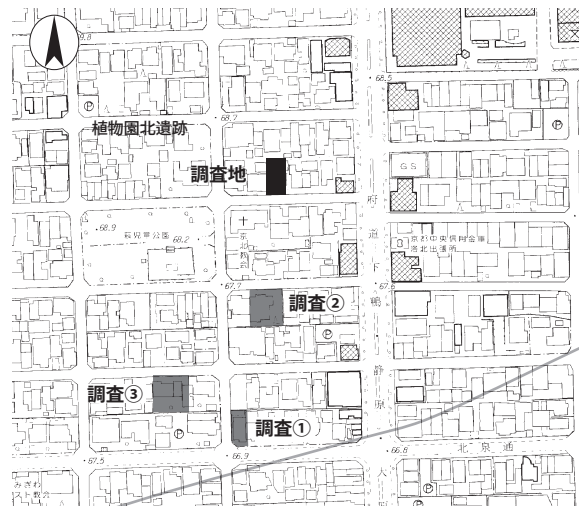


図 45 調査位置図 (1 : 5,000)

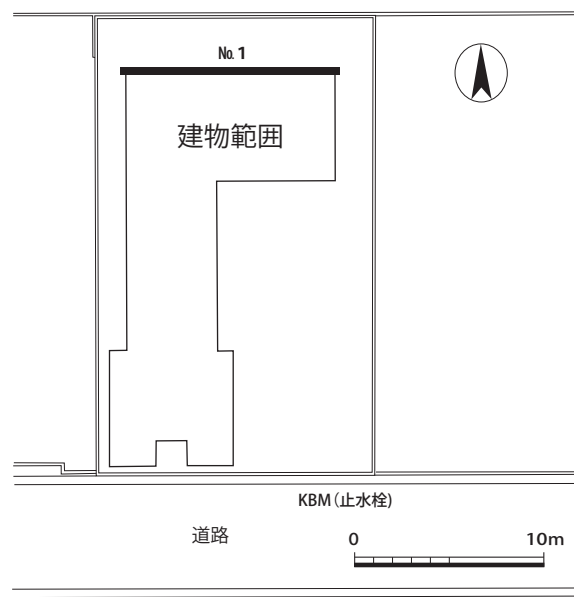
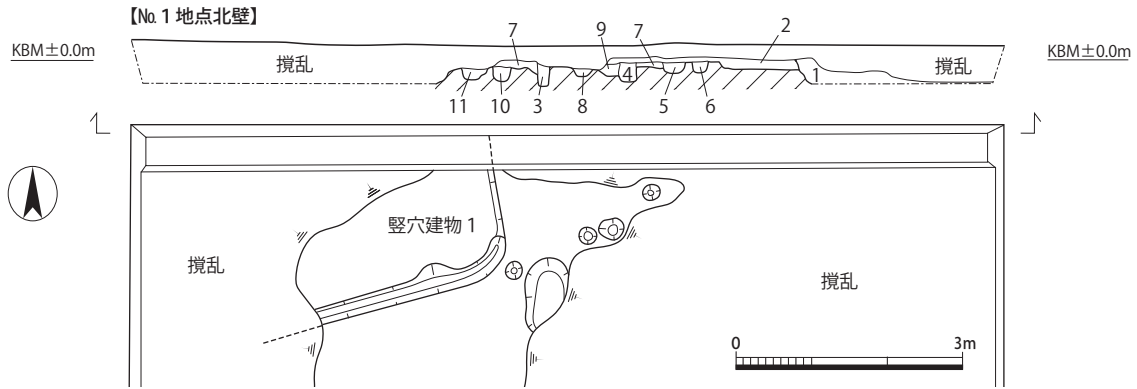


図 46 調査地点位置図 (1 : 400)



- 1) 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂混じりシルト 径0.5cm未満の礫少量入る 表層に鉄分沈着
- 2) 10YR4/4 褐色粗砂混じりシルトに 10YR4/2 灰黄褐色シルトブロック30%程度入る  
10YR4/6 褐色砂粒入る マンガン粒入る ややしり悪い
- 3) 10YR4/3 にぶい黄褐色際混じりシルトに 地山ブロック5%程度入る 径0.5cm未満の礫微量入る マンガン粒入る ややしり悪い
- 4) 10YR4/2 灰黄褐色粗砂混じりシルトに 地山ブロック10%程度入る 径1cm未満の礫少量入る マンガン粒入る しり悪い
- 5) 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂混じりシルトに 地山ブロック10%程度入る 径0.5cm未満の礫少量入る マンガン粒入る しり悪い
- 6) 10YR3/3 暗褐色粗砂混じりシルトに 地山ブロック5%程度入る 径0.5cm未満の礫少量入る マンガン粒入る しり悪い
- 7) 10YR3/2 黒褐色粗砂混じりシルト 径0.5cm未満の礫少量入る マンガン粒入る しり悪い
- 8) 10YR3/3 暗褐色粗砂混じりシルトに 10YR3/2 黒褐色シルトブロック20%程度入る  
径0.5cm未満の礫少量入る マンガン粒入る しり悪い
- 9) 10YR4/1 褐灰色礫混じりシルトに 10YR4/4 褐色シルトブロック20%程度入る 径1cm未満の礫多量入る しり悪い
- 10) 10YR3/3 暗褐色礫混じりシルトに 地山ブロック10%程度入る 径1cm未満の礫少量入る しり悪い
- 11) 10YR4/3 にぶい黄褐色礫混じりシルトに 地山ブロック10%程度入る  
径0.5cm未満の礫多量入る マンガン粒入る しり悪い【竪穴建物壁溝】
- 12) 10YR4/4 褐色粘土質シルト 径0.5cm未満の礫少量入る マンガン粒入る しり良い【地山】

図 47 遺構平・断面図 (1:100)

は不明であるが、遺構群を覆う包含層に須恵器及び土師器の細片が含まれること、また周辺の調査成果から、古墳時代後期以降の遺構である可能性が高い。

### 3. まとめ

植物園北遺跡は、弥生時代後期～古墳時代初頭に存続した集落であるイメージが強いが、古墳時代後期～飛鳥時代、奈良時代の遺構群も複数箇所を確認されている。特に、今回の調査地を含む遺跡南辺ではその傾向が顕著であり、この一帯に当該時期の集落が営まれたことが推測される。調査③では竪穴建物と掘立柱建物が同じ方向軸をもって検出されたが、これを竪穴建物から掘立柱建物へと移り変わる様相とみるならば、前時代とは異なる生活をはじめた人々の動向を、この地域に見出すことができる。

植物園北遺跡は、昭和 49 年に行われた広域立会調査による発見以後、約 50 年にわたり成果を蓄積してきた。そろそろ遺跡の全体評価が必要とされる時宜にきていると言えよう。植物園北遺跡では小規模調査が多いものの、これらを丹念に集積、分析する視点が求められる。

(黒須亜希子)

#### 引用文献

- 調査①：京都市文化市民局「Ⅵ 調査一覧」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和元年度』、2020年。  
 調査②：京都市文化市民局「Ⅲ-4 植物園北遺跡」『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』、2007年。  
 調査③：京都市文化市民局「Ⅲ 植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成23年度』、2012年。

## Ⅲ-4 吉田二本松町遺跡、吉田上大路町遺跡 (22S150)

### 1. 調査に至る経緯と経過

調査地は、京都大学吉田南構内の東（左京区吉田二本松町地内）に位置する。白川と高野川が形成した白川扇状地上に立地し、東から西へ向かって緩やかに下がる傾斜地の一画にあたる。今回、この区画に共同住宅の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。

この地域は、弥生時代前期の水田遺構を有する吉田上大路町遺跡と、縄文時代～近世の複合遺跡である吉田二本松町遺跡に含まれている。周辺では、平成12年度に京都大学構内で発掘調査が行われており、縄文時代の流路、弥生時代中期の方形周溝墓、平安時代末期～鎌倉時代の集落跡、室町時代の石室等、各時代の遺構が多数報告されている（図48-調査①）。

また調査地の南西では、近衛中学校内で校舎建替えに伴う発掘調査が、昭和53年以後、複数行われており、土坑や井戸、道路を伴う鎌倉時代～室町時代の集落跡が確認されている（調査②～④）。近衛通以南の地域は院政期に街区化が図られた白河街区跡に相当し、鎌倉時代を通じて開発が及んだことが明らかとなっている。既往の調査成果によると、近衛通以北へも開発が進んだものとみられるが、今回の調査地を含む大学の東側地域は調査事例に乏しく、実態は不明であった。

### 2. 調査成果

#### (1) 基本層序

基本層序は、GL-0.3 mで黒色粗砂混じりシルトの近世堆積層または黒褐色粗砂～シルトの室町

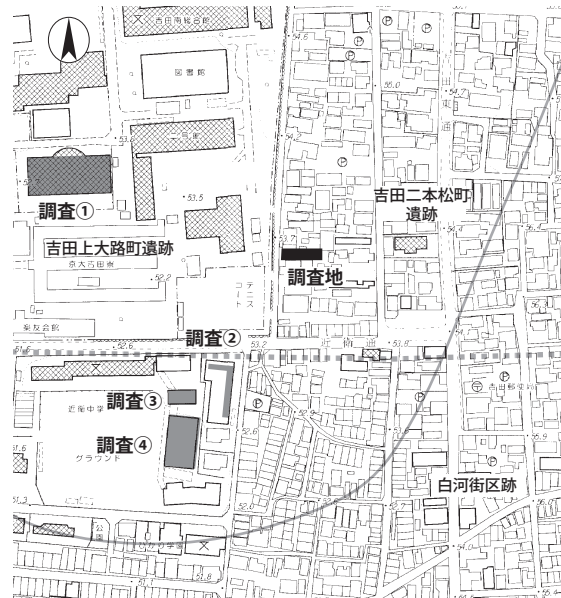


図48 調査位置図（1：10,000）

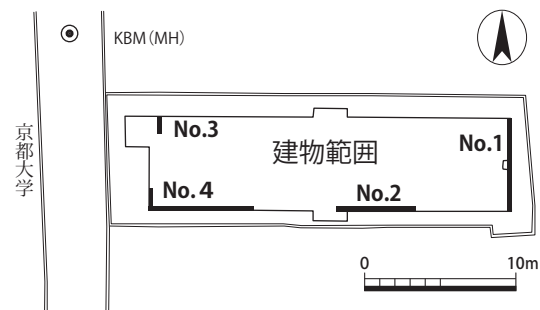


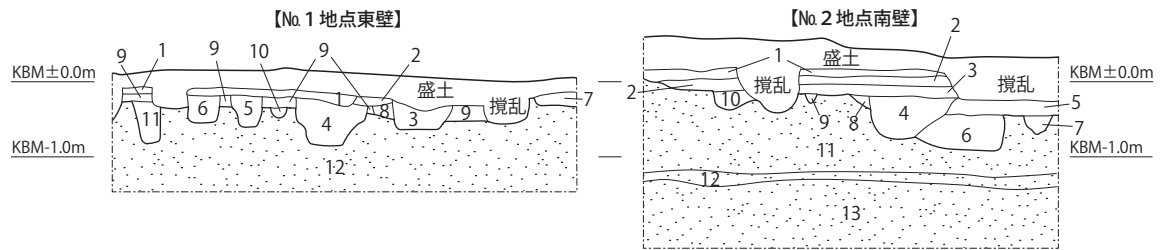
図49 調査地点位置図（1：500）



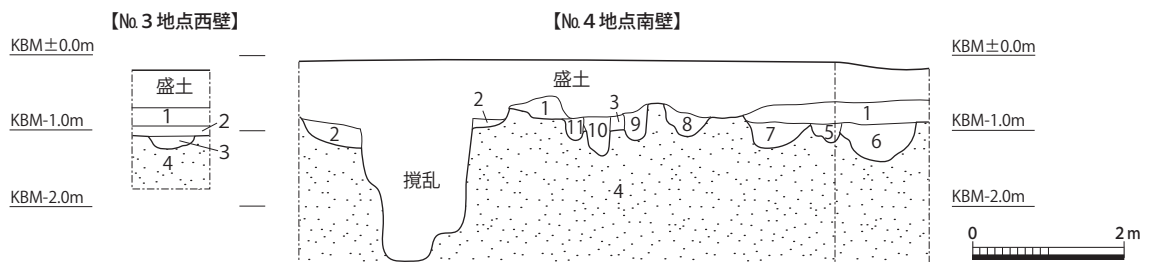
図50 No.1地点壁断面検出状況



時代包含層、-0.4 mで暗褐色粗砂～シルトの鎌倉時代包含層、-0.5 mで灰黄色粗砂～砂礫（白川砂）を主体とする基盤層に至る。遺構は、近世堆積層もしくは室町時代包含層の除去面と、基盤層上



- No.1
- 1) 10YR2/1 黒色粗砂混じりシルト 径1cm未満の礫少量入る しまり悪い
  - 2) 10YR3/2 黒褐色粗砂混じりシルト 径1cm未満の礫少量入る ややしまり悪い
  - 3) 10YR3/2 黒褐色礫混じり粗砂～シルト 径2cm未満の礫少量入る 白川砂礫入る しまり悪い
  - 4) 10YR3/3 暗褐色粗砂～シルト 炭化物・土器片入る 人頭大の礫少量入る しまり悪い【平安時代末～鎌倉時代土坑】
  - 5) 10YR3/1 黒褐色粗砂～シルト 土器片入る ややしまり悪い
  - 6) 10YR3/2 黒褐色粗砂混じりシルトに 2.5Y6/2 灰黄色粗砂ブロック 5%程度入る ややしまり悪い【近世土坑】
  - 7) 10YR3/3 暗褐色粗砂～シルト 炭化物・植物茎根入る しまり悪い やや軟質【近世包含層】
  - 8) 10YR2/2 黒褐色粗砂～シルト 径1cm未満の礫少量入る しまり悪い
  - 9) 10YR2/3 黒褐色粗砂～シルト 径1cm未満の礫少量入る 炭化物入る しまり悪い
  - 10) 10YR4/2 灰黄褐色粗砂ブロックと 2.5Y6/2 灰黄色粗砂ブロックの混合層 ややしまり悪い
  - 11) 10YR4/2 灰黄褐色粗砂ブロックと 2.5Y6/2 灰黄色粗砂ブロックの混合層 土器片入る ややしまり悪い【鎌倉時代柱穴】
  - 12) 2.5Y6/2-6/4 灰黄色～にぶい黄色粗砂～砂礫
- No.2
- 1) 10YR2/1 黒色粗砂混じりシルト 径1cm未満の礫多量入る ややしまり悪い【近世包含層】
  - 2) 10YR3/2 黒褐色粗砂混じりシルト 径1cm未満の礫少量入る ややしまり悪い
  - 3) 10YR3/2 黒褐色粗砂混じりシルト 径2cm未満の礫少量入る 白川砂礫ブロック入る ややしまり悪い
  - 4) 10YR2/3 黒褐色粗砂混じりシルトに 10YR6/2 灰黄褐色粗砂ブロック 10%程度入る 径2cm未満の礫少量入る しまり悪い
  - 5) 10YR2/3 黒褐色粗砂～シルト 径2cm未満の礫多量入る 土器器細片入る ややしまり悪い やや軟質
  - 6) 10YR2/2 黒褐色粗砂混じりシルト 拳大の礫少量入る 土器片入る しまり悪い やや軟質
  - 7) 10YR3/1 黒褐色粗砂混じりシルトに 10YR6/2 灰黄褐色粗砂ブロック 10%程度入る
  - 8) 10YR3/3 暗褐色粗砂～シルトに 10YR6/2 灰黄褐色粗砂ブロック 10%程度入る 径1cm未満の礫少量入る しまり悪い
  - 9) 10YR3/1 黒褐色粗砂混じりシルトに 10YR6/2 灰黄褐色粗砂ブロック 10%程度入る
  - 10) 10YR3/2 黒褐色粗砂～シルトに 10YR6/2 灰黄褐色粗砂ブロック 20%程度入る しまり悪い
  - 11) 10YR6/2-6/4 灰黄褐色～にぶい黄褐色粗砂
  - 12) 2.5Y6/4 にぶい黄色微砂混じり粘土と 2.5Y3/2 黒褐色シルトの互層
  - 13) 2.5Y7/2-7/4 灰黄色～浅黄色細砂～粗砂



- No.3
- 1) 10YR2/3 黒褐色粗砂～シルト 径2cm未満の礫少量入る 土器片入る しまり悪い【中世包含層】
  - 2) 10YR3/3 暗褐色粗砂～シルト 径1cm未満の礫少量入る 土器片入る しまり悪い【中世包含層】
  - 3) 10YR3/3 暗褐色粗砂～シルトブロックと 2.5Y6/2 灰黄色粗砂ブロックの混合層
  - 4) 2.5Y6/2-6/4 灰黄色～にぶい黄色砂礫
- No.4
- 1) 10YR2/3 黒褐色粗砂～シルト 径2cm未満の礫少量入る 土器片入る しまり悪い【中世包含層】
  - 2) 10YR3/3 暗褐色粗砂～シルト 径1cm未満の礫少量入る 土器片入る しまり悪い【中世包含層】
  - 3) 10YR3/3 暗褐色粗砂～シルトブロックと 2.5Y6/2 灰黄色粗砂ブロックの混合層
  - 4) 2.5Y6/2-6/4 灰黄色～にぶい黄色砂礫
  - 5) 10YR3/2 黒褐色粗砂～シルトに 2.5Y6/2 灰黄色粗砂ブロック 10%程度入る 土器片入る【室町時代ピット】
  - 6) 10YR3/3 暗褐色粗砂～シルト 人頭大の礫入る 炭化物入る しまり悪い
  - 7) 10YR3/3 暗褐色粗砂～シルトに 2.5Y6/2 灰黄色粗砂ブロック 20%程度入る 土器片入る【室町時代土坑】
  - 8) 10YR4/2 灰黄褐色粗砂～シルト 径1cm未満の礫少量入る ややしまり悪い
  - 9) 10YR2/2 黒褐色粗砂～シルト 径1cm未満の礫少量入る 瓦片・土器片入る ややしまり悪い【近世ピット】
  - 10) 10YR3/2 黒褐色粗砂～シルト 径1cm未満の礫少量入る ややしまり悪い
  - 11) 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂～シルトに 2.5Y6/2 灰黄色粗砂ブロック 10%程度入る しまり悪い

図 51 調査区断面図（1：100）

面において検出した。いずれも明確な掘方をもつ土坑やピットを有する。

鎌倉時代包含層からは、12世紀後半～13世紀の土師器皿が、室町時代包含層からは、14～15世紀の土師器皿、龍泉窯系青磁碗、瓦質土器釜等が、江戸時代堆積層からは18世紀の染付碗や瀬戸焼の盃等が出土した。

## (2) 遺構と遺物

**土坑1-4** No.1地点の断面観察において確認した遺構である(図53)。検出最大径は0.9m、断面形状は逆凸型で、最大深度は0.6mを測る。埋土は暗褐色粗砂～シルトで、炭化物や土器片を多量に含む。上層からは人頭大の河原石が出土した。下層からは、土師器皿(図52-1～4)、瓦質土器の釜(図52-5)、東播系須恵器の捏鉢(図52-6)が出土した。この捏鉢は内面剥離が著しく、相応の使用に耐えた製品であると推測される。12世紀後半～13世紀の製品である。

## 3. まとめ

以上、吉田二本松町遺跡、吉田上大路町遺跡の調査成果について記述した。今回の調査では、これまで報告が希薄であった範囲において、遺構の残存を確認した。断面のみでの検出ではあるが、調査地周辺へも遺構面が広がることは確実である。これまで吉田地区における埋蔵文化財調査は、大学構内に比してその周辺地は希薄であった。当該地域の開発過程を復原する上でも、より広域を対象とした情報の蓄積に期待したい。

(黒須亜希子)

### 引用文献

調査①：京都大学埋蔵文化財研究センター『京都大学構内遺跡調査研究年報 2000年度』、2005年。

調査②：京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概報』1978年。

調査③：(財)京都市埋蔵文化財研究所『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』、1983年。

調査④：(公財)京都市埋蔵文化財研究所『白河街区・吉田上大路町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2019-12、2020年。(公財)京都市埋蔵文化財研究所『白河街区・吉田上大路町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2020-12、2021年。

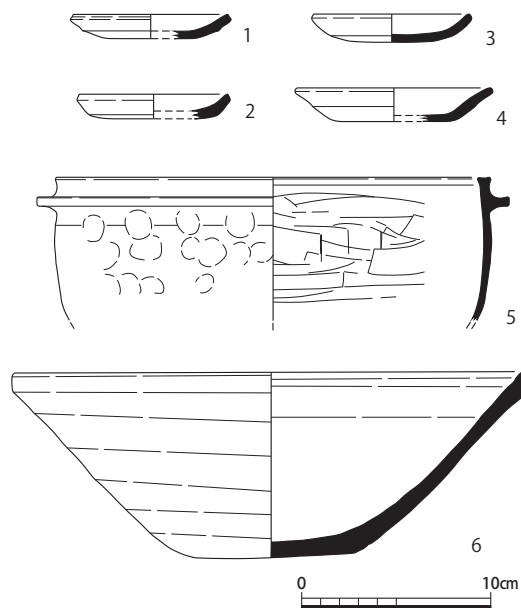


図52 出土遺物実測図(1:4)

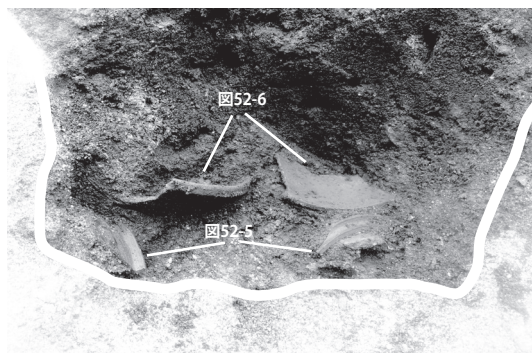


図53 土坑1-4遺物出土状況

### Ⅲ-5 円成寺跡、中尾城跡、浄土寺七廻り町遺跡、 如意ヶ嶽経塚群、如意ヶ嶽城跡、如意寺跡、 鹿ヶ谷経塚、岩座跡、安祥寺経塚群、安祥寺上寺跡 (21A003・22A001)

#### 1. 調査の経緯

本件は、左京区及び山科区の山中一帯における詳細分布調査である。近年、左京区鹿ヶ谷から浄土寺、栗田口、山科区安祥寺一帯において林道開発が盛んになっている。一帯には複数の遺跡が所在しており、林道が遺跡に影響を与えることが懸念された。遺跡の詳細な位置と形状を把握し、開発との円滑な調整を図るため、令和4年3月に如意寺跡、如意ヶ嶽城跡、安祥寺上寺跡、中尾城跡、浄土寺七廻り町遺跡一帯において、航空レーザー測量を実施し、令和3年度に如意寺跡、如意ヶ嶽城跡、安祥寺上寺跡一帯（巻頭図版4範囲B）の、令和4年度に中尾城跡、浄土寺七廻り町遺跡一帯（同範囲A）の赤色立体図をそれぞれ作成した。また、測量成果と現地状況を照合し、より詳細なデータを得るため、3月から4月にかけて測量範囲一帯の踏査を実施した。

航空レーザー測量はアジア航測株式会社に委託し、実機へりによる計測を行った。計測日は令和4年3月9日、飛行高度500m、飛行速度30m/s（108km/h）、測量範囲は3.0km<sup>2</sup>、計測密度は10点/m<sup>2</sup>以上、計測コースは11コースとした。

今回の測量範囲には、周知の埋蔵文化財包蔵地である「中尾城跡」、「浄土寺七廻り町遺跡」、「円成寺跡」、「如意ヶ嶽経塚群」、「如意ヶ嶽城跡」、「如意寺跡」、「鹿ヶ谷経塚」、「岩座跡」、「安祥寺経塚群」、「安祥寺上寺跡」が含まれている。また、周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、五山送り火のひとつ、大文字送り火の火床が測量範囲に含まれる。紙数の関係上、個々の遺跡についての詳細は省略するが、如意寺跡については財団法人古代学協会を中心に測量及び発掘調査を実施し<sup>1)</sup>、安祥寺上寺跡については京都大学文学研究科を中心とした研究チームが測量調査を実施している<sup>2)</sup>。平安京・京都からもっとも身近な山地であり、霊地、要害の地として重視されてきたことが分かる。

#### 2. 航空レーザー測量の成果

現行の京都市遺跡地図記載の遺跡範囲を作成した赤色立体図と重ねたところ、赤色立体図中の平坦面や土塁等の遺構の大部分は現在周知している遺跡範囲内に分布することを確認した。図54には遺跡範囲と遺跡番号を示した。遺跡番号と遺跡名は以下の通り対応する。

416：円成寺跡、420：中尾城跡、421：浄土寺七廻り町遺跡、422：如意ヶ嶽経塚群、423：如意ヶ嶽城跡、425：如意寺跡（425-1；如意寺本堂跡推定地、425-2；赤龍社跡推定地、425-3；深禅

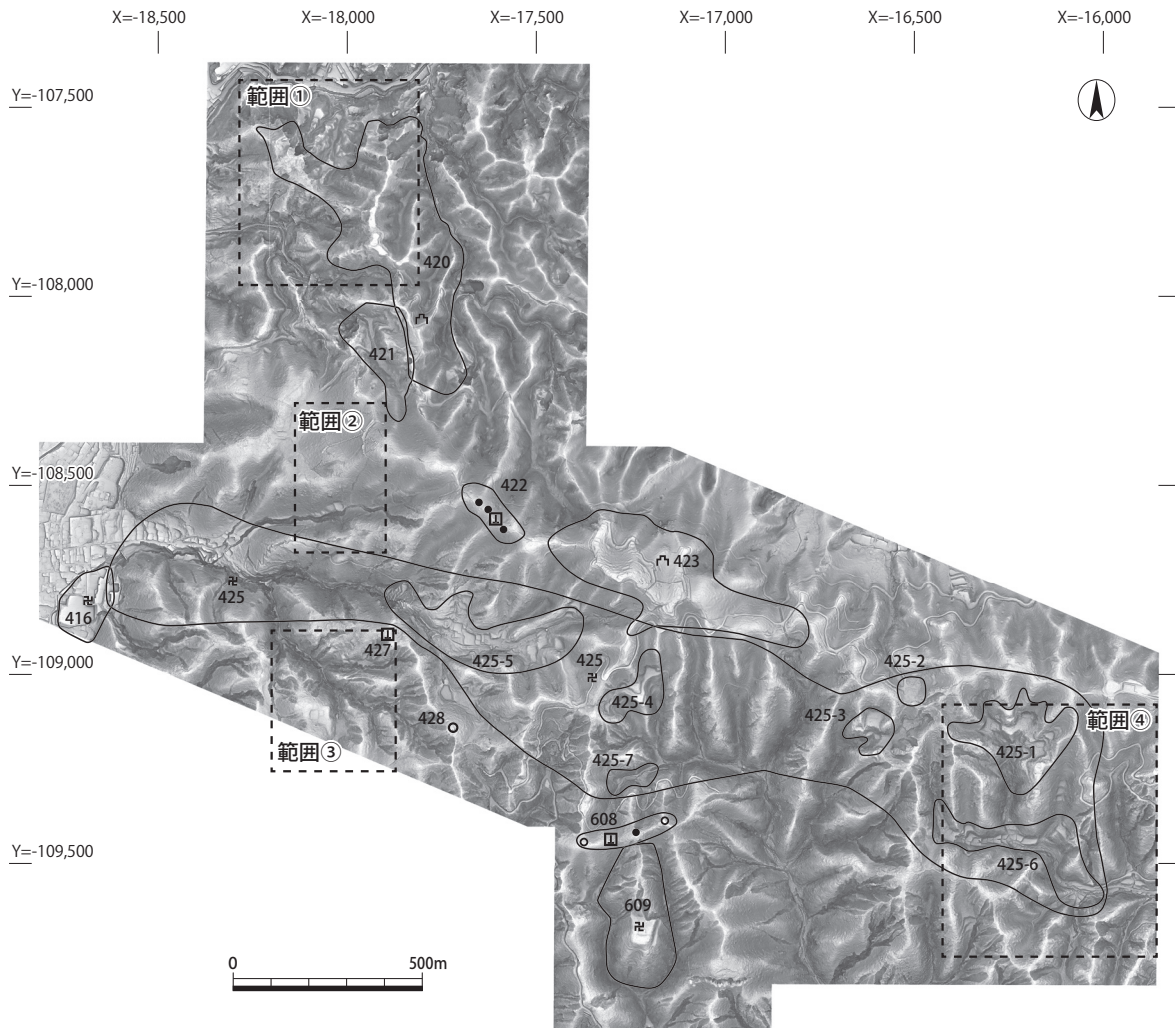


図 54 測量図及び遺跡範囲（1：20,000）

院跡推定地、425-4；大慈院・西方院推定跡地、425-5；寶巖院跡推定地、425-6；正寶院跡推定地、425-7；西谷遺跡）、427：鹿ヶ谷経塚、428：岩座跡、608：安祥寺経塚群、609：安祥寺上寺跡  
 一方で、遺跡範囲外あるいは遺跡範囲内でもこれまで平坦面があると認識できていない範囲に複数の平坦面が分布していることを読み取ることができた。測量以前には未知の平坦面を以下に示しておく。

①中尾城跡北方（図 55）

中尾城は南北尾根上の主要郭群と西方に出丸状に飛び出した郭群という2群から成る。このうち、西側郭群の北東に連続する遺跡範囲外の尾根上に階段状の平坦面群があることが読み取れる。ただし城郭に特有の防御的施設は確認できず、中尾城と関連するものかどうかは不明である。

②大文字火床南方平坦面群（図 56）

大文字火床の南側斜面を下った谷筋の遺跡範囲外に階段状に平坦面が分布する。如意寺跡の主要遺構群が展開する

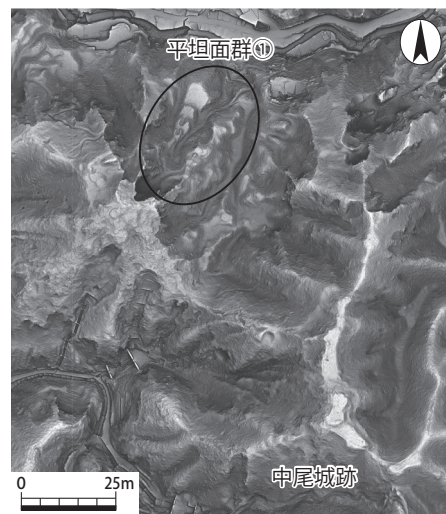


図 55 範囲①（1：2,000）

谷筋から尾根を1本隔てた北側谷筋に当たる。南側の谷には谷川が流れており、急峻な崖となる。

### ③如意寺寶巖院跡南西平坦面（図57）

測量範囲内南端近くで、如意寺主要遺構の分布する谷筋（如意越）から南に分岐する谷筋をさかのぼっていき、谷の西側斜面の平坦面である。東西約140m、南北約190mという比較的広い平坦面で、その西側で基壇状の方形の高まりが確認できる。

### ④如意寺正寶院跡周辺平坦面群（図58）

如意寺跡東端に位置する正寶院の周囲に未知の平坦面群が分布する。遺跡範囲内の谷筋の2群（A群・B群）、遺跡範囲外で東側に連続する谷筋の平坦面群（C群）、遺跡範囲外で尾根を挟んだ南側谷筋の平坦面群（D群）はこれまで認識できていないものである。このうち、B群、C群の南半、D群は大津市域に属する。



図56 範囲②（1：1,000）

## 3. 踏査成果

上記の未知平坦地を中心に現地確認をおこなった。

### ①中尾城跡北方

中尾城の西方郭群の北端から尾根伝いに斜面を下り、平坦地を確認した。遺物の散布や防御的な遺構は確認できず、中尾城の既知の郭からはかなりの急斜面を下ることになり、城と一体の遺構とするにはためらいを覚える。

### ②大文字火床南方平坦面群

「大」字の1画目右端から斜面を下って到達した。平坦地が雛壇状に連続していることが確認できた。遺物を探したものの、遺跡と確定できるような資料は発見できなかった。平坦面の南側は流路によって浸食されていると見え、崖面となっている。造成当初は現況よりも広がった可能性がある。平坦面以外に遺構は認めず、林業のための造成という可能性もあるが、類似の平坦面は他になく、如意寺跡の主要遺構が分

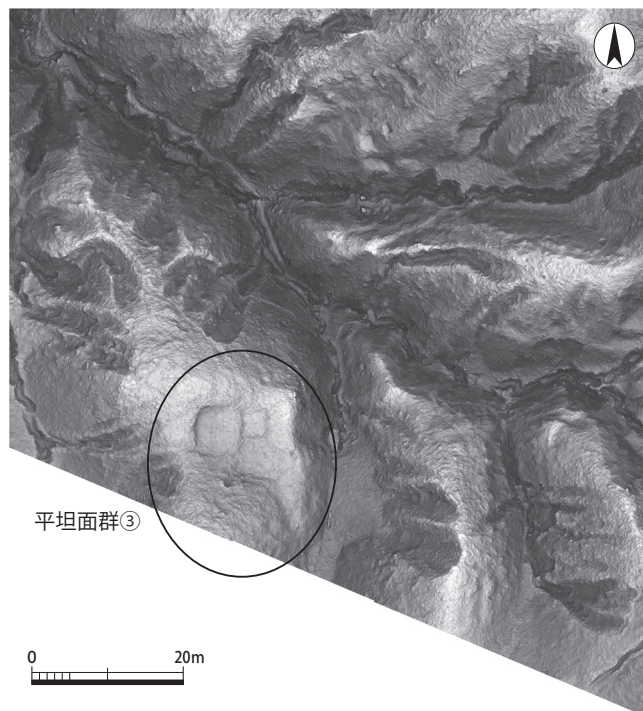


図57 範囲③（1：1,000）

布する谷筋と尾根を挟んで位置する。この尾根からの道筋は赤色立体図で明瞭であり、南側谷筋との一体性は高いことから如意寺の関連遺構としても違和感はない。決め手に欠け、遺跡であるか否かの判断は現時点では保留とせざるをえない。

### ③如意寺寶巖院跡南西平坦面

南から北へと伸びる尾根の東側斜面にあり、尾根筋からアプローチした。尾根からは緩やかな斜面であり、接近は比較的容易である。赤色立体図上に見える平坦面西側の方形高まりは現地にて確認できたが、それほどの高さはなく、性格は不明である。建物基壇の可能性もある。平坦面上及び東側斜面、谷筋において平安時代中期の遺物を採集した。明らかに人の手による平坦地であり、かつ遺物も散布することから新発見の遺跡である。如意越の谷筋から南に分岐し、かなり奥に位置しており、如意寺との関連性は見出しにくい。詳細の解明は今後の調査にゆだねたいが、平安時代中期の山荘などとして利用されたものであろうか。

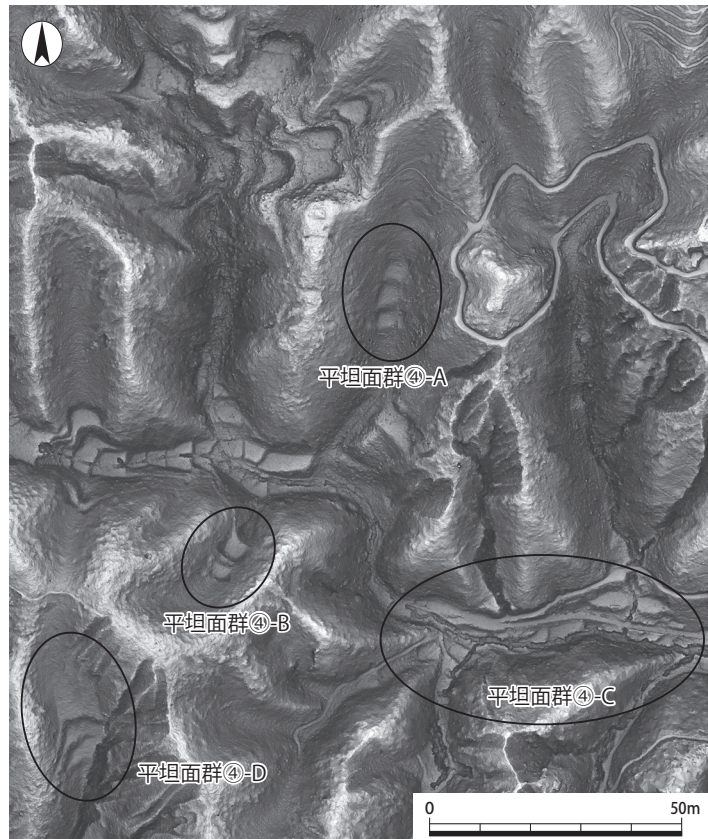


図 58 範囲④ (1 : 1,500)

④如意寺正寶院跡周辺平坦面群

赤色立体図上で確認した平坦地群のうち、A群はそこにいたるまでの谷部において倒木が著しかったため近づけなかった。残るB群、C群、D群は現地にて確認することができた。

B群は正寶院跡として認識されてきた遺構群が分布する東西方向の谷筋から南に派生する谷に雛壇状に3段の平坦地が続く。中段は他と比べて幅が狭く、何らかの建物を建てたとはいえ難い。



図 59 平坦面群③北東部 (南から)



図 60 平坦面群④-B (南から)

遺物の散布は確認できなかった。

C群は正寶院跡の谷筋から東に連続する平坦面群である。谷川に沿って雛壇状に続き、赤色立体図の範囲外にまで連続している。この平坦地群において、土師器の細片などの遺物を採集している。如意寺正寶院跡の遺構群との連続性があり一体の遺跡と見て大過ない。如意寺跡はさらに東側へと連続する遺跡であることが判明した。

D群は正寶院の谷筋から尾根を挟んで南側の谷に雛壇状に3段連なる。D群の平坦面群は水平面というよりは緩斜面の連続であり、遺跡の展開と考える根拠は乏しい。

## 4. 採集遺物

③地点と④地点C群周辺において、平安時代の遺物を採集したため、図化して報告する。また、浄土寺七廻り町遺跡でも遺物を採集したが、こちらは細片で図化することができなかった。

1～4は③地点東側の斜面で採集した資料である。1は須恵器椀である。口縁端部を玉縁状に成形している。2は須恵器鉢の口縁部である。端部は丸みを帯びる。3は灰釉陶器椀の高台部である。貼り付け高台で、高台はごくわずかに湾曲している。4は須恵器壺の口縁部から体部である。口縁部は三角に成形し、長い頸部を体部との境界部分で接合させている。5は③地点の平坦面上で採集した灰釉陶器の壺高台部である。高台部から体部の立ち上がりまでが部分的に残る。外面に灰釉を施し、内面にも付着する。全体として平安時代中期までの遺物である。

6は④地点D群付近で採集した土師器甕である。口縁内端部を玉縁状に肥厚させる。時期比定は難しいが、2段階ごろのものか。

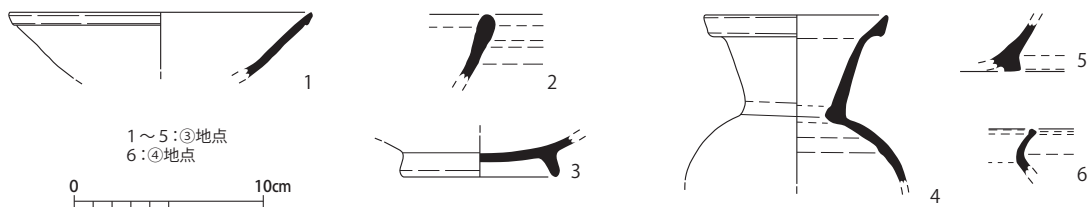


図 61 採集遺物実測図（1：4）

## 5. まとめ

航空レーザー測量によって、これまで確認できていなかった平安時代中期の遺跡を新たに発見した。同時に、既知の遺跡の範囲内においてもこれまで確認していなかった平坦面群の広がりを確認した。人里から近く、踏査され尽くしていると想定していた如意ヶ嶽一帯でも新たに遺跡を確認できたことは、航空レーザー測量の有効性を如実に示している。平安京近郊の山地では、近年でも松尾において松尾山寺跡が新たに発見されており、未知の遺跡が分布する可能性は高い。悉皆的な調査が難しい山地で、同様の手法で遺跡の分布を確認できることは、林道開発などの調整を図る埋蔵文化財の保護上極めて有用である。

また、近年相次ぐ突発的な豪雨や未曾有の勢力で上陸する台風などによる自然災害は、山中の

遺跡にも重大な影響を及ぼしている。如意寺跡においても土砂崩れによる平坦面の崩落が複数箇所発生しており、赤色立体図においてもその状況が確認できる。予期できない自然災害に備えて遺跡の現状を記録し、自然災害の発生時には被害の実態を把握し、その後の保護を図る際にも航空レーザー測量は有効である。

最終的に遺跡であるか否かを判断するには、現地へ赴き、遺構の状況、遺物の散布状況を調査することが必要である。それゆえ航空レーザー測量と踏査は遺跡把握のための車の両輪ともいえる。今後京都市内の他の山間部でも遺跡の正確な把握を進めていきたい。

(新田和央)

註

- 1) 江谷寛・坂詰秀一編『平安時代山岳伽藍の調査研究—如意寺跡を中心にして—』古代学協会研究報告第1輯、財団法人古代学協会、2007年。
- 2) 梶川敏夫・上原真人・岩井俊平「安祥寺上寺跡の測量調査成果」『安祥寺の研究 I —京都市山科区所在の平安時代初期の山林寺院—』第十四研究会「王権とモニュメント」編、2004年。



## Ⅲ-6 史跡方広寺大仏殿跡及び石塁・石塔、 方広寺跡、法住寺殿跡、六波羅政庁跡（3N060）

### 1. 調査の経緯

本件は、史跡方広寺大仏殿跡及び石塁・石塔を構成する馬塚の解体修理に伴う調査である。

馬塚は、徳川家康が豊臣秀吉の墳墓として、元和2年（1616）に造立した石塔（五輪塔）である。秀吉は、慶長3年（1598）8月18日、伏見城にてその生涯を閉じているが、生前から死後は神として祀られることを望み、翌年、後陽成天皇から「豊國大明神」の神号が贈られた。亡骸は東山三十六峰の一つ、阿弥陀峰の山頂に葬られ（「豊國廟」）、山麓には神となった秀吉を祀るための「豊國社」が全国の大名の普請によって築かれた。

しかし、慶長20年（1615）、大坂夏の陣で豊臣家を滅ぼした家康は、豊國廟への参拝を禁じ、代わりに仏式を以て供養するよう命じた。翌年、豊國廟に代わる秀吉の墳墓として大仏殿脇に築かれた五輪塔が馬塚である。

馬塚は、安永9年（1780）に刊行された「都名所図会」には「秀吉公塔」としてその姿が描かれ、塔前には石灯籠が建ち、堀で圍繞していたことがわかる。他にも、近世の地誌類や絵図、屏風にその姿が多数描かれ、秀吉・秀頼が建立した大仏殿、耳塚とともに、洛東の名所として知られていたことが窺われる。

なお、馬塚という名は、徳川の世に表立って秀吉を弔うことが憚られたため、いつしか秀吉の愛馬の墓と称されるようになった説などがある。



図 62 調査位置図（1：5,000）



図 63 芝台の間隙（北東から）



図 64 基壇石の孕み（南東から）

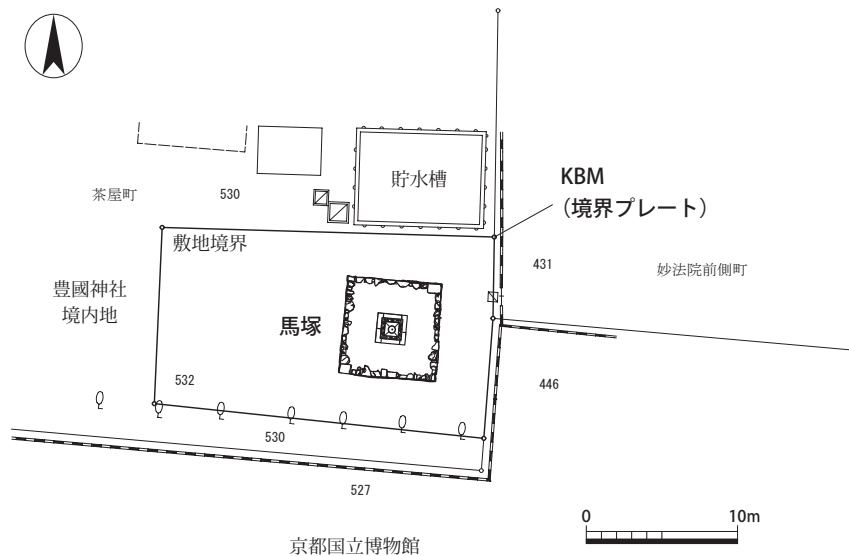


図 65 調査区配置図 (1:500)

近年、馬塚では、大雨によって基壇盛土の流出が進んだことで基壇石材が<sup>はら</sup>孕み (図 64)、五輪塔石積みに空隙が生じる (図 63) など、歪みが顕著となっていた。このままでは倒壊する危険が考えられたため、保存修理を実施することとなった。

修理は、①五輪塔の解体・修理②不陸の調整と地盤強化 (基礎部分に 10 cm 厚のコンクリート底盤を設置) ③孕みが生じている基壇東面の石材積み直し、という内容で実施することとなった。五輪塔下部には、埋納遺構や遺物が存在することも想定されたため、解体時及び底盤掘削時に調査を実施した。

また馬塚については、明治 10 年 (1877) の豊国神社造営に際し、旧地よりもやや東南に移築したと記す史料もあることから (『京都坊目誌』<sup>1)</sup>、移築の痕跡を探ることも調査目的の一つとした。調査の結果、埋納遺構・遺物は認められなかったものの、基壇盛土等を確認した。

なお、本修理は、歴史的文化財の保護等を目的に設立された公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金の寄附金によって実施した。記して感謝申し上げる。

## 2. 遺 構

修理の前後には、基壇及び五輪塔のオルソ測量を実施した。

修理前状況 (巻頭図版 2・3、図 67~70)

**基壇** 外装の石材は大半が花崗岩で、僅かにチャートが混じる。隅石は角石を用いる。目地にはコンクリートやモルタルが詰められている。規模は東西 6.3 m、南北 6.5 m、高さ 0.3 ~ 0.8 m を測る。基壇東面の石材が孕み、隙間から基壇盛



図 66 解体作業風景 (南から)

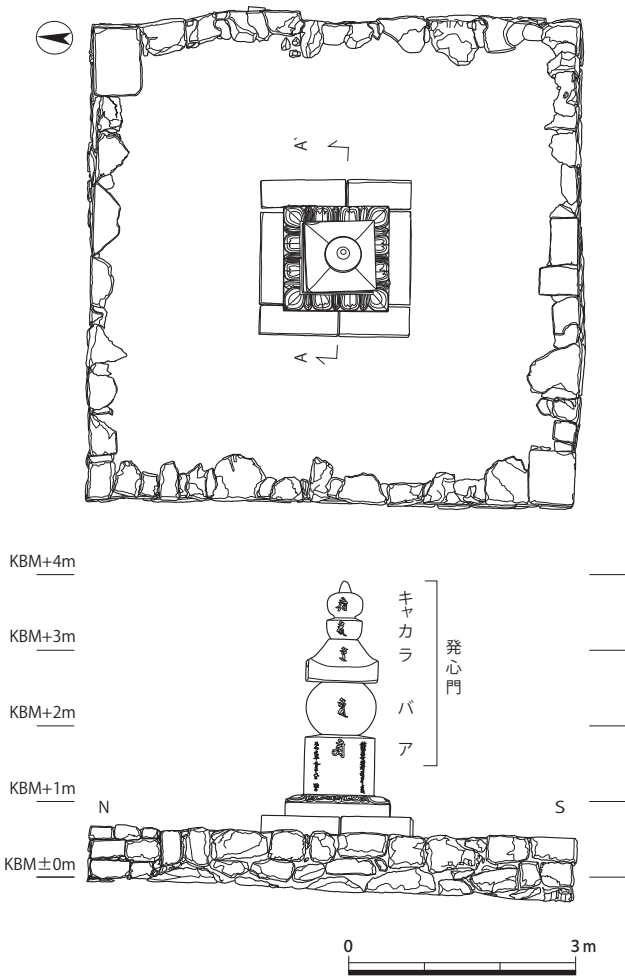
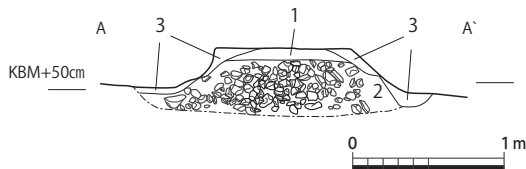


図 67 修理前平・立面図 (1:100)



- 1 2.5Y8/8 黄色泥砂(固く締まる)【芝台構築土】
- 2 2.5Y8/6 黄色砂泥礫混じり(瓦片多量に含む)【芝台及び基壇構築土】
- 3 10YR4/1 褐灰色砂泥【芝台据付掘方】

図 69 A-A' 断面図 (1:50)



図 70 A-A' 断面 (南より)



図 68 地輪西面拓本 (1:10)

土の流出が進んでいた。

**五輪塔** 石材は全て花崗岩で、上から空風輪、火輪、水輪、地輪、蓮華座、芝台からなる。基壇上面からの高さは3.45mを測る。正面となる西面には、地輪、水輪、火輪、空風輪に「発心門」を意味する梵字が刻まれ、地輪西面には「攸起立芳墳者□□□(梵字)/元和元年八月十八日敬白」が刻まれている。

基壇盛土の流出によって東面の蓮華座は浮き上がり、芝台との組み合わせに間隙が生じていたため、五輪塔は東側に約1度傾斜していた。

解体工事は、三又を利用し、ユニック車で各部材を順次吊り上げて行った(図66)。五輪塔内部では埋納遺物は認められず、解体後に底盤設置範囲の断割調査を実施したが、五輪塔下部でも埋納遺構・遺物は認められなかった。

芝台内側の構築土は、礫、瓦、焼瓦を多量に含んでおり、基壇盛土と共通することから、基壇盛土と一体となった構築

であったことを示す。

### 修理後（巻頭図版2・3、図71・72）

**基壇** 孕みが生じていた東面基壇の一部積み直しを行い、目地にはモルタルで補強を行った。また、基壇上面の不陸を調整するため、盛土を施した。

**五輪塔** 五輪塔を構成する空風輪は一石で作られている。空風輪下部に径15cm、高さ7～8cmの出柄を設け、火輪上面の柄穴が対応する以外は、石材組み合わせの加工は施されていない。したがって、埋納物を安置する凹み等も認められなかった。また、芝台を構成する石材の内面側には矢穴が複数残る。矢穴の大きさは幅6cm前後、深さ4cm前後を測る。

なお、修理後の五輪塔は、底盤を設置したため、以前に比べ3cm高くなっている。

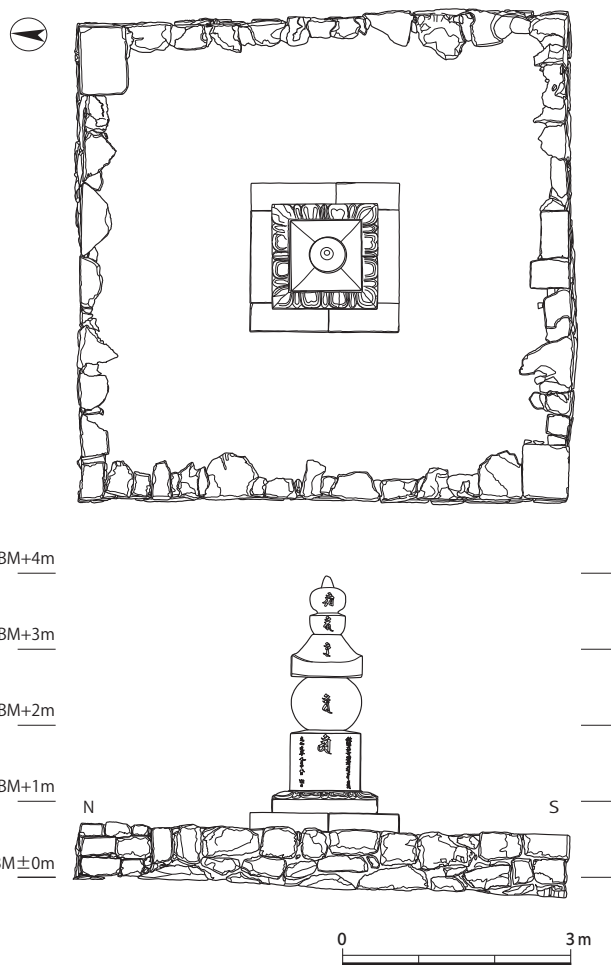


図71 修理後平・立面図（1：100）

### 3. 遺物

遺物は、土器、陶磁器、土製品、瓦類、金属製品が出土した。土器類では、瓦質土器の盤や肥前系の磁器等が認められる。瓦類では、平安時代後期から鎌倉時代、近世初頭の瓦が出土した。前者は、方広寺以前に当地に所在した後白河法皇が造営した法住寺殿、後者は方広寺に伴う瓦類と考えられる。近世の瓦類には、大仏殿焼失に伴う被熱した大仏瓦が多く含まれていた。なお、出土地点については、特に注記しない限り基壇及び芝台構築土からである。



図72 芝台内面に残る矢穴

1は、瓦質土器の盤である。口径21.4cmを測る。安土桃山時代から江戸時代初頭に属する。2は、基壇上面の表土から出土したもので、用途不明の蓋状土製品である。長径6.8cm、短径6.2cmを測る。表側に「七二」と刻まれている。3は複弁蓮華文軒丸瓦である。外区には珠文が巡る。丸瓦部凸面にタテケズリを施す。平安時代後期に属する。4は大型の巴文軒丸瓦である。三巴文で尾は互いに離れ、珠文が巡る。5は大型桐文軒丸瓦で、五三の桐文である。花卉の外周には範

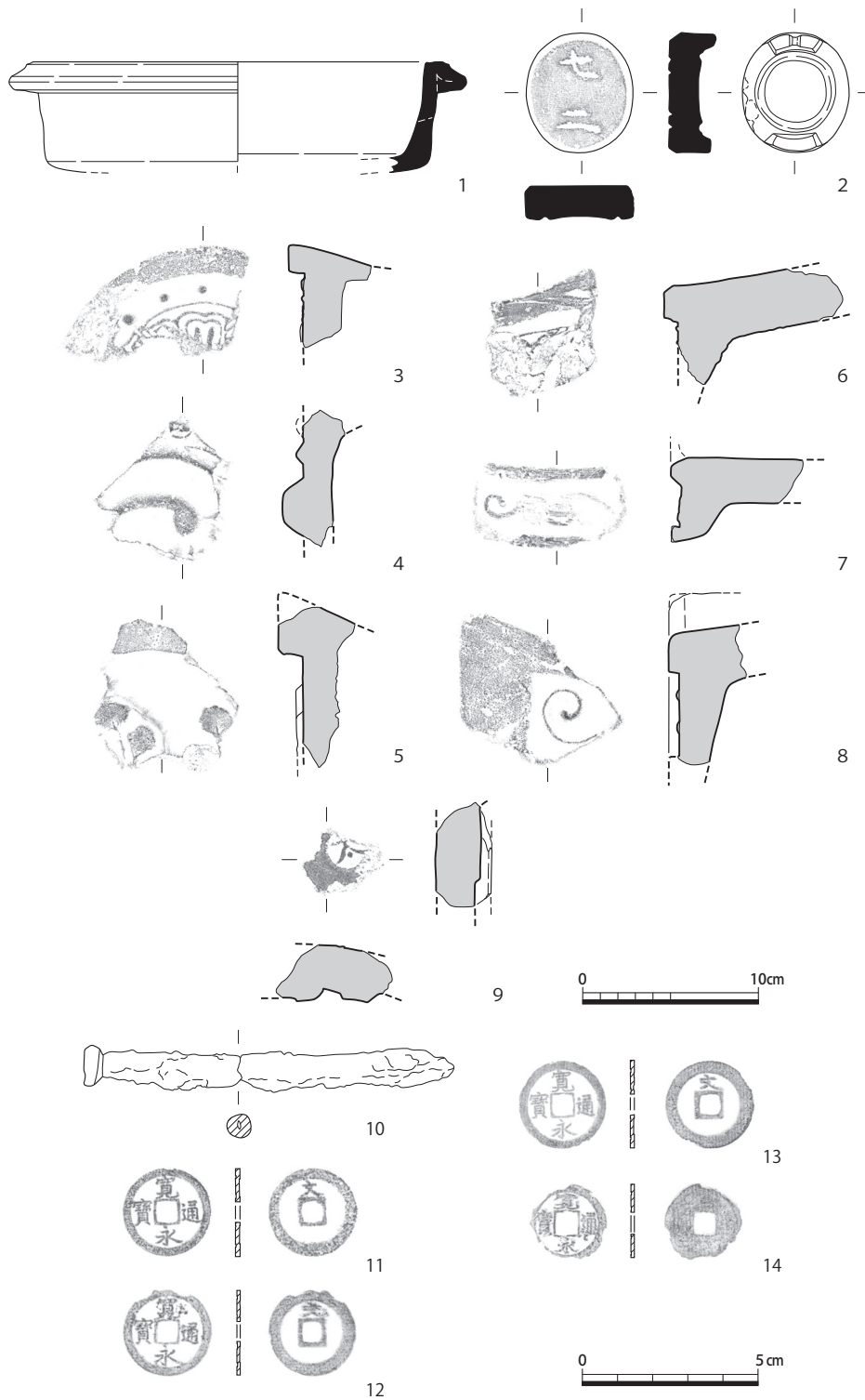


図 73 出土遺物実測図及び拓影（1：4、1：2）

を削り出す際の傷が明瞭に残る。近世初頭に属する。6は、唐草文軒平瓦である。平安時代後期に属する。7は唐草文軒平瓦である。近世初頭に属する。8は大型唐草文軒平瓦である。近世初頭に属する。9は丸瓦で凸面側に「太」の刻印が施される。近世以降に属する。10は鉄釘である。長さ 10.5 cm、頭の長さは 1.1 cmを測る。11～14は寛永通宝である。11～13はいわゆる新寛永通宝で、裏面に「文」の字を鋳出している。11・12は地輪と芝台の隙間に差し込まれていたも

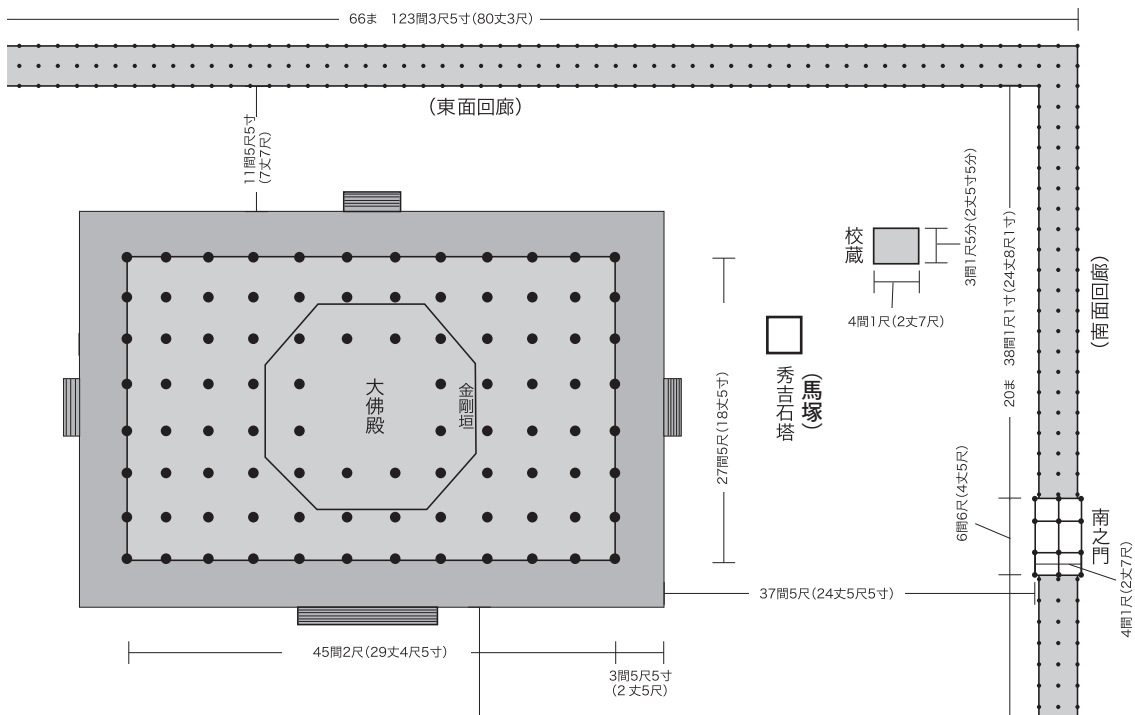
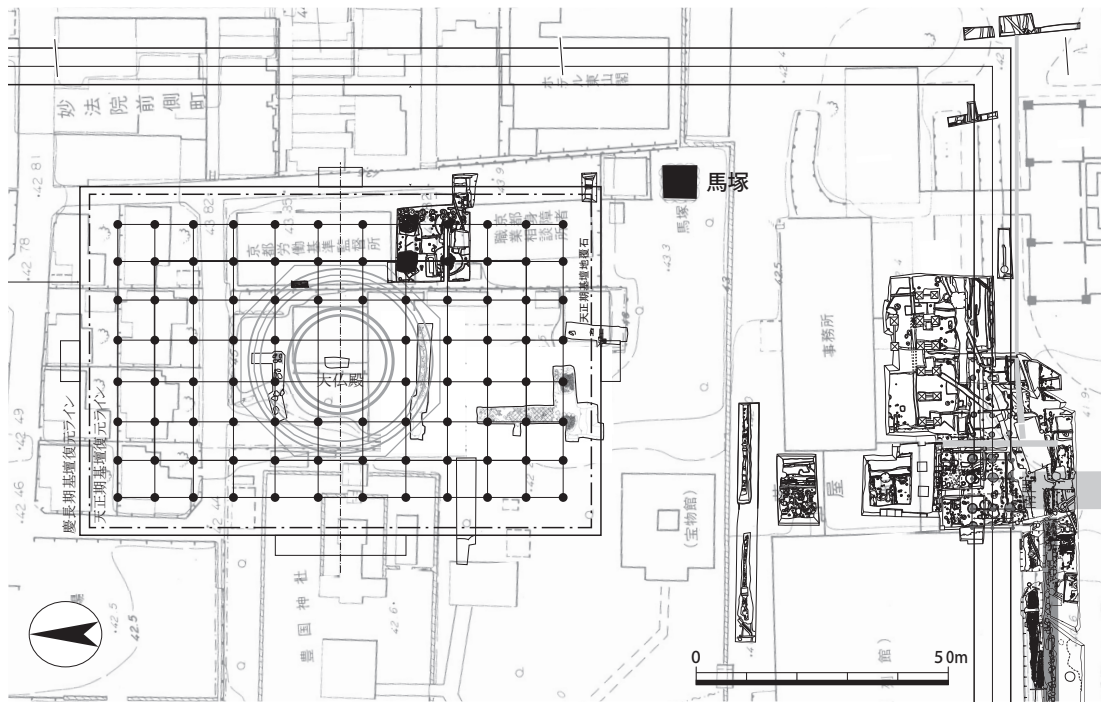


図74 (上) 大仏殿復元図 (1:1,500) 2) (下) 「方広寺大仏惣指図」『中井家文書』(部分トレース) 3)

のである。

#### 4. まとめ

馬塚は、徳川家康が豊臣秀吉を仏式で祀るために築いた墳墓であるが、解体修理に伴う今回の調査では、五輪塔内部及び下部からも埋納遺物は認められなかった。

調査目的の一つであった移築の痕跡については、基壇及び芝台構築土から被熱した大仏瓦や平

安時代後期の瓦片のほか、若干の国産磁器が出土したこと、芝台内側の石材に残された矢穴が確認できたことが手掛かりとなる。国産磁器の流通は1630年代以降であること、矢穴の形状から森岡編年におけるCタイプであることに鑑みると<sup>4)</sup>、元和2年(1616)の馬塚建立以降に、基壇の改変及び芝台が付加された蓋然性は高い。一方、大正4年(1915)に刊行された『京都坊目誌』に、「豊臣秀吉ノ塔」(馬塚)が「明治10年豊國神社造営の際に、旧地より<sup>●●●●●</sup>稍東南に移し、土塀を撤し之を開放す(傍点筆者)」とあり、江戸時代には土塀で囲まれ、直接参拝出来なかったことがわかる。したがって、馬塚建立以降、江戸時代を通して五輪塔の改変があったとは考えにくく、記載の通り、明治10年の移築は事実であったと判断できる。

坊目誌に記された馬塚の旧地については、幕府大工頭を務めた中井家旧蔵の『中井家文書』「方広寺大仏惣指図」からおおよそ推定できる。現在の馬塚の位置は、発掘調査から復元された大仏殿では、基壇東縁の南延長線上にあたる。同指図では、馬塚は「秀吉石塔」と記された付箋で石塔は覆い隠されているものの、その位置は大仏殿の建物の東から二間目の南延長線上に位置している(図74)。

なお、『京都坊目誌』には、馬塚には豊臣家滅亡後に仏式で葬ることになった際に付けられた戒名「國泰院俊山雲龍大居士」を刻み、裏に「改起立芳墳□□□(梵字) 元和元年八月十八日敬白」とあると記している<sup>5)</sup>。裏側とされた文字は現在も地輪西面に残されているが、東面には該当する文字は視認できず、拓本でもその痕跡は認められなかった。或は風化したものとも捉えられるが、西面の文字は明瞭であり、風化に因るとは考えにくく、現状では不明と言わざるを得ない。

以上、馬塚の保存修理に伴う調査によって得られた知見を述べた。馬塚の建立とその後の経緯については、近世から近代にかけての秀吉に対する評価の変遷を示すものとして興味深い。今回の調査によって、馬塚が大仏殿、耳塚とともに、豊臣家の盛衰の象徴とされる史跡の価値を如実に示す遺構であることが改めて裏付けられたといえよう。

(西森正晃)

#### 註

- 1) 『京都坊目誌 五』「下京第廿七学区之部」の「墳墓」の項目に、「豊臣秀吉塔」として解説がある。
- 2) 「方広寺跡・六波羅政庁跡・法住寺殿跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成25年度』京都市文化市民局、2019年の図25を一部改変加筆。
- 3) 『法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告2009-8、(財)京都市埋蔵文化財研究所、2010年の図56を一部改変加筆。
- 4) 森岡秀人・藤川祐作「矢穴の形式学」『古代学研究—森浩一先生傘寿記念論文集—』第180号、2008年。Cタイプの矢穴は、長辺6cm未満、短辺4～5cm、深さ6cm未満の小型の矢穴で近世後半以降に普及したものとされる。
- 5) 馬塚に刻まれた秀吉の戒名については、田中緑紅『緑江叢書』「京の京の大仏っあん」1957年にも記載があるが、ここでは「国泰祐松院靈山俊竜」(原文ママ)とある。

### Ⅲ-7 法住寺殿跡、方広寺跡、六波羅政庁跡 (18S799)

#### 1. 調査に至る経緯と経過

調査地は、東大路通と七条通の交差点より北に位置する。東山丘陵より鴨川へ向かって開く斜面上にあり、段を持って西へ大きく下がる地形を呈する。平安時代末期に後白河法皇が造営した法住寺殿跡と、鎌倉時代に設営された六波羅政庁跡の範囲内に含まれており、さらに敷地の西辺が豊臣秀吉により建立された方広寺の寺域に入る(図75)。令和元年7月、この区画にホテルの建設が計画されたことに伴い、試掘調査を実施した。その結果、対象地の西半部で近世初頭に遡る遺構面が確認されたことから、令和3年度に発掘調査が実施された(図76-調査①)。この調査では、江戸時代の溝や土坑等が検出されたほか、方広寺成立期と推測される整地層が確認された。また、その下層には法住寺殿期に遡る溝が検出された。

その後、建設計画の変更が生じたため、工事施工中に補足として詳細分布調査を行ったところ、建物範囲内に木組みの井戸を確認した。本稿はこれに係る報告である。



図75 調査位置図(1:5,000)



図76 調査地点位置図(1:1,000)



## 2. 調査成果

今回の基礎工事は、GL-8.0 m程度まで掘削し、コンクリート基礎を埋設する工法をとる。遺構面（地山上面）はGL-2.0 m程度であり、調査時にはすでに地山以深まで掘削された状態であった（図78参照）。その底面に木組みの井戸が2基残存しており、うち1基（井戸1）は撤去が必要な位置にあった。このため、平面図化及び断割りによる断面観察を行い、記録保存に努めた。

**井戸1** 敷地境界の西より29.0 m、南より18.0 mに位置する。調査①の調査区北辺に接するが、発掘調査時には確認されていない。掘方の平面形状は不定形で、北西方向へ大きく広がる。南北長は1.5 m、東西最大幅は2.2 mを測る。井戸枠は四隅に隅柱をもつ組立式で、端面を凸凹に加工した横棧を組んでこれを支持する。その外周には幅30～50 cmの縦板が一辺につき3枚打ち込まれている。西辺が1.25 mとやや長く、他辺は1.15 mと短い。このため井戸枠の平面形状はやや歪な方形となる。縦板の残存長は2.2 m、最大厚は1 cm程度である。井戸の底面は中央がやや窪むのみであ



図77 井戸1断割り状況（東から）



図78 井戸2検出状況（北から）

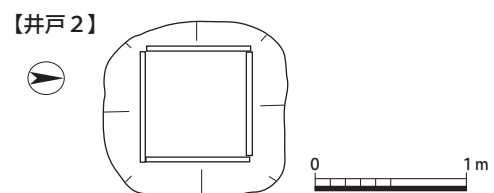
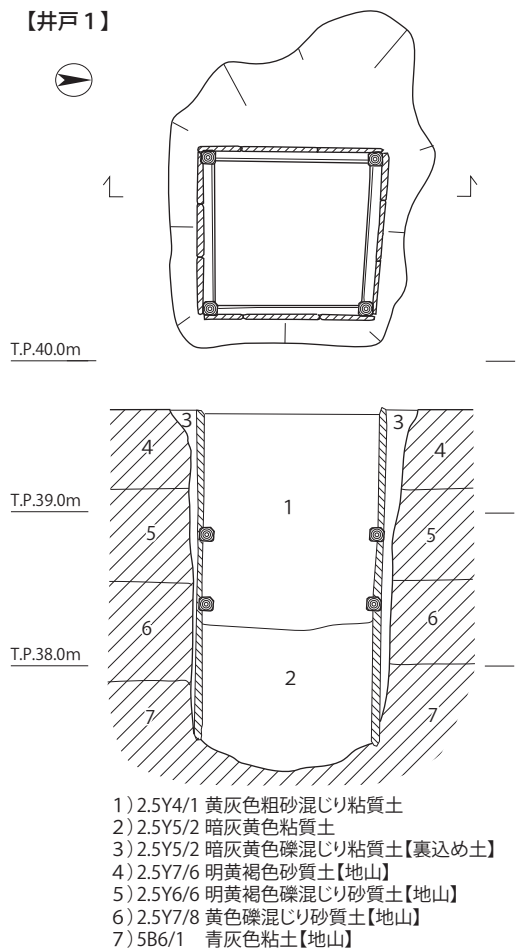


図79 検出遺構平面断面図（1：50）

り、曲物等の設置はなかった。

この形状の井戸（方形縦板組型）は、掘方内で井戸枠を組み立て、背面に裏込め土を充填して構築される。ただし、井戸1の上面では削平された部位の残材とみられる隅柱材（図80-3）を採取しており、これの2面に溝が切られていることから、横板組の構造も備えていたことがわかる。おそらく上位と下位で異なる木組みが採用されていたとみられる。縦板組、横板組ともに古代から中世に多用される工法である。井戸枠内からは、土師器皿（図80-1）の破片が1点出土した。15世紀の製品である。

**井戸2** 敷地境界の西より46.5m、南より22.0mに位置する。掘方の平面形状は隅丸方形に近く、西辺がやや丸みを帯びる。その中央に一辺0.7mの井戸枠が設けられている。井戸枠は幅10～15cmの細い板材を縦に差し込んだもので、井戸1下部と同様の形態と推測される。

井戸2は地中に残存するため断割りは行わず、保護層を確保するための上層掘削に留めた。井戸枠内からは東播系須恵器甕の口縁部が出土した（図80-2）。11世紀末～12世紀前半の製品である。

### 3. まとめ

今回確認した井戸2基は中世以前に成立した可能性が高いと言える。調査地より東大路通を北へ50m隔てた区画では平安時代末期～鎌倉時代初頭の井戸が確認されており、六波羅政庁跡に係る遺構と推定されている（図75-調査1）。今回確認された井戸が当該期に遡るとは断言できないが、中世にはこの地域にも開発が及んでいた証左として報告しておきたい。

（黒須亜希子）

#### 引用文献

調査①：古代文化調査会『法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡—妙法院前側町における調査—』、2021年。

調査②：（財）京都市埋蔵文化財研究所「49六波羅政庁跡」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』、1994年。

鐘方正樹『井戸の考古学』ものが語る歴史8、同成社、2003年。

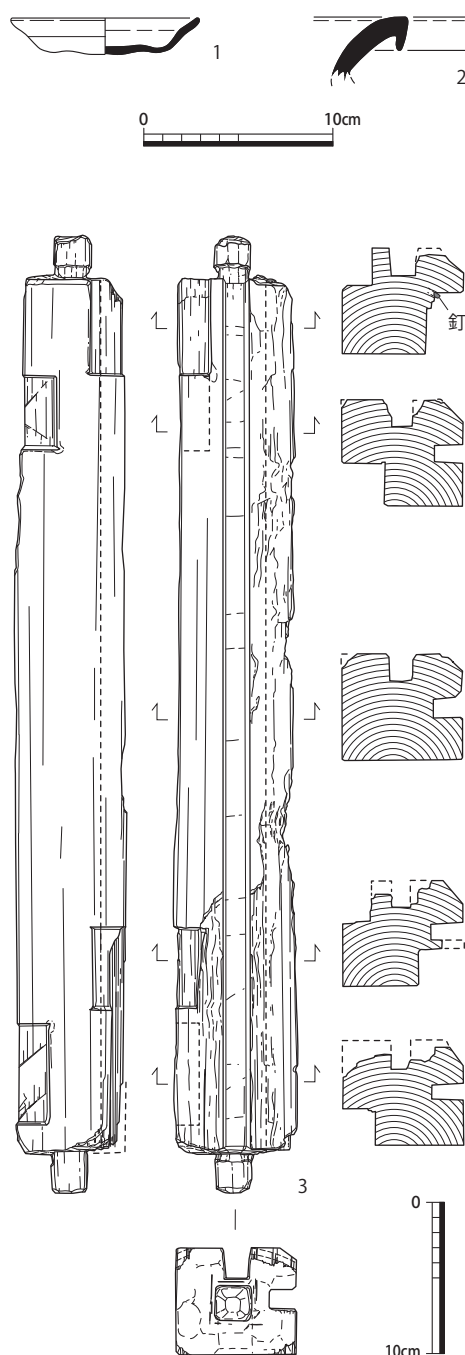


図80 出土遺物実測図（1：4、1：5）

## Ⅲ-8 寺本城跡 (21S791)

### 1. 調査に至る経緯と経過

調査地は、聖母学院小学校の北に広がる住宅地内に位置する。稲荷山丘陵から派生する扇状地の末端にあたり、東から西へ向かって緩やかに下がる景観を呈する。現在、この深草西出町及び坊町に比定地がある寺本城は、七面山に所在する宝塔寺の塔頭のひとつである大雲寺の寺伝に寺本氏の居城とあり、「寺本氏は深草土豪四家（赤塚・寺内・藪・寺本）のひとつにして、世々足利氏末まで隆盛なり。一度山崎の明智氏（光秀）に属し、豊臣氏に向鋒して終に隠棲蟄居、安芸の浅野（長政）侯に仕え、子孫嗣継を全うす。」と記される<sup>1)</sup>。この寺伝に基づくと、寺本氏は室町時代にはすでに居城を構えていたと推測されるが、この地域に存在した考古学的な証左は得られていない。

調査地周辺では、東及び南に位置する寺院推定地内で試掘調査が実施されている。東南に位置する安楽行院跡及び貞観寺跡では、平成24年度に試掘調査が行われ、中世整地層と平安時代整地層と、それぞれの上面で成立する柱穴が検出されている（図81-調査①）<sup>2)</sup>。同じく調査②では、GL-0.8～-0.9 mで土坑を有する遺構面（時期不明）が確認されており、当該地域に人的関与があったことが明らかである<sup>3)</sup>。深草安楽行院は明応9年（1500）の後土御門天皇崩御に際して『明応凶記』に記述があり、中世には深草法華堂と称された。明治年間に廃寺となるまで存続したことから、寺本城が隆盛した時期にも併存していたものと推測される。

今回、寺本城推定地の南東部において共同住宅の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。その結果、中世に遡る遺構を検出した。

### 2. 調査成果

調査は、敷地内の計3箇所において断面観察を実施した。調査地の北西角のNo.1地点では、GL-0.28 mで明黄褐色細砂の整地層を確認した。

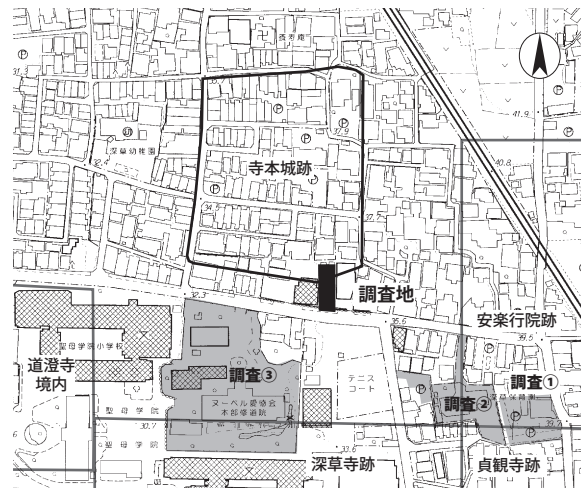


図81 調査位置図（1：5,000）

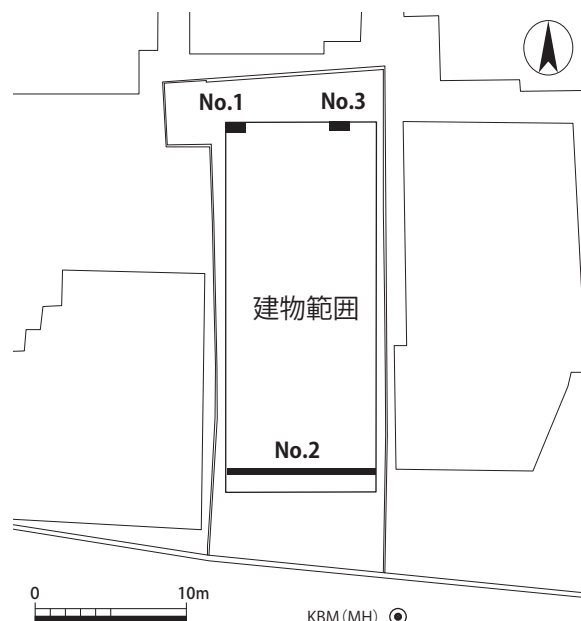


図82 調査地点位置図（1：500）

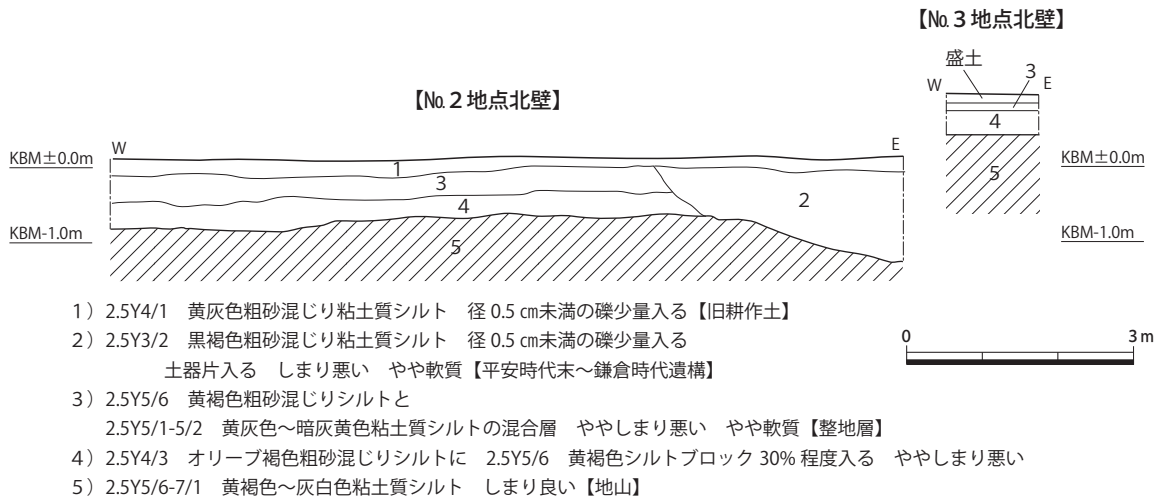


図 83 調査地点断面図 (1:100)

調査地南辺のNo.2 地点では、GL-0.2 mで黄褐色粗砂混じりシルトの整地層、-0.5 mでオリーブ褐色粗砂混じりシルトの土壌化層、-0.8 mで黄褐色粘土質シルトの地山を確認した。整地層の上面では、黒褐色粗砂混じり粘土質シルトを埋土とする溝（または土坑）を検出した。遺構内からは、東播系須恵器鉢の口縁部（図 84- 1）と土師器皿（12

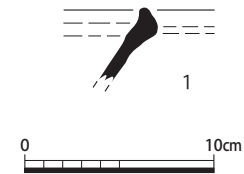


図 84 出土遺物実測図 (1:4)

世紀後半以後)が出土した。この遺構の性格は明らかではないが、掘方は明確で人為的である。土坑ならば大型遺構となる。埋土に流水痕跡は確認できないが、溝であれば、No.3 地点では存在を確認できなかったことから、調査地内のいずれかで場外へ曲がる可能性がある。

調査地北東のNo.3 地点は、南半部より一段高く造成される。GL-0.12 mで黄褐色粗砂混じりシルトの整地層、-0.2 mでオリーブ褐色粗砂混じりシルトの土壌化層、-0.54 ~ -1.56 mで黄褐色～灰白色粘土質シルトの地山を確認した。

### 3. まとめ

以上、寺本城跡における調査成果を記述した。寺本城跡はこれまで発掘調査が行われておらず、今回の報告が初例となる。今回の調査ではいずれの地点においても平安時代後期頃と推定される整地層を確認した。当該時期に何らかの開発が及んだことが窺える。No.2 地点で確認した遺構は、想定された室町時代を遡る時期のものであったが、南側に展開する平安時代創建寺院との関連を含めて注視される内容である。今後の調査成果の集積に期待したい。

(黒須亜希子)

註

- 1) 京都府教育委員会『京都府中世城館跡報告書』第3冊—山城編1—、2014年。
- 2) 京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査報告』平成24年度、2013年。
- 3) 京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査報告』令和3年度、2022年。

### Ⅲ-9 伏見城跡 (22F269)

#### 1. 調査の経緯

本件は明治天皇陵の参道整備に関する調査である。調査地は桃山陵墓内に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「伏見城跡」に該当する。

明治天皇伏見桃山陵から昭憲皇太后伏見桃山東陵への参道に手摺を新設する工事で、支柱基礎掘削の断面を観察・記録した(図86)。

調査地点である参道は、増田右衛門尉郭と山里丸を隔てる丘陵の尾根部を概ね南北に横切っており(図87)、比高は18m以上ある。全93個の工事掘削のうち地層の変化が追える断面を26地点記録した。ここでは紙幅の関係上、地層の変化が確認できた地点について報告する。



図85 調査位置図 (1:10,000)

#### 2. 層序 (図86・88)

地層は主に表土、造成土、地山からなる。地山は丘陵を構成する岩盤とその上位に堆積したシルト・粗砂を主としていた。造成土は伏見城もしくは陵墓の造成に関わるものであった。明治天皇陵が造成されている平坦面に近いNo.1・2地点では、陵墓造成にともなうと考えられる搬入土が

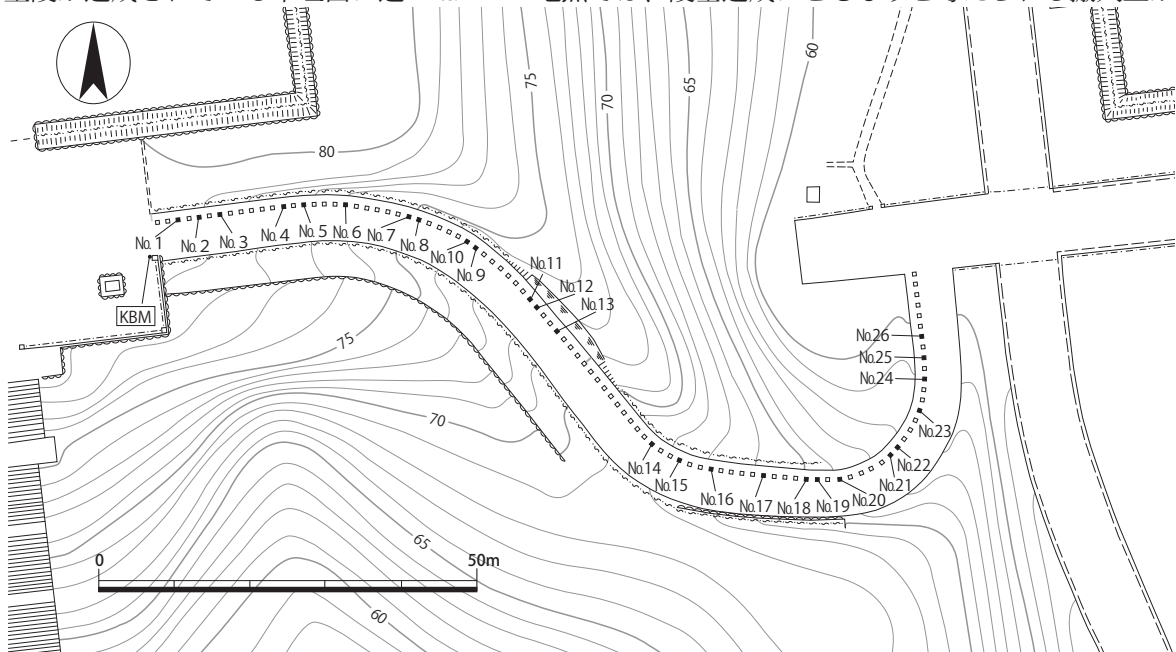


図86 調査地点位置図 (1:1,000)

混じる造成土 A の下に、瓦片を含む造成土 B を検出した。この造成土 B はNo. 3・4 でも確認できた。伏見城期の造成に伴うものと推測される。No. 6～10 では明黄褐色シルトを検出した。木幡山を形成する山土の一部の可能性があるが、確認範囲が狭く性格は不明である。No. 11～13 では浅黄橙色あるいは灰白色の地山を確認した。

No. 14・15・18～22 でも伏見城期の可能性がある造成土 B を確認した。これらの地点は現在の平坦面上に位置する。現在の陵墓参道は蛇行しながら丘陵の尾根を横切っているが、伏見城期にも増田右衛門尉郭と山里丸をつなぐ平坦地があった可能性もある。

なお、No. 23～26 については昭憲皇太后陵の造成にともなう造成土を確認した。

### 3. まとめ

今回の調査では地山の分布を確認できた他、いくつかのまとまった範囲で造成土を確認した。特にNo. 14～22 の造成土は伏見城期に遡る可能性があり現地形が全て陵墓にともなう改変の結果ではないことを示唆する。とはいえ、確認出来た地層は約 0.3 m 角の支柱基礎に伴う掘削の断面を点的に観察したのみであることには注意を要する。

No. 11～13 で確認した地山は、伏見城跡の試掘・発掘調査で検出される造成土の母材となっている土で、木幡山の丘陵部でこの地層を確認できたことも成果といえる。桃山陵墓内には伏見城期の造成土や遺構が良好な状態で遺存されている。小さなトレンチの断面調査ではあったが、高低差がある地形の地層を確認できたことで今後の調査に寄与する情報を得ることが出来た。

(赤松佳奈)

#### 引用文献

『伏見城跡立入調査報告』、大阪歴史学会、2022年。

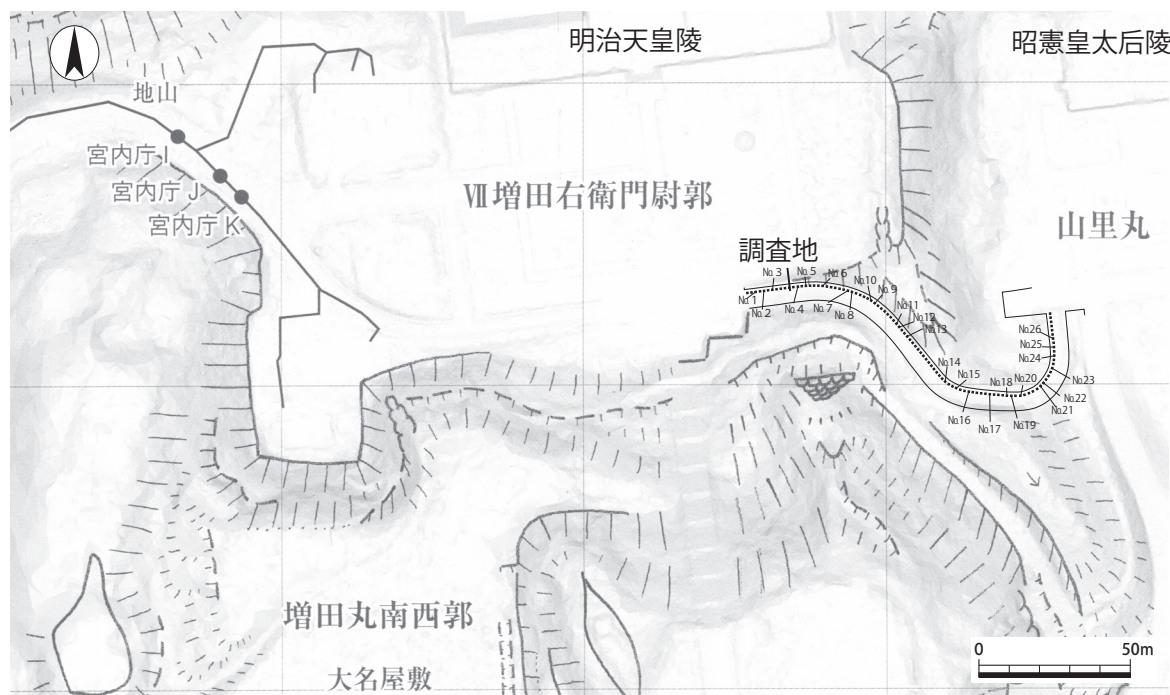


図 87 調査地点と伏見城の曲輪 (1:2500) (大阪歴史学会 2022 図 95 を引用・加筆)

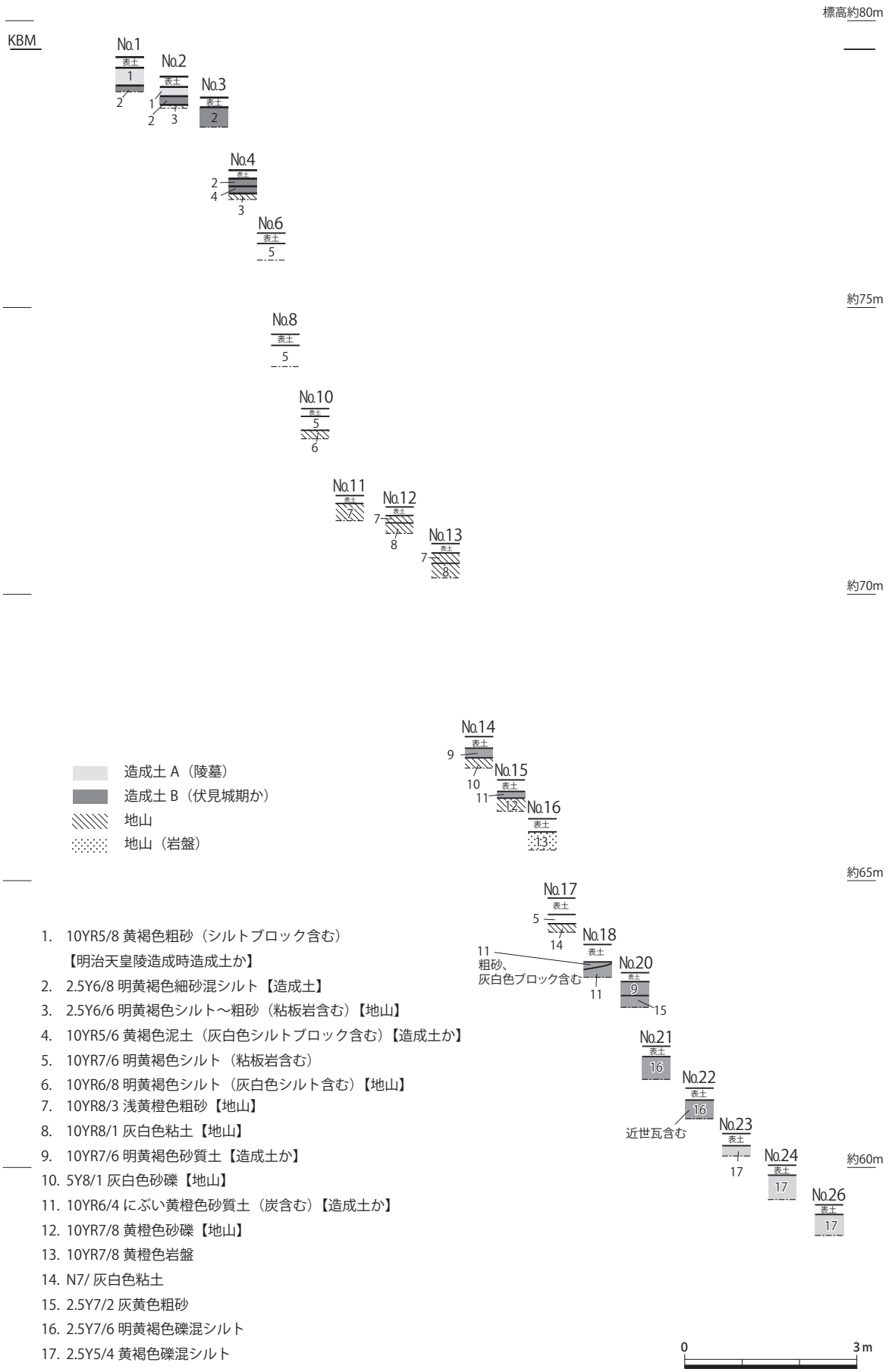


図 88 主な地点の柱状断面図 (1 : 100)

## Ⅲ-10 淀城跡、長岡京左京跡（条坊外）（21S037）

### 1. 調査に至る経緯と経過

調査地は、京阪本線淀駅の南西に位置する。江戸時代初頭に築かれた淀城の東曲輪に相当し、江戸時代中期には家老屋敷が置かれた区画にあたる。ここには日本中央競馬会京都競馬場の寮があり、平成28年度以後、建替え及び増築が計画・施工されている。令和3年度、敷地の南半部に計画された建物範囲を対象として試掘調査を行ったところ、幕末期以前の遺構面が良好に残存することを確認した。試掘調査を受け、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を実施した。その後、周辺の補足調査を当課が行うこととなり、遺構を確認したため、報告する。

発掘調査（図90-調査③）では、江戸時代中期～後期と末期の遺構面を確認し、淀藩家老屋敷とみられる礎石建物群や瓦組遺構、土坑等を検出した。また、当該時期の陶磁器、土師器、瓦、金属製品、石製品等、多数の出土遺物を得た。

特に江戸時代末期の遺構面は、最大厚0.8mに及ぶ大規模な嵩上げ地業の上に形成されており、蠟燭基礎の採用等、入念に建物礎石の構築が行われていた。また調査区の東辺には踏石が据えられており、調査区外にも建物が展開することが予測された。

### 2. 調査成果

補足調査は調査③の周辺5箇所において断面観察を実施した。

#### No.1 地点

GL-0.3mで江戸時代の整地層とこれを切る落ち込みを確認した。西へ下がる壇造成の残存を予想したが、確認できなかった。

#### No.2 地点

GL-1.05mで暗灰黄色泥砂、-1.19mで炭化物集積土、-1.23mで暗灰黄色泥砂、-1.26mで鳥



図89 調査位置図と淀城の復元（1：10,000）

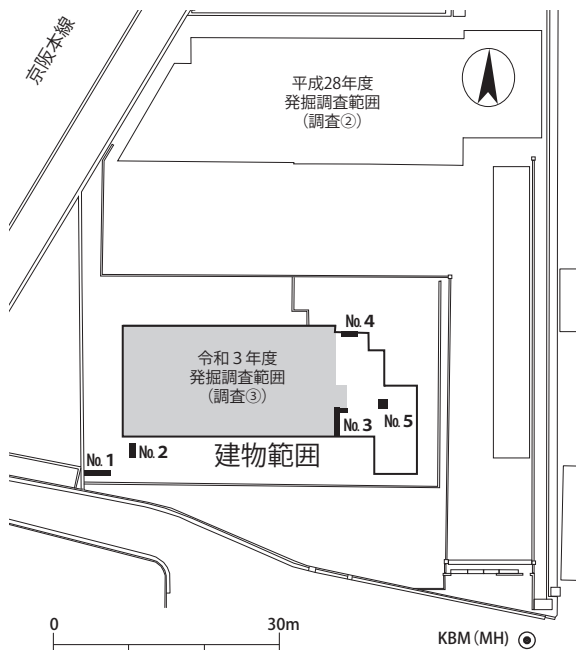


図90 調査地点位置図（1：1,000）



羽伏見の戦いに伴う焼土、-1.28 mで暗灰黄色泥砂、-1.5～-2.07 mで浅黄色粗砂の江戸時代後期造成土を確認した。

### No.3 地点

発掘調査区東辺で確認された瓦溜（土坑 510）の東側地点である。土坑 510 が 1 基の遺構ではなく、切り合いがある複数の土坑であることを確認した。GL-0.2 m でにぶい黄褐色粗砂混じり砂質シルト～粗砂、-0.4 m で褐灰色～にぶい黄褐色粗砂～細砂があり、これを切って土坑 2 基が成立する。-0.58 m で褐色粗砂～細砂、-0.85 m で明黄褐色細砂の江戸時代後期造成土に至る。土坑内には被熱痕跡のある瓦片が多数含まれており、鳥羽伏見の戦いの際の火災処理土坑であることを追認した。北側の土坑 3-2 より瓦（図 92-1～3）が出土した。

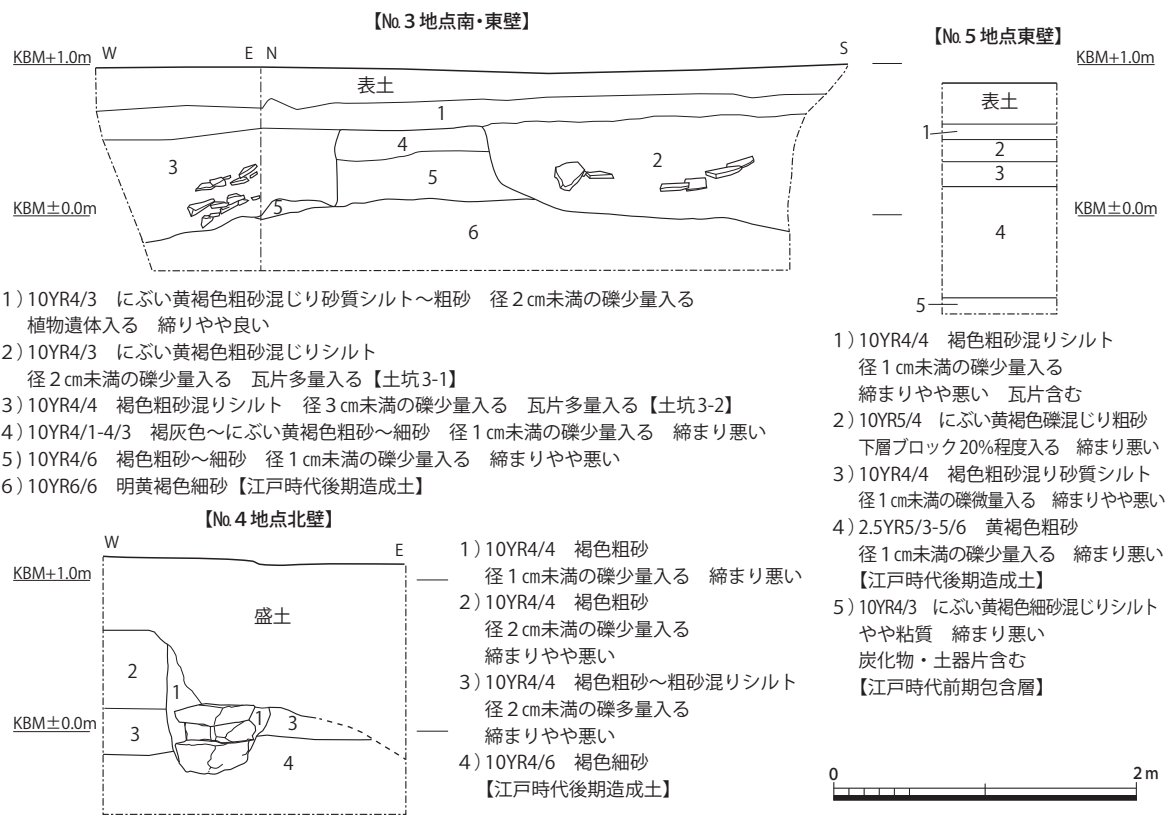


図 91 調査地点断面図及び拓影（1：50）

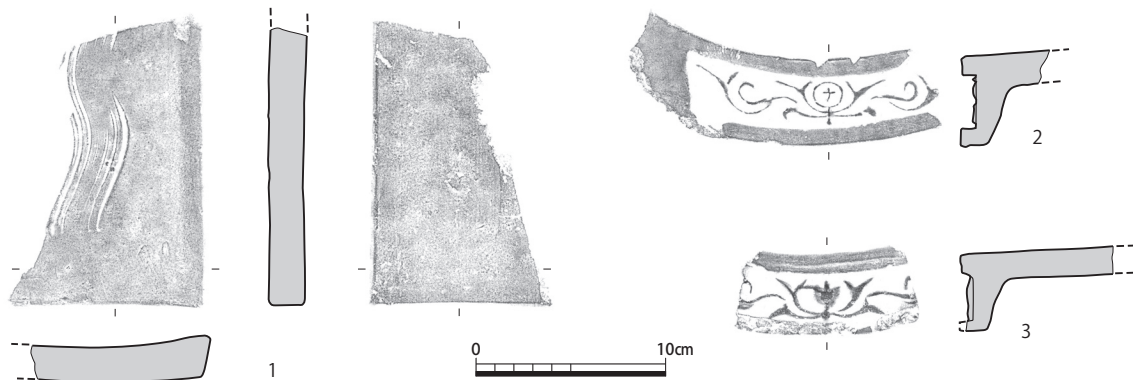


図 92 出土遺物実測図及び拓影（1：4）

#### No.4 地点

発掘調査区の東北辺で、礎石を備えるピット（柱穴 4-1）を検出した。GL-0.45 mで褐色粗砂、-1.0 mで多量に礫を含む褐色粗砂混じりシルトの整地層、-1.3 mで褐色細砂の江戸時代後期造成土に至る。柱穴 4-1 は最大径 0.7 m、検出深度 0.85 m、埋土は褐色粗砂を主体とする。中央にやや扁平な花崗岩の角礫を 3 点重ねて据えており、建物の柱穴と推測される。上位を攪乱されているため遺構の成立面が明らかではないが、層序関係から江戸時代末期の遺構である可能性が高い。

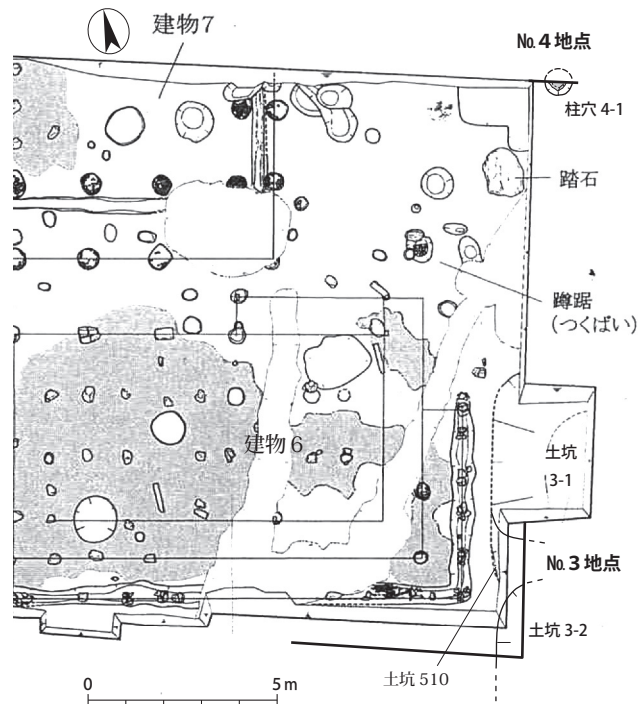


図 93 遺構面全体図 (1 : 200)

#### No.5 地点

GL-0.26 mで褐色粗砂混じりシルトの近代堆積層、-0.37 mでにぶい黄褐色礫混じり粗砂、-0.5 mで褐色粗砂混じり砂質シルト、-0.7 mで黄褐色粗砂の江戸時代後期造成土、-1.4 mでにぶい黄褐色細砂混じりシルトの江戸時代前期整地層を確認した。この整地層上面が、本発掘調査時に確認された江戸時代中期の礎石建物群検出遺構面である。調査区東へも遺構面が連続することを確認した。

### 3. まとめ

以上、淀城跡の補足調査について記述した。調査地周辺ではこれまでも土蔵跡（調査①）や、淀城築城時に遡る遺物の発見が報告されており（調査②）、曲輪が存在した当該時期の様相を良好に残す地域と考えられている。今後も調査を重ねることにより、城の外堀として機能した旧桂川の水域推定を含め、城の全体復原が行われることに期待したい。

(黒須亜希子)

#### 引用文献

調査①：(公財)京都市埋蔵文化財研究所、『長岡京跡・淀城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2003-13、2004年。

調査②：(公財)京都市埋蔵文化財研究所、『長岡京跡・淀城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017-4、2017年。

調査③：(公財)京都市埋蔵文化財研究所、『長岡京跡・淀城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2021-14、2022年。

### Ⅲ-11 愛宕山遺跡及び愛宕山遺跡隣接地（21A004）

#### 1. 調査の経緯

愛宕山遺跡は、京都盆地北西に聳える愛宕山山中に点在する平安時代の寺院跡である。同遺跡では、これまで複数の箇所平坦面及び平安時代の遺物が散布する状況が確認されている<sup>1)</sup>。昨年度にも、愛宕山遺跡に隣接する竜ヶ岳の山頂直下において、礎石建物跡を新たに発見した<sup>2)</sup>（図94-調査地点1）。散布する平安時代前期の遺物と近世の地誌類の記述<sup>3)</sup>から、和気清麻呂が愛宕五岳に建立した五寺の一つである日輪寺跡と推定された。これを受けて当課では、同遺跡内の全容を明らかにするため、順次踏査及び測量を実施している。踏査にあたっては、本市林業振興課において所有する市内山間部の赤色立体図を参考にした。

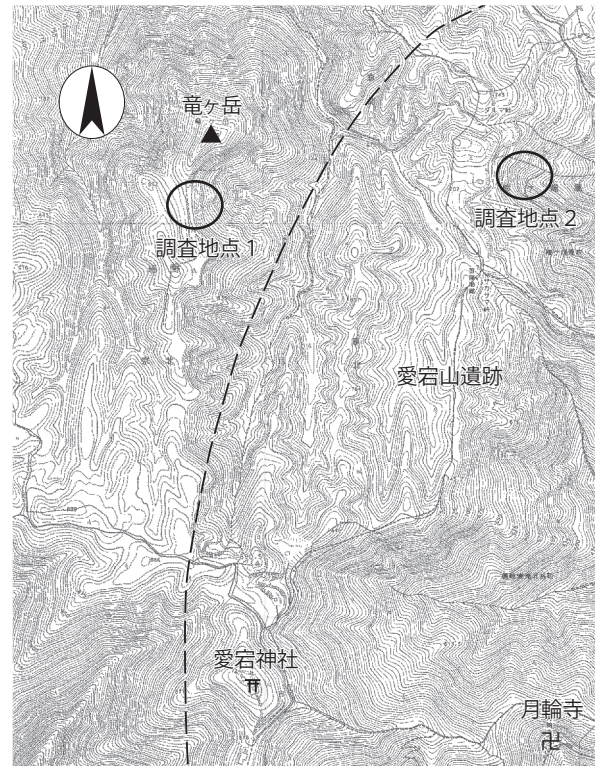


図94 調査位置図（1：25,000）

今年度は、昨年度に引き続き日輪寺跡の踏査と、平成13年に報告された雲心寺跡付近の踏査（図94-調査地点2）を令和4年2月6日、4月20日、12月10日に実施した。その結果、調査地点1・2で平坦面を複数確認し、遺物の採集を行ったため、これを報告する。併せて、昨年度報告では、平坦面の規模は略測であったことから、再測量を実施した。

#### 2. 遺構

##### 調査地点1（図96）

昨年度に確認した礎石建物跡が立地する平坦面は、竜ヶ岳頂上に向かう緩やかな稜線上に位置している（平坦面1a）。平坦面は南北に長く、比高0.3mの段をもって南北2段に分かれ、上段が長さ16m、幅11m、下段が長さ40m、幅11～16mある。礎石建物は北側の下段に位置している。この平坦面1aの東側の山腹にて2箇所の平坦面を確認した（平坦面1b・c）。いずれも稜線に続く尾根を削り出して構築され



図95 平坦面1b（北から）

ている。1bは、標高830m付近に位置し、南北方向に細長く、長さ約35m、東西幅は最大で約9mを測る。平坦面の南端にはチャートの岩盤が露出する。表面観察では礎石等は確認できなかったが、時期不明の平瓦片を採集した。1cは、1b北側の谷を挟んだ標高830m付近の尾根上に立地する。規模は南北12m、東西8mの舌状を呈する。礎石等の遺構や遺物は認められなかった。

### 調査地点2 (図97)

雲心寺跡は、ダルマ峠の東側斜面の標高600m前後の山腹に、雛壇状に造成された4段に及ぶ平坦面を中心として、南側の谷を挟んで2つの尾根に展開する平坦面群で構成されている。今回、南端の平坦面群の上部、標高630～675m付近に立地する平坦面群を確認した(平坦面2a～e)<sup>4)</sup>。

いずれも東西方向の尾根の斜面を雛壇状に削り出し構築されている。最上段に位置する平坦面2aは、長さ20m、幅15mで平坦面群の中で最大の規模を持つ。2bが長さ25m、幅10m、2cが長さ13m、幅6m、2dは南北2つに分かれ、2d-1が長さ15m、幅5m、2d-2が長さ12m、幅4m、2eが長さ11m、幅9mで、2eを除き南北方向に細長い平面形を呈する。各平坦面は上下の平坦面とを繋ぐ小径の痕跡が残る。表面観察では、礎石は確認出来なかったが、平坦面2d-2の下部斜面にて平安時代前期の須恵器、土師器、黒色土器等を採集した。

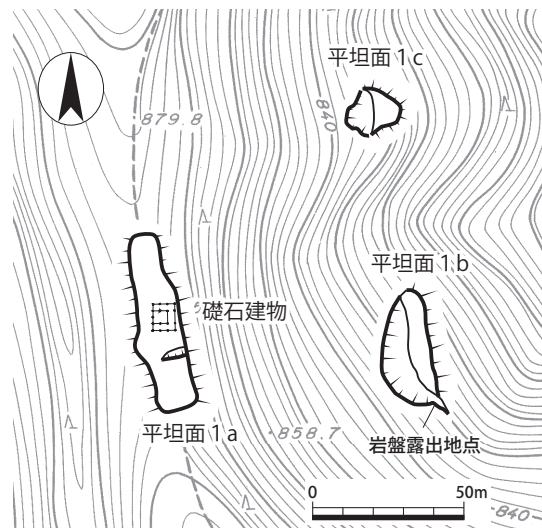


図96 調査地点1 平坦面配置図 (1:2,500)

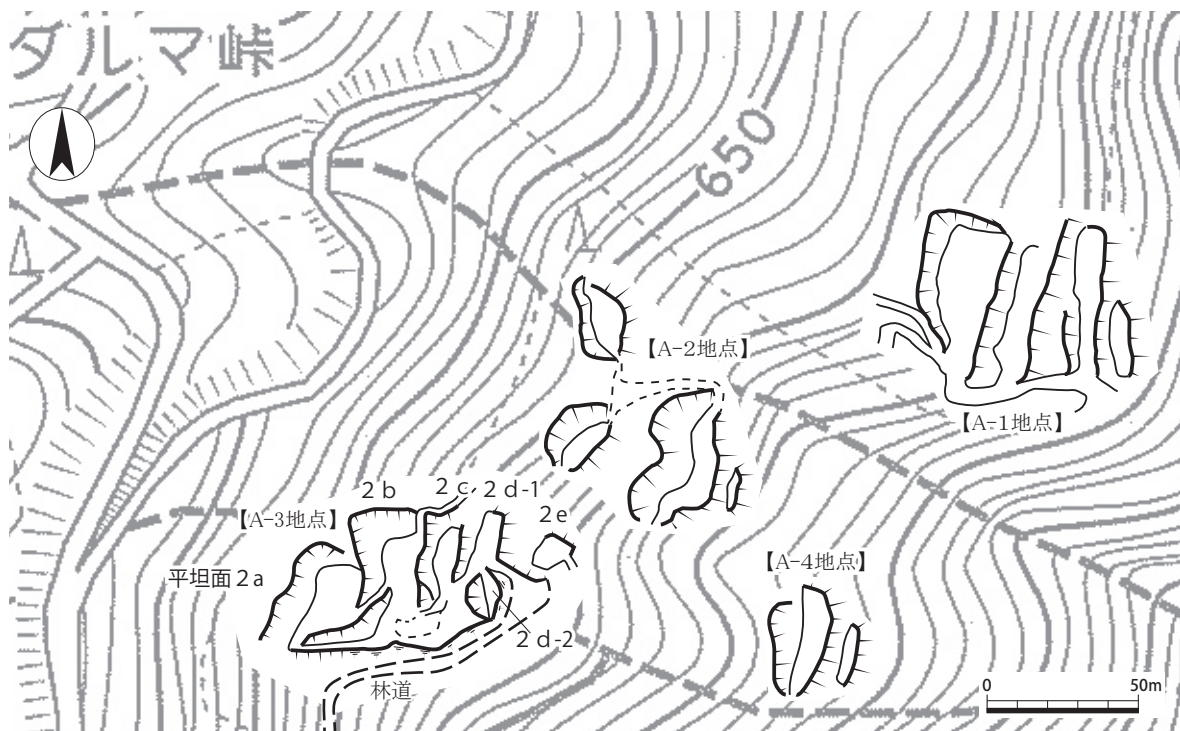


図97 調査地点2 平坦面配置図 (1:2,500) 【】は註4文献図2の地点名

### 3. 遺物

今回の踏査で採集した遺物は、調査地点1の礎石建物跡が立地する平坦面1a付近にて、口縁部に油煙が付着した土師器皿、甕、黒色土器椀、須恵器椀、壺、1bにて平瓦片を、調査地点2では、土師器甕のほか、須恵器甕、椀、皿、灰釉陶器椀、皿など、平安時代前期に属するものが大半を占める。いずれも細片が多く、図示出来るものは少ない。

1～7は須恵器である。1～3は壺で1が小型壺（壺G）、3が大型の壺（壺A）の口縁部である。いずれも端部をやや上方に摘まみ上げる。1の口径は3.9cm。2は小型壺（壺G）の底部である。外面に糸切痕が残る。底径4.4cm。4は鉢の口縁部である。端部を肥厚させ玉縁状を呈し、肩部で内側に屈曲する。5はつまみの無い杯蓋である。口径15.4cm。6・7は杯又は椀の底部である。底部外面には糸切痕が残る。6の底径は5.0cm、7は6.2cmである。

8は黒色土器A類の杯口縁部である。端部はやや外反する。9・11は灰釉陶器である。9は杯口縁部で、端部はやや肥厚し、玉縁状を呈す。11は椀の底部である。高台は貼り付け高台である。高台径は7.6cm。10は緑釉陶器椀の底部である。削り出し蛇の目高台で、底径6.2cm。

遺物の年代は、いずれも9世紀代から10世紀初頭頃の様相を示す。採集地点は、1・2・6が調査地点1平坦面1a西斜面、他は調査地点2d-2東斜面である。

### 4. まとめ

今年度の踏査では、日輪寺跡と考えられる調査地点1にて新たに2箇所の平坦面と、調査地点2では、5段に及ぶ平坦面を確認し、平安時代前期の遺物を採集した。ここでは、発見した平坦面の立地や規模、採集遺物の様相を踏まえ、若干の考察を述べる。

平坦面1b・cは、平坦面1が所在する稜線へと続く別々の尾根上に立地し、東側に眺望が開く。いずれも別々の尾根上に単独で立地しており、上下に展開することはない。遺物も少なく、平坦面が構築された時期など不明な点も多いが、竜ヶ岳の稜線に築かれた平坦面1aとは、平安京が所在する東側への眺望を有する共通点からも、日輪寺の寺域の一画を占めていたと考えられる。その中で1b南端に露呈する岩盤のチャートは注目できよう。一部が土砂に埋没しているが、高さ約5mあり、磐座として信仰の対象であったと捉えることも可能である。

雲心寺跡に比定されている平坦面群の南西上方で確認した平坦面2a～eは、平成13年度の報告に「小規模な段が連続する」とされたA-3地点に該当する。今回の踏査によって、平坦面は小

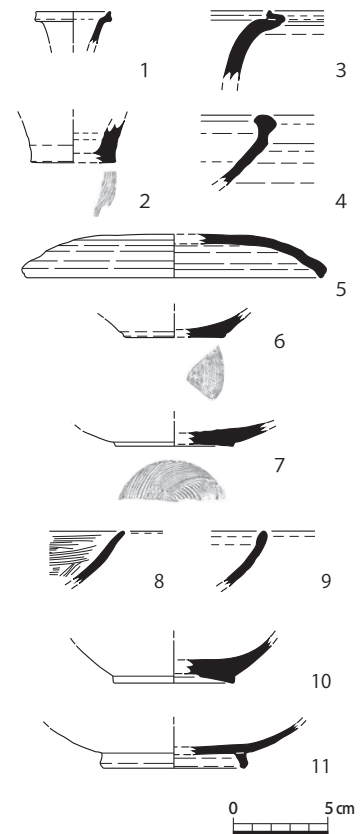


図98 遺物実測図（1：4）

規模ながらも5段認められた。平坦面は、東側に眺望が開く尾根上に立地しており、相互に道で繋がる一体性を持つ。雲心寺跡は、寛喜2年(1230)に描かれた「主殿寮御領小野山与神護寺領堺相論絵図」に「雲心寺舊跡壇」として雛壇状に4段と3段の平坦面が示されている。中でも、4段の平坦面は、平成13年に報告された標高600m前後の雛壇状の平坦面群(図97【A-1地点】)とよく一致することから雲心寺の中枢部に該当すると考えられている。その際の調査で、9世紀後半～10世紀初頭の様相を示す須恵器、土師器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器などが表採されており、今回の踏査で確認した遺物と器種構成及び年代が共通する。A-1地点からは指呼の間であり、雲心寺の一面を構成していたと考えるのが妥当であろう。上記の絵図には、描かれた鎌倉時代前半に既に舊跡とあることから、寺院としては廃絶していることがわかり、かつてはさらに広大な寺域を有していたことも考えられる。

以上の通り、今年度の踏査では、日輪寺跡及び雲心寺跡で平坦面を確認する成果を得た。上述した『山城名勝志』には、愛宕五岳に築かれた五ヶ寺のほか、五千坊が営まれたと記載されている。実態を表すものではないとしても、相当数の建物が愛宕山中に所在していたことを示すものとして注目されよう。今回の踏査でも、調査地点1・2のほかに、これまで言及されていない人工的な平坦面を確認しており、来年度以降も引き続き愛宕山遺跡の踏査・測量を実施し、全容を明らかにしていく所存である。

(西森正晃)

#### 註

- 1) 屋木秀雄ほか「京都・愛宕山中の遺跡-雲心寺跡の発見-」『佛教藝術』259号、2001年。  
「愛宕山遺跡」『京都府中世城館跡調査報告書 第3冊-山城編1-』、京都府教育委員会、2014年。
- 2) 「愛宕山遺跡隣接地」『京都市内遺跡詳細分布調査 令和3年度』、京都市文化市民局、2022年。
- 3) 「光仁帝即位、勅慶俊僧都、中興此山、和氣清麻呂所建也、白雲寺朝日峰、月輪寺大鷲峰、神願寺高雄、日輪寺龍上、傳法寺賀魔蔵、五寺外宮五千坊(後略)」『山城名勝志』新修京都叢書第十三巻、臨川書店、1994年。
- 4) 上記1) 図2のA-3地点に該当する。ここでは位置は示されているものの、平坦面の形状は示されていない。

## IV 調査一覧表

I 2022年 1～3月期(令和三年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省跡	上・亀屋町62	3/29	GL-0.6mまで盛土。	21K733	HQ 597	1
主殿寮、聚楽第跡	上・新白水丸町462-2	2/7	GL-0.3mまで盛土。	21K654	HQ 529	1
茶園跡、聚楽第跡	上・新白水丸町462-53の一部	3/17	GL-0.4mまで盛土。	21K613	HQ 583	1
茶園跡、聚楽第跡	上・松屋町通一条下る下鏡石町208-2	3/30、4/5	GL-0.2mまで盛土。	21K741	HQ 599	1
正親司・大蔵庁跡	上・御前通一条下る東堅町132-1	1/21～8/31	GL-0.66mまで盛土。	21K377	HQ 484	1
宴松原跡	中・聚楽廻西町地先	21/4/8、 22/2/14・15	巡回時掘削終了。	20K802	HQ 024	1
宴松原跡	上・仁和寺街道六軒町西入四番町151-113	21/9/9～ 22/1/28	GL-0.3mまで盛土。	21K236	HQ 256	1
宴松原跡	上・三番町265-2	2/1	GL-0.4mまで盛土。	21K648	HQ 514	1
宴松原跡	上・三助町地先	3/7	巡回時掘削終了。	21K671	HQ 572	1
縫殿寮跡	上・上長者町通千本東入二丁目山王町503-5	1/27	GL-0.2mまで盛土。	21K343	HQ 499	1
縫殿寮跡	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町35-4・6	3/25	GL-0.2mまで盛土。	21K776	HQ 593	1
梨本跡、聚楽第跡	上・下長者町通智恵光院東入西辰巳町116-8	1/13	GL-0.3mまで盛土。	21K548	HQ 459	1
内裏跡、聚楽遺跡	上・十四番町413-14・16地先	3/31、4/1	巡回時掘削終了。	21K735	HQ 603	1
内裏跡、聚楽第跡	上・田村備前町237	1/19	巡回時掘削終了。	21K496	HQ 479	1
西雅院跡	上・日暮通丸太町上る西入西院町747-20、下立壳通日暮西入中村町531-1	1/27	GL-1.2mまで盛土。	21K158	HQ 498	1
造酒司跡、 鳳瑞遺跡	中・聚楽廻松下町9-2	3/24	GL-0.1mまで盛土。	21K710	HQ 590	1
左馬寮跡	中・西ノ京左馬寮町3-1	2/3・9・10	GL-0.45mまで盛土。	21K472	HQ 521	1
豊楽院跡、 聚楽遺跡	中・聚楽廻中町57-11	2/2	GL-0.45mまで盛土。	21K593	HQ 517	1
朝堂院跡、 聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町811-6、1271-2	21/9/24～ 22/2/14	巡回時掘削終了。	21K235	HQ 287	1
太政官跡、 聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町1023	2/28	GL-0.52～-0.61mでにぶい黄褐色砂泥。	21K561	HQ 554	1
太政官跡、 聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町1023-2	2/28	GL-0.3mまで盛土。	21K562	HQ 555	1
太政官跡、 聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町1023-3	2/28	GL-0.41mでにぶい黄褐色砂泥、-0.56～-0.61mで灰黄褐色粘質土。	21K563	HQ 556	1
御井跡	中・西ノ京車阪町15-5	21/8/11～ 22/2/14	GL-0.5mまで盛土。	21K078	HQ 202	1
民部省跡、 聚楽遺跡	上・竹屋町通千本東入主税町910	1/24	GL-0.85mまで盛土。	20K562	HQ 488	1
式部省跡	中・西ノ京小堀町2-28の一部(B棟)	1/14・17	GL-0.8mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層、-1.03～-1.26mで黄褐色砂礫の地山。	21K594	HQ 462	1
式部省跡	中・西ノ京小堀町2-28の一部(A棟)	1/14・19	GL-0.67mでにぶい黄褐色泥砂、-1.0～-1.19mで黄褐色砂礫の地山。	21K595	HQ 461	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町25-8	1/28、2/2	GL-0.57～-1.19mで明黄褐色シルトの地山。	21K484	HQ 502	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町41-1の一部、 西ノ京星池町210の一部	3/22・23	GL-0.5～-0.78mで黄褐色砂礫の地山。	21K747	HQ 587	1
判事跡	中・西ノ京内畑町13-22	3/7	GL-0.3mまで盛土。	21K664	HQ 571	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊八町跡、 内膳町遺跡	上・西洞院通一条下る讚州寺町 238-4の一部	3/29	GL-0.5mまで盛土。	21H714	HL 596	2
北辺三坊七町、 四坊七町跡、公家町 遺跡、内膳町遺跡	上・京都御苑3	1/12・13・ 17・24、 2/8・10	GL-0.08mで褐色粗砂混シルトの火災処理層、 -0.31mで暗褐色細砂混シルトの近世包含層、 -0.46mで褐灰色粗砂混シルトの近世整地層、 -0.56mで暗褐色細砂混シルトの近世包含層、 -0.81mで暗褐色粗砂混シルトの時期不明包含層、 -0.93~-1.13mで暗褐色砂礫~礫混砂質シルト層。	21H502	HL 449	3・ 17-3
北辺三坊七町、 四坊七町跡、公家町 遺跡、内膳町遺跡	上・京都御苑3	2/28	GL-0.15mで黒褐色砂泥（固く締まる）、-0.35~ -0.40mで暗褐色泥砂。	21H392	HL 557	3・ 17-3
北辺三坊八町跡、 公家町遺跡	上・京都御苑3	21/10/26~ 22/2/24	№1；GL-0.19mで黒褐色シルトを切って暗褐色 砂質土の近世以降土坑、-0.46~-0.7mで暗褐色 シルト。№4；GL-0.1mでにぶい黄褐色泥砂、 -0.18mで灰褐色泥砂、-0.4mで褐色砂質土、-0.6~ -1.0mでにぶい黄褐色泥砂。	20H108	HL 339	3
北辺四坊七町、 一条四坊十六町跡、 公家町遺跡、 京都新城跡	上・京都御苑3	1/12~24、 2/8~22、 3/2~8	GL-0.24mでにぶい黄色砂質土の時期不明路面、 -0.29~-0.83mで灰黄褐色粘質土の時期不明包含 層。	21H503	HL 448	3・ 17-3
一条二坊十一・ 十三・十四町、 三坊三・四・五・ 六・十一・十二町、 二条三坊一町跡、 旧二条城跡、 烏丸丸太町遺跡	上・下立売通、東堀川通~烏丸通他 地内	21/6/21~ 22/4/26	№19；GL-1.0mで明黄褐色シルト、-1.15~-1.3m で黒褐色泥砂の時期不明包含層（土師器）。№32； GL-0.95mでにぶい黄褐色泥砂、-1.22mで褐灰色 粗砂の鎌倉包含層（土師器）、-1.35~-1.55mで 褐色細砂。№35；GL-0.9~-1.05mで褐灰色砂泥 の時期不明包含層（土師器）。№36；GL-0.9m でオリーブ黄色泥砂（小礫混、固く締まる）の 時期不明路面、-0.95~-1.05mで灰黄褐色砂泥。	20H744	HL 134	2・3
一条三坊一町跡	上・中長者町通新町西入仲之町 288-4	3/31、4/1	GL-1.05mで黒褐色粘質土の近世包含層、-1.4~ -2.8mまで明黄褐色砂礫の地山。	21H505	HL 604	3
一条四坊十六町、 二条三坊十六町跡、 公家町遺跡、 烏丸丸太町遺跡、 京都新城跡	上・京都御苑3	1/21、2/10・ 28、3/2・ 3・8	近世の門の礎石を検出。 <b>本報告6ページ。</b>	21H356	HL 483	3・ 17-3
二条三坊十町跡、 烏丸丸太町遺跡	中・両替町通竹屋町上る西方寺町 155-1	1/12	GL-0.2mまで盛土。	21H527	HL 452	3
二条三坊十六町跡、 公家町遺跡、 烏丸丸太町遺跡	上・京都御苑3	2/3~8/31	GL-0.95mで池の汀に近世木柱と銅木。	21H659	HL 522	3
二条四坊一・ 八町跡、公家町遺 跡、京都新城跡、 烏丸丸太町遺跡	上・京都御苑3	21/9/3~ 22/3/30	九條池汀石組みの断面を検出。 <b>本報告9ペー ジ。</b>	21H088	HL 249	3
三条二坊十一町跡	中・姉小路通堀川東入鍛冶町156他	21/11/11~ 22/1/5	平安末期~室町のピット、土坑、土坑墓、溝を 多数検出。 <b>本報告13ページ。</b>	19H145	HL 370	2
三条二坊十四・ 十五町、三坊 三町跡、妙顕寺城跡	中・御池通油小路東入下古城町415~ 西洞院通姉小路下る姉西洞院町 547-1地先	1/17~11/9	GL-0.45mで灰色泥砂、-1.35~-1.55mまで灰色 粘質土。	21H609	HL 469	2
三条三坊六町跡、 烏丸御池遺跡	中・新町通御池下る神明町70-1の一 部	3/25、4/4	GL-2.2~-2.3mで灰色粘土の地山。	21H554	HL 592	3
三条三坊八町跡、 妙覚寺城跡	中・二条通室町西入大恩寺町237-1、 240、二条通新町東入大恩寺町242	3/1	GL-0.3mまで盛土。	21H397	HL 562	3
三条四坊一町跡	中・間之町通二条下る鍵屋町488、 492、押小路通高倉西入左京町135	21/10/20・ 27、22/1/24	試掘・発掘調査後の設計変更の施工時確認。 GL-0.56mまで盛土。	21H182	HL 328	3
三条四坊八町跡、 等持寺跡	中・柳馬場通二条下る等持寺町19-1	1/14~2/21	平安前期・後期・室町のピット、土坑を検出。 <b>本報告20ページ。</b>	21H461	HL 463	3
三条四坊九町跡	中・柳馬場通二条下る等持寺町15他	3/31	GL-1.0mまで盛土。	21H699	HL 602	3



遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
三条四坊十六町跡、 寺町旧域	中・寺町通二条下る妙満寺前町451、 453	2/28、3/1・ 4・7・14	No.1 ; GL-0.85mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明 包含層、-1.35mでにぶい黄褐色粗砂の地山、 -1.83~-1.97mで浅黄色砂礫。No.3 ; GL-1.92~ -2.56mで黒褐色砂礫の氾濫堆積。	21H531	HL 558	3
四条一坊一・ 十二町跡	中・壬生坊城町他 地内	21/8/2、 22/2/15	巡回時掘削終了。	20H623	HL 191	4・ 11
四条二坊八町跡	中・岩上通三条下る下八文字町 693の一部	2/16	GL-0.45mまで盛土。	21H599	HL 543	4
五条一坊八町跡、 本隆寺の構え跡	中・賀陽御所町73-1、73-2、71-1、 79、79-1、79-5、79-6、79-7	21/11/19~ 30、12/3、 22/1/11~ 26	GL-0.78mで灰黄褐色泥砂、-1.15mで褐色泥砂の 平安後期包含層（土師器）、-1.4mで褐灰色泥砂、 -1.58mで灰黄褐色シルトの地山、-1.82~-2.6m で灰白色砂礫の地山。	21H411	HL 379	4
五条一坊十五町跡	下・大宮通綾小路下る綾大宮町51-2	1/18~8/31	GL-0.5mまで盛土。	21H436	HL 474	4
五条二坊八町跡、 妙満寺の構え跡	下・堀川通四条下る四条堀川町267、 269、271の各一部	1/6	GL-0.5mまで盛土。	21H604	HL 441	4
五条二坊十五町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・西洞院通綾小路下る綾西洞院町 729	1/26	GL-1.82~-1.94mで褐色砂礫の地山。	21H419	HL 493	4
五条四坊十六町跡	下・貞安前之町589	1/31、2/2	GL-2.25mまで盛土。	21H226	HL 505	5
六条二坊十町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・油小路通五条上る上金仏町245、 245-1、245-2、245-3、245-4	3/22・23・ 24・31	GL-1.87mで明黄褐色泥砂（礫混）の地山、 -2.07~-2.93mで淡黄色泥砂。	21H426	HL 586	4
六条四坊四町跡	下・高倉通五条下る二丁目富屋町39他	2/1	GL-0.2mまで盛土。	21H357	HL 508	5
七条二坊十三・ 十四・十五町跡	下・西洞院通花屋町下る西洞院町~ 西洞院通七条上る福本町 地先	21/11/5~ 22/1/26	GL-1.25mまで盛土。	21H500	HL 362	6
七条三坊十三・ 十四・十五町跡、 東本願寺前古墓群	下・常葉町85他 地内	1/27~ 11/14	GL-0.95mで黒褐色粘質土、-1.22~-1.35mで灰褐 色粘質土の江戸後期包含層（土師器Ⅲ）。	21H328	HL 501	7
七条四坊五町跡	下・東枳殻馬場通七条上る住吉町349-4	2/3	GL-1.17~-1.95mで浅黄色砂礫の地山。	21H475	HL 507	7
七条四坊六町跡、 名勝涉成園	下・東玉水町300	1/26	No.1 ; GL-0.2mで暗灰黄色粘質土の護岸裏込土。 -0.5mで灰黄色砂礫（固く締まる）。No.2 ; GL-0.1m で暗灰黄色粘質土の護岸裏込土、-0.25mで護岸 石固定のための丸太。No.3 : GL-0.3mで暗灰黄色 粘質土の護岸裏込土、-0.5mで灰黄色砂礫。	3N061	HL 496	7
八条二坊十五・ 十六町、三坊一・ 二・七・八・ 九・十町跡、 東本願寺前古墓群	下・七条通~塩小路通、西洞院通~ 烏丸通 地内	1/7~25、 2/9・24、 3/4、6/28、 7/6~26、 8/3・12・19	No.7 : GL-1.08mで浅黄色粗砂、-1.25~-1.48m でオリープ黒色泥土~粗砂の湿地状堆積。No.8 ; GL-0.3mで暗灰黄色砂礫の河川堆積、-0.8~-1.8m で黒褐色礫混シルトの近世堆積層。	21H168	HL 443	6・7
八条四坊 六・七町跡	下・川端町、下之町、東之町、 西之町、上之町	21/4/27~ 22/2/15	GL-1.73~-4.8mで黄灰色砂礫の地山。	19H674	HL 055	7
八条四坊七町跡	下・上之町 地内	3/22	GL-1.9mまで攪乱。	21H245	HL 585	7
九条一坊一町跡、 御土居跡	南・八条源町40-7~八条源町45 地先	1/11~18	巡回時掘削終了。	21H632	HL 444	6
九条二坊十一町跡、 烏丸町遺跡、 御土居跡	南・西九条蔵王町31-1他	1/6	GL-0.26mでオリープ灰色粘質土、-0.53mで明オ リーブ灰色シルト、-1.25mで黄褐色砂礫の河川 堆積。	21H385	HL 442	6
九条三坊十三町跡、 烏丸町遺跡	南・東九条烏丸町30-4	1/24	GL-1.25mで灰黄褐色細砂混シルトの時期不明包 含層、-1.39mで暗灰黄色微砂混粘土質シルトの 地山、-1.71~-2.54mで黄灰色~オリープ褐色 砂礫の旧流路。	21H556	HL 487	7
九条四坊四町跡、 烏丸町遺跡	南・東九条中御霊町55	2/7・9・14	GL-0.68mまで盛土。	21H499	HL 528	7
九条四坊十五町跡	南・東九条東岩本町26	1/12	GL-0.35mまで盛土。	21H359	HL 451	7

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊六町跡、御土居跡	北・大將軍川端町 地先	3/2	GL-0.6~-0.75mで明黄褐色シルト。	21H725	HR 564	9
一条二坊四町跡	中・西ノ京鹿垣町1-44、3-5	2/1	GL-0.7mまで盛土。	21H592	HR 513	9
一条二坊九町跡、御土居跡	北・大將軍東鷹司町 地先	3/14	GL-0.45~-0.6mで明黄褐色シルトの地山。	21H724	HR 580	9
一条二坊十二・十三町跡	中・西ノ京北円町、西円町22	2/8・9・10・14	No.1 ; GL-0.2mで黒褐色礫混シルトの平安包含層(土師器、須恵器)を切って黒褐色粗砂混粘土質シルトの平安土坑(土師器、須恵器)、-0.4mで暗褐色礫混シルト、-0.8mで褐色砂礫の地山。 No.4 ; GL-0.17mで黒褐色粗砂混シルトの時期不明包含層、-0.35mで黒褐色粗砂混シルトの平安包含層(土師器、平瓦)、-0.58~-1.4mまで褐色粗砂混シルトの地山。	21H631	HR 532	9
一条四坊一町跡	右・花園猪ノ毛町9-41、9-43、11-27	3/28	GL-0.22mまで盛土。	21H689	HR 594	8
二条二坊三・四町、三条二坊七・八町跡	中・西ノ京冷泉町~西ノ京原町 地先	21/11/1~22/2/24	No.3 ; GL-0.5mでオリーブ褐色泥砂(小礫多量混)、-0.7~-1.25mで灰黄褐色泥砂。No.7 ; GL-0.8~-1.25mで黄褐色砂礫の地山。	21H490	HR 353	9
二条四坊二町跡	右・太秦安井春日町8の一部、8-5の一部	3/24	GL-0.23mでにぶい黄褐色泥砂、-0.33mで灰黄褐色砂泥、-0.41mで淡黄色砂泥、-0.58~-0.84mで浅黄色砂泥の地山。	21H745	HR 591	8
三条二坊二町跡	中・西ノ京銅駝町36-5、36-6	2/21	GL-0.35mまで盛土。	21H569	HR 547	9
五条二坊二町跡	中・東土居ノ内町20	2/4~3/8	GL-0.7mまで盛土。	21H532	HR 525	11
五条二坊十六町跡	右・西院巽町2-1、2-2	2/22~3/8	GL-0.93~-1.94mで青灰色シルト~極細砂。	21H575	HR 550	11
六条一坊三・六町跡	下・中堂寺南町128~130 地先	21/12/9~22/2/4	GL-0.45mでオリーブ灰色シルト、-0.65~-1.1mで褐色シルト。	21H577	HR 408	11
六条二坊一・八町跡	中・壬生東高田町1-20、1-15	2/3・14	GL-1.13~-1.9mで明黄褐色シルトの地山。	17H467	HR 516	11
六条三坊四町跡	下・西七条八幡町5	21/12/24~22/1/11	GL-0.4mまで盛土。	21H366	HR 436	10
七条二坊九町跡	下・西七条掛越町56	21/12/8、22/1/13	GL-0.47mで明黄褐色シルトの地山を切って灰色泥砂の時期不明耕作溝、-0.91~-2.08mで灰黄褐色砂礫。	21H257	HR 407	13
八条二坊六町跡、衣田町遺跡	下・梅小路石橋町6	3/11・15	GL-1.02mでにぶい黄褐色粘質土、-1.32mで黒褐色粘土(有機物多含)の湿地状堆積、-2.17mで灰白色砂礫の地山。	21H618	HR 576	13
八条四坊十五・十六町跡	右・西京極芝ノ下町31	21/12/6~22/2/4	GL-0.8mまで盛土。	21H516	HR 401	12
九条一坊十二・十三町跡、史跡西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋西寺町65	2/4・9	GL-0.21mまで盛土。	3N059	HR 524	13
九条一坊十三町跡、史跡西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋西寺町65	1/26	GL-1.0mで橙色砂泥の近世整地層。	3N048	HR 497	13
九条一坊十四町跡、史跡西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋西寺町36-2 地先	1/25	巡回時掘削終了。	3C093	HR 490	13
九条二坊四・五・六・十二町跡、唐橋遺跡	南・唐橋大宮尻町~唐橋西平垣町	3/28・29・30・31、4/1	GL-1.06mまで盛土。	21H656	HR 595	13
九条二坊四町跡、唐橋遺跡	南・唐橋大宮尻町22	21/12/3、22/9/2	GL-0.4~-0.65mで褐灰色泥砂の地山。	17H809	HR 400	13
九条二坊六町跡	南・唐橋平垣町~唐橋西平垣町35 地先	21/12/9~22/3/2	GL-0.55~-1.0mで灰色粘土。	21H477	HR 409	13
九条四坊五・十二町跡	南・吉祥院新田参ノ段町1、2-1、2-2	21/12/20、22/1/11	GL-0.46mでにぶい黄褐色シルト、-0.56mで褐灰色シルト、-0.65mで灰黄褐色砂泥、-0.82mで灰黄褐色砂礫、-1.06~-1.49mでにぶい黄褐色砂礫。	21H555	HR 424	12
九条四坊十一町跡	南・吉祥院内河原町8	2/14	GL-0.85~-1.1mで明黄褐色粘質土の地山。	21H456	HR 537	12

## 太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町26-5 地先	2/15	巡回時掘削終了。	21S652	UZ 542	24-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-7の一部	2/2	GL-0.35mまで盛土。	21S579	UZ 518	24-1
広沢古墳群	右・嵯峨広沢池下町82-1	1/24～26、 2/10、3/3	GL-0.1～-0.15mで黒褐色泥土の時期不明包含層（土師器）。	21S545	UZ 485	24-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨大覚寺門前六道町63-22	21/5/28～ 22/2/10	GL-0.12mまで盛土。	21S006	UZ 095	24-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨釈迦堂大門町35-1	1/13、2/10	GL-0.6～-0.8mで明黄褐色粘質土の地山。	21S437	UZ 457	24-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺瀬戸川町14-15、 14-16	3/7	GL-0.19mで暗灰黄色砂泥、-0.26～-0.3mで褐色シルトの地山。	21S691	UZ 573	24-1
嵯峨遺跡、 臨川寺境内、 宝幢寺境内、 嵯峨折戸町遺跡、 嵯峨北堀町遺跡	右・嵯峨天龍寺芒ノ馬場町～嵯峨朝日町 地内	21/8/23～ 22/1/25	№1；GL-0.4～-0.6mで明黄褐色微砂混シルトの地山を切って暗褐色微砂混粘土質シルトの中世落込。№2；GL-0.35～-0.6mで褐色礫混シルト～細砂の整地層と明黄褐色微砂混粘土質シルトの地山を切って褐灰色シルトの時期不明土坑。№4；GL-0.75mで明黄褐色シルト、-0.95～-1.25mで黄褐色シルトの地山を切って灰黄褐色シルトの時期不明ピット。	21S121	UZ 215	24-1
常盤東ノ町古墳群、 村ノ内町遺跡	右・常盤出口町3-5	3/3・4	巡回時掘削終了。	21S716	UZ 567	21
上ノ段町遺跡	右・嵯峨野神ノ木町1-3	2/14	GL-0.25mまで盛土。	21S617	UZ 536	21
広隆寺旧境内	右・太秦桂ヶ原町20-3、20-22の 一部、20-24の一部、太秦桂木町 1-2、1-3、15-2、16	2/7	GL-0.5mで暗褐色粗砂混シルトの時期不明包含層。	21S227	UZ 527	21
御所ノ内町 遺跡隣接地	右・太秦御所ノ内町22	21/6/24～ 22/2/10	GL-0.5～-0.6mで浅黄色泥砂の耕作土。	21S105	UZ 142	21

## 洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
薬王坂遺跡	左・静市静原町	21/11/30、 22/10/17	石碑の転倒状況を確認後、復旧を確認。	21A010	RH 394	27-1
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町628-18	3/9	GL-0.05mで明赤褐色シルトの地山、-0.14mで灰黄褐色砂泥、-0.21～-0.28mで明黄褐色砂泥。	21S687	RH 575	27-3
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町628-19	1/13	GL-0.2～-0.33mで明黄褐色砂礫の地山。	21S584	RH 458	27-3
植物園北遺跡	北・上賀茂榊田町69	1/14	GL-0.42mで明黄褐色シルト。	21S581	RH 466	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂岩ヶ垣内町49、52	3/23	GL-0.26mまで盛土。	21S674	RH 589	24-2
植物園北遺跡	北・下鴨前萩町30	3/16	GL-0.62mで明黄褐色シルト。	21S600	RH 582	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨神殿町15	2/8	時期不明の堅穴建物を検出。 <b>本報告38ページ。</b>	21S686	RH 531	24-2
植物園北遺跡、 芝本瓦窯跡	左・松ヶ崎東池ノ内町2	2/3・7・8・ 10・15・17	GL-2.58mで暗青灰色粘土、-2.74mで灰オリーブ砂礫、-3.04～-3.29mで暗灰黄色砂礫の地山。	21S200	RH 520	24-2
御土居跡	北・紫竹上長目町5	1/18	GL-1.02～-1.15mで明黄褐色細砂（小礫混）の時期不明包含層。	21S523	RH 475	17-1
御土居跡	北・大宮開町47-1	1/20	GL-0.8mまで盛土。	21S513	RH 480	16-2
御土居跡	北・紫野西土居町1-132	1/14	GL-0.3mまで盛土。	21S421	RH 467	16-3
史跡御土居	北・紫野西土居町1-44	2/8	GL-0.4mで褐色礫混粘土質シルト、-1.2～-1.5mで褐色礫混砂質シルト。	3C097	RH 534	16-3
紫野齋院跡、世尊 寺跡、尊重寺跡、 上京遺跡	上・廬山寺通～今出川通、淨福寺 通～大宮通 地内	21/11/1～ 22/4/26	№10；GL-0.6mで黒褐色泥砂、-0.75～-0.95mでにぶい黄褐色泥砂。№15；GL-0.42mでにぶい褐色シルトの時期不明遺物包含層、-0.7～-0.92mでにぶい褐色シルトの地山。	21S197	RH 350	16-3・ 17-3
上京遺跡、聚楽第跡	上・一条通松屋町西入鏡石町1-5	2/2	GL-0.4mまで盛土。	21S462	RH 515	16-3
上京遺跡、聚楽第跡	上・大宮通一条上る下石橋町 地先	3/11	GL-1.0mまで盛土。	21S748	RH 577	16-3・ 17-3
上京遺跡	上・烏丸通今出川下る観三橋町562	1/5・19	GL-0.74mで明黄褐色粗砂混シルト、-0.89mで灰黄褐色砂質土、-1.1～-1.22mで明黄褐色シルト（固く締まる）の基盤層。	21S270	RH 439	17-3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
上京遺跡、常盤井殿町遺跡、公家町遺跡	上・今出川通寺町西入玄武町602-1	1/19	GL-0.1mで江戸後期の石積み(2段)、-0.54~-0.78mで褐色粘質土。	21S433	RH 478	17-3
公家町遺跡	上・京都御苑3	1/12~2/14	GL-0.35mまで盛土。	21S260	RH 453	17-3
公家町遺跡	上・京都御苑3	2/24・25	GL-0.21mで灰黄褐色泥土、-0.34mでにぶい黄褐色泥砂(礫混)、-0.49mで黒褐色砂泥(焼土多量混)、-0.62~-0.67mで褐色粘質土。	20S107	RH 552	17-3
公家町遺跡	上・京都御苑3	21/12/13~22/2/28	No.3; GL-0.15mで黄褐色泥砂、-0.43~-0.55mで暗灰黄色泥砂。No.8; GL-0.1mで黒褐色砂泥(焼土混)、-0.15~-0.2mで暗褐色砂泥(小礫混)。	21S465	RH 412	17-3
相国寺旧境内史跡賀茂御祖神社境内(下鴨神社)	上・今出川通烏丸東入玄武町601	2/28	GL-2.0mまで盛土。	21S379	RH 559	17-3
	左・下鴨泉川町59	2/9	GL-0.15mで黒褐色砂泥の平安包含層。	3N068	RH 535	17-2

## 北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一乗寺松田町遺跡	左・山端大城田町~一乗寺大原田町他地内	21/11/5~22/3/9	GL-0.8mまで盛土。	21S234	KS 360	27-6
上終町遺跡、北白川廢寺	左・一乗寺地蔵本町~北白川堂ノ前町他地内	21/5/10~22/9/9	No.1; GL-0.43mで褐色泥砂、-0.9mで明黄褐色細砂、-1.03~-1.34mでにぶい黄色粗砂(拳大礫混)の地山。No.8; GL-0.27mで褐色粗砂、-0.47mで黒褐色粗砂の時期不明包含層、-0.6mで黄灰色粗砂、-0.95~-1.8mで黒褐色粗砂。No.10; GL-0.3~-1.25mでにぶい黄色粗砂~細砂を切って灰黄褐色泥砂の時期不明溝状遺構。	20S597	KS 070	22
名勝清風莊庭園史跡聖護院旧仮皇居、白河街区跡	左・田中関田町2-1	1/26	No.1; GL-0.25mまで盛土。	3N058	KS 495	22
史跡聖護院旧仮皇居、白河街区跡	左・聖護院中町15	3/2~25	GL-0.45mまで盛土。設計変更通りに掘削が収まることを確認。	3N053	KS 565	22
史跡聖護院旧仮皇居、白河街区跡	左・聖護院中町15	1/12・13、2/9	No.1; GL-0.73mで黒褐色泥砂の時期不明包含層(土師器、焼締陶器)、-0.98mでにぶい黄橙色粗砂(泥砂混)の平安後期包含層(須恵器類)。No.3; GL-0.33mで褐色泥砂、-0.42mで黒褐色泥砂の平安包含層(輸入青磁)、-0.63mで黄橙色粗砂の平安後期土壌化層(土師器、須恵器)を切って土坑、-0.64mで灰白色粗砂の地山。	3N038	KS 454	22
白河北殿跡、白河街区跡	左・聖護院蓮華蔵町33-5	2/16	GL-0.7mまで盛土。	21R405	KS 538	22
白河南殿跡、白河街区跡	左・聖護院蓮華蔵町35-1の一部(B邸)	3/14	GL-0.5mまで盛土。	21R047	KS 578	22
白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎成勝寺町地先	2/1	GL-1.4mまで盛土。	21R661	KS 506	22
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎南御所町地先	1/17	GL-0.9~-1.3mで明黄褐色粗砂。	21R614	KS 470	22
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎天王町49-6	1/18	GL-0.4mまで盛土。	21R551	KS 473	22
白河街区跡、岡崎遺跡、東光寺跡	左・岡崎東天王町1	2/28~3/10	GL-1.2mまで盛土。	21S387	KS 560	22
法成寺跡	上・梶井町~東桜町地内	21/11/24~22/4/22	GL-0.7~-0.8mで黒褐色砂礫。	21S451	KS 383	27-7
法成寺跡	上・河原町通広小路下る東桜町25-3	21/12/23、22/4/11	時期不明礎石と鎌倉の石仏を検出。清浄華院に保存。『京都市文化財保護課研究紀要』第5号に報告。	20S145	KS 435	27-7
公家町遺跡	上・京都御苑	21/6/21~22/12/16	江戸の石組み暗渠を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告令和4年度』に報告。	20H502	KS 135	27-7
円成寺跡、如意ヶ嶽経塚群、如意ヶ嶽城跡、如意寺跡、鹿ヶ谷経塚、岩座跡、安祥寺経塚群、安祥寺上寺跡	左・鹿ヶ谷徳善谷町他	3/30~4/13	赤色立体図を作成し、未確認平坦地を踏査し、平安中期の遺跡を発見。本報告43ページ。	21A012	KS 601	25-1

## 洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
寺町旧域	中・榎木町451-1、97-9	21/11/24・29、12/1～24、22/1/6・7	No.1；GL-0.5mで黒褐色泥砂、-0.71～-0.98mで褐灰色粘質土。No.3；GL-1.12mで灰黄褐色礫混粘質土、-1.52～-1.89mでにぶい黄橙色砂礫の地山。	20S704	RT 381	27-8
名勝円山公園	東・祇園町北側地先	2/4	巡回時掘削終了。	3C087	RT 523	23
建仁寺境内	東・小松町、博多町	21/4/5～22/3/8	巡回時掘削終了。	20S672	RT 013	23
法観寺旧境内	東・八坂上町379-1	3/30～4/20	GL-1.16～-1.2mで明黄褐色砂質土の鎌倉整地層。	20S769	RT 600	23
六波羅政庁跡、音羽・五条坂窯跡	東・渋谷通本町東入四丁目鐘鋳町402	3/29・30	GL-0.4mまで盛土。	21S707	RT 598	23
六波羅政庁跡	東・本町新六丁目202	2/22	GL-0.2mまで盛土。	21S703	RT 551	23
法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡	東・大和大路正面茶屋町530	21/12/14・17・20、22/11/9	GL-0.64mで黄褐色砂泥の時期不明整地層、-0.77mで明黄褐色泥砂の時期不明整地層、-0.85mで灰白色砂泥の地山。	21S199	RT 417	23
法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡、史跡方広寺大仏殿跡及び石塁・石塔	東・茶屋町532	3/2・4、7/15	石塔修理に伴う調査。 <b>本報告49ページ</b> 。	3N060	RT 568	23
法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡	東・妙法院前側町431	21/11/11、22/1/20・31	室町と時期不明の井戸2基を検出。 <b>本報告56ページ</b> 。	18S799	RT 364	23
法住寺殿跡	東・今熊野宝蔵町7	1/11	GL-0.4mまで盛土。	21S370	RT 450	23
法性寺跡	東・本町十五丁目787-1、746-4	1/25・28	-0.24mで灰黄褐色粗砂混シルトの近世堆積層、-0.41～-0.65mでにぶい黄褐色粗砂混じりシルトの時期不明包含層（土器器皿）。	21S070	RT 489	23
法性寺跡	東・本町15丁目778	21/8/23～22/12/13	近世の整地層や土坑、現存の廊下の礎石と掘方を確認。また、東福寺創建期法堂の基壇土と考えられる黄褐色砂礫を確認。『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和5年度』に報告予定。	21S276	RT 211	28-1
西野山遺跡群（西野山古墓）	山・川田清水焼団地町11-7	1/21～3/1	GL-0.47～-0.55mで明黄褐色粘質土の地山。	21S543	RT 482	28-3
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山・西野今屋敷町～西野阿芸沢町地内	21/4/13～22/2/15	No.1；GL-0.77mでにぶい黄褐色シルト、-1.15～-1.4mでにぶい黄褐色シルト。No.2；GL-1.05～-1.25mで黒褐色シルトの地山。No.3；GL-0.9mで暗褐色粘質土（礫少量含）の地山、-1.25～-1.35mでにぶい黄褐色シルトの地山。No.4；GL-1.0～-1.4mで礫少量含む暗褐色粘質土の地山。	20S549	RT 035	28-5
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町33-67	1/13・17	GL-0.25mまで盛土。	21S583	RT 456	28-6
中臣遺跡	山・栗栖野打越町地先	3/17、4/1	GL-2.6mまで掘削。断面は確認できず。	21N730	RT 584	26-3
中臣遺跡	山・栗栖野打越町11-2	2/4	GL-0.48～-0.7mで明黄褐色粘質土の地山を切って灰黄褐色粘質土の時期不明溝。	21N420	RT 526	26-3
中臣遺跡	山・勸修寺東金ヶ崎町55	1/26	GL-0.6mまで盛土。	21N373	RT 494	26-3
史跡隨心院境内	山・小野御霊町48	6/14～11/10	No.1；総門北築地断面を検出。No.2；総門北築地石積みを検出。	3N007	RT 248	28-8

## 伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡、板橋廃寺	伏・紙子屋町～下板橋町地先	2/1～4/11	GL-0.4mで褐色砂礫、-0.85～-0.95mで黄灰色粘質土。	21F665	FD 509	14
伏見城跡、板橋廃寺	伏・下板橋町610	21/12/24～22/1/24	GL-0.7～-0.89mで明黄褐色粘質土。	21F292	FD 437	14
伏見城跡、板橋廃寺	伏・下板橋町582	2/2	GL-0.5mまで盛土。	21F621	FD 519	14
伏見城跡	伏・堀詰町	1/14	GL-0.55mで灰色粘土、-0.8mで灰色粗砂、-1.0～-1.25mでオリーブ黒色粘土。	21F248	FD 465	14

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏・福島太夫北町52	2/7、5/6・9・11・16・24・30、6/2	№3；GL-1.49mで褐色粗砂混粘土質シルトの近世整地層、-1.98mで褐色粘土質シルトブロックと黄褐色粗砂ブロックの混合層の近世包含層(瓦)、-2.15～-2.24mで明褐色粗砂混じり粘土質シルトの近世整地層。№4；GL-1.9～-2.52mで褐色シルトと黄褐色砂礫の互層の近世整地層。南から北へ向かって土を入れた斜め堆積。	19F791	FD 533	14
伏見城跡	伏・桃山筒井伊賀西町36-1	3/22	GL-0.7mまで盛土。	21F675	FD 588	14
伏見城跡	伏・銀座町三丁目309-1の一部	1/6・13	GL-0.51mで明褐色シルト、-0.62mで橙色泥砂、-1.01mで明褐色シルト、-1.68mで明黄褐色シルトの地山。	21F087	FD 440	14
伏見城跡	伏・桃山羽柴長吉西町30	1/18	GL-0.06mでにぶい赤褐色シルト、-0.18～-0.39mで赤褐色シルト。	21F360	FD 476	14
伏見城跡	伏・桃山町鍋島7-1、桃山町立売1-5他	21/12/15・17・20・21、22/2/4、3/22・23、7/6・14	№3；GL-0.1～-0.7mで黄褐色砂質土の地山を切っ てにぶい黄褐色砂質土(礫多量混)の時期不明裏 込、それを切って灰黄褐色粘質土と明黄褐色粘質 土の近世埋土(施釉陶器椀)。№4；GL-0.45m で黄褐色粗砂混シルトの地山の犬走。犬走の西で は、-0.75mで礫を充填する裏込と石垣石。№5； GL-0.0mで北に面を持つ東西方向の3石の石列 (2021年「伏見城跡」発掘調査時の石列85の 延長)。石の南側は-0.19mで拳大の石を裏込、 -0.54mで黄色シルト、-0.6mで淡黄色シルト。	20F557	FD 420	14
伏見城跡	伏・東奉行町	1/18	GL-0.5mまで盛土。	21F368	FD 477	14
伏見城跡	伏・丹後町142	1/27	GL-0.5mまで盛土。	21F464	FD 500	14
伏見城跡	伏・柿木浜町455	1/17	GL-0.4mまで盛土。	21F363	FD 468	14
伏見城跡	伏・深草大亀谷六躰町106-1の一部	2/14	GL-0.3mまで盛土。	21F605	FD 539	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町484-4、484-5	1/26	GL-0.37mで褐色粗砂混シルト、-0.79mでにぶい黄褐色粗砂混シルト、-1.06mでオリーブ褐色粗砂混シルト、-1.26mで暗灰黄色粗砂混シルトの時期不明焼土層、-1.34mでにぶい黄褐色粗砂混シルトの整地層、-1.5～-1.7mでオリーブ褐色粗砂混粘土質シルト。	21F538	FD 492	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町451、450-1	1/20・24	GL-0.28mでにぶい黄褐色礫混シルト、-0.36～-1.28mで黄褐色砂礫の時期不明造成土。	21F645	FD 481	15
法界寺旧境内	伏・日野西大道町9-1、10-1、11の一部、82-1	3/14・16	GL-0.5mで橙色シルトの地山、-0.72～-1.25mで橙色砂礫。	21S190	FD 579	29-2

## 鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥羽離宮跡	伏・竹田西桶ノ井町31の一部(A号地)	1/11	GL-0.33mまで盛土。	21T628	TB 446	25-2
鳥羽離宮跡	伏・竹田西桶ノ井町31の一部(B号地)	1/11	GL-0.6mまで盛土。	21T627	TB 447	25-2
鳥羽離宮跡	伏・中島秋ノ山町102-1	2/1、4/5	GL-0.36mまで盛土。	21T204	TB 512	25-2
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・竹田田中殿町94	1/13	GL-0.4mまで盛土。	21T361	TB 455	25-2
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・竹田西小屋ノ内町8 地先	2/17	GL-1.2～-2.0mでオリーブ黒色粗砂。	21T704	TB 544	25-2
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・竹田田中内畑町59	2/1	GL-0.6mまで盛土。	21T372	TB 511	25-2
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・中島秋ノ山町133-2の一部	1/11	GL-0.79～-0.94mで灰色粘土。	21T597	TB 445	25-2
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・中島御所ノ内町31	3/15	GL-0.4mまで盛土。	21T616	TB 581	25-2
芹川城跡	伏・下鳥羽渡瀬町205	1/14	GL-0.35mまで盛土。	21S362	TB 460	29-4
淀城跡	伏・淀下津町4-2	2/7	GL-0.63mで褐色細砂～粗砂の江戸末期包含層(梁付皿)を切って暗褐色粗砂混粘土質シルトの土坑。	21S552	TB 530	20

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
淀城跡	伏・淀新町135-35	3/1	巡回時掘削終了。	21S539	TB 561	20
木津川河床遺跡	伏・淀美豆町979他	2/1	GL-0.35mまで耕作土。	21S570	TB 510	20

## 長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京一条三坊六町跡	南・久世東土川町71の一部、82、83-3、514の一部	1/31	GL-0.3mまで盛土。	21NG568	NG 503	18-3
左京一条三坊九町跡	南・久世大藪町489-5	1/17	GL-0.4mまで盛土。	21NG367	NG 464	18-3
左京一条四坊六町跡	伏・久我本町11-215他	2/25	GL-0.2mまで盛土。	21NG541	NG 553	18-3
左京二条四坊十一・十三・十四町跡	伏・久我御旅町9-8他9筆	21/9/27～ 22/3/11	GL-1.29mでにぶい黄橙色シルトの時期不明包含層、-1.76～-2.07mで黄褐色粘質土の地山。	21NG424	NG 290	19
左京三条四坊十町跡	伏・久我西出町7-18	2/18	GL-0.37～-0.77mで旧耕作土。	21NG590	NG 545	19
左京三条四坊十三町跡	伏・久我森の宮町13-58	2/24	GL-0.5mまで盛土。	21NG540	NG 548	19
左京四条二坊十六町跡、芝ヶ本遺跡	伏・羽束師菱川町423、427	1/24・27	GL-2.33mで褐灰色シルト、-2.52mで灰白色微砂混シルト、-2.59～-4.22mで黄灰色粗砂。	21NG629	NG 486	19
左京四条四坊十五町跡	伏・久我森ノ宮町15-12の一部	2/18	GL-0.4mまで盛土。	21NG673	NG 546	19
左京五条四坊十二町跡	伏・羽束師古川町49-1	1/26	GL-0.32mで褐色細砂混シルト、-0.6mで黄褐色細砂混シルトの時期不明包含層(土師器)、-0.8～-1.14mで褐色細砂混シルト。	21NG282	NG 491	19
左京六条四坊六町跡	伏・淀樋爪町 地内	21/12/22～ 22/1/24	GL-3.57mで褐色微砂混シルト、-3.73mで暗灰黄色微砂混粘土質シルト、-3.89～-4.1mで黒褐色微砂混粘土質シルトの湿地状堆積。	21NG493	NG 432	19
左京七条四坊二町跡	伏・淀樋爪町159-6	1/17	GL-0.35mまで盛土。	21NG371	NG 472	20
左京八条四坊十町跡	伏・納所岸ノ下2-21他	2/22	巡回時掘削終了。	21NG542	NG 549	20
左京九条二坊十四町跡、淀水垂大下津町遺跡	伏・淀水垂町 地内	2/15	GL-2.1mまで盛土。	21NG585	NG 541	20
左京九条二坊十四町跡、淀水垂大下津町遺跡	伏・淀水垂町他 地先	3/7	GL-4.4mまで盛土。	21NG606	NG 574	20
左京九条三坊六・十・十一・十五町、四坊二町跡、旧淀城跡	伏・納所北城堀他 地内	21/12/17・ 22、 22/1/20・ 26、2/14	GL-0.5mまで盛土。	21NG410	NG 419	20
左京九条四坊三町跡、旧淀城跡	伏・納所薬師堂1-59	1/17	GL-0.3mまで盛土。	21NG369	NG 471	20
左京九条四坊六・七町跡、旧淀城跡	伏・納所薬師堂27-307 他	3/4	GL-0.4mまで盛土。	21NG533	NG 570	20
左京九条四坊一・七・八町跡	伏・納所星柳 地先	1/31	GL-1.2～-1.6mで明黄褐色粘質土の地山。	21NG529	NG 504	20
左京跡(条坊外)、淀城跡	伏・淀本町168他	3/3	巡回時掘削終了。	21NG534	NG 566	20
左京跡(条坊外)、淀城跡	伏・淀本町164	3/1	巡回時掘削終了。	21S672	NG 563	20
右京一条三坊二町跡	西・大原野上里勝山町7-7	2/14・15	GL-0.7mまで盛土。	21NG682	NG 540	29-6

## 南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
草嶋遺跡	西・川島滑樋町14	21/4/9、 22/2/15	GL-0.4mまで盛土。	20S603	MK028	18-2
中久世遺跡	南・久世殿城町124-2	3/3	GL-0.45～-0.57mで褐灰色粘質土の旧耕作土。	21S478	MK569	18-3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
上里北ノ町遺跡	西・大原野上里北ノ町地内	21/7/14～ 22/2/15	GL-0.35mで褐色礫混シルト、-0.45～-0.75mで褐色礫混粘土質シルトの地山。	21S154	MK166	29-7

#### 京北地区(UK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
愛宕山遺跡、 愛宕山遺跡隣接地	右・梅ヶ畑風吹他	2/6、4/20、 12/10	平安前期の平坦面を確認。 <b>本報告67ページ。</b>	21A004	UK 605	26-2



II 2022年 4～12月期(令和4年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省跡、右京北 辺二坊二・三町、 一条二坊一・ 二・七・八町跡	上・下横町～大宮町他	7/13～ 10/27	GL-0.45mで黄褐色砂泥の近世包含層。	21K322	HQ150	1・9
大蔵省跡	上・四番町122-2	10/18	GL-0.58mで黒褐色シルト、-0.72～-0.99mで暗褐色シルト。	22K326	HQ292	1
大蔵省跡	上・西富仲町地先	7/26～8/2	巡回時掘削終了。	22K159	HQ167	1
大蔵省跡	上・仁和寺街道千本東入西富仲町685-6	10/27	GL-0.3mまで盛土。	22K355	HQ305	1
大蔵省跡	上・浄福寺通一条下る東西俵屋町667-12	11/7	GL-0.3mまで盛土。	22K215	HQ317	1
主殿寮跡、 聚楽第跡	上・一条通浄福寺東入南新在家町 339-1の一部	6/7	GL-0.2mまで盛土。	22K027	HQ092	1
主殿寮跡、 聚楽第跡	上・一条通浄福寺東入南新在家町 339-1の一部	6/7	GL-0.13～-0.25mで明赤褐色泥砂の近世焼土。	22K028	HQ093	1
主殿寮跡、 聚楽第跡	上・裏門通一条下る今新在家町 204の一部	6/10	GL-0.3mまで盛土。	22K074	HQ099	1
主殿寮跡、聚楽第跡	上・南新在家町地内	8/5	巡回時掘削終了。	22K171	HQ187	1
茶園跡、聚楽第跡	上・糸屋町202-21	6/21	GL-0.3mまで盛土。	22K096	HQ114	1
茶園跡、聚楽第跡	上・一条通松屋町西入鏡石町20	10/6～13	GL-0.15mまで盛土。	22K295	HQ274	1
茶園跡、聚楽第跡	上・糸屋町202-22	11/11	GL-0.4mまで盛土。	22K349	HQ322	1
右近衛府跡、 鳳瑞遺跡	上・御前通妙心寺道上る仲之町 地先	9/5	GL-0.9mまで盛土。	22K194	HQ227	1
図書寮跡	上・御前通下立売上る三丁目東入 三助町281-2の一部	5/20	GL-0.4mまで盛土。	21K773	HQ069	1
図書寮跡	上・三助町地先	9/21	GL-0.45～-1.4mで黄褐色シルトの地山を切って 灰黄褐色砂泥の時期不明土取り穴。	22K248	HQ251	1
宴松原跡	上・六軒町通下長者町下る七番町317-2	7/29	GL-0.5mまで盛土。	22K152	HQ177	1
宴松原跡	上・七本松通下長者町下る三番町274-42	9/6	GL-0.35mまで盛土。	22K094	HQ231	1
宴松原跡	上・六軒町通下長者町下る七番町 310-4、312-2	10/11	GL-0.5mまで盛土。	22K265	HQ280	1
掃部寮跡	上・下長者町通六軒町西入利生町 294-195	6/14・15・ 16	GL-0.32～-0.41mで灰黄褐色粘質土（炭化物 混）。	22K109	HQ104	1
内蔵寮跡	上・千本通上長者町下る草堂前之町 121-3	8/29、9/2	GL-0.6mまで盛土。	22K253	HQ214	1
縫殿寮跡、 聚楽第跡	上・坤高町地先	11/1	GL-0.5～-1.5mでオリーブ褐色礫混シルトの近世 堆積層（平瓦）。	22K297	HQ309	1
左近衛府跡、 聚楽第跡	上・金馬場町178-1、178-2	12/19	GL-1.3mまで盛土。	22K455	HQ376	1
左近衛府跡、 聚楽第跡	上・大宮通上長者町下る東堀町 615-5、615-6	12/23	0.7mまで盛土。	22K433	HQ388	1
職御曹司跡、 聚楽第跡	上・出水通智恵光院西入田村備前町 209	12/26	GL-0.3mまで盛土。	22K344	HQ392	1
内裏跡、聚楽遺跡	上・下立売通千本東入下る中務町490-129	9/27	GL-0.29～-0.43mで黄色砂礫の地山か。	22K322	HQ258	1
内裏跡、聚楽第跡	上・田村備前町240の一部	11/29	GL-0.8mまで盛土。	22K407	HQ346	1
内裏跡、聚楽第跡	上・田村備前町240の一部	11/29	GL-0.7mまで盛土。	22K408	HQ347	1
内裏跡、聚楽第跡	上・田村備前町24-7、24-9の各一部	12/23	GL-0.6mまで盛土。	22K463	HQ389	1
内膳司跡	上・下長者町通千本西入六番町375-11	8/8	GL-0.25mまで盛土。	22K079	HQ189	1
宴松原跡、 鳳瑞遺跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町 255-48の一部	12/5	GL-0.5mまで盛土。	22K392	HQ355	1
真言院跡	上・七番町地先	7/27～8/2	巡回時掘削終了。	22K153	HQ171	1
中和院跡	上・十四軒町413-40	7/11	GL-0.85mまで盛土。	22K045	HQ148	1
左兵衛府跡	上・下立売通大宮西入浮田町609-1の一部	4/20	GL-0.25mまで盛土。	21K781	HQ030	1
左兵衛府跡	上・日暮通下立売上る天秤町599の一部	11/17	GL-0.26mまで盛土。	22K352	HQ326	1
東雅院跡	上・二町目650-2、650-7の一部	6/16	GL-0.4mまで盛土。	22K132	HQ109	1
東雅院跡	上・二町目650-2、650-7の一部	6/16	GL-0.3～-0.55mでにぶい黄褐色泥砂。	22K133	HQ110	1
造酒司跡、 鳳瑞遺跡	上・下立売通七本松西入西東町388、 386-17	8/5～30	巡回時掘削終了。	21K784	HQ188	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
豊楽院跡、鳳瑞遺跡	中・聚楽廻西町186-101の一部	6/13	GL-0.4mまで盛土。	22K031	HQ 101	1
豊楽院跡	中・聚楽廻中町40	9/30	GL-0.08mまで盛土。	22K232	HQ 264	1
豊楽院跡	中・聚楽廻西町188-53	11/7	GL-0.34mで灰色シルト、-0.54~-0.62mで淡黄色砂礫の地山。	22K331	HQ 313	1
朝堂院跡、聚楽遺跡	上・竹屋町通千本東入聚楽町地先	8/25~9/7	GL-0.65m~-0.7mでにぶい黄褐色泥砂。	22K266	HQ 209	1
朝堂院跡、聚楽遺跡	中・聚楽廻東町9-2	12/19	GL-0.4mまで現代盛土。	22K413	HQ 377	1
主水司跡、聚楽遺跡	上・中務町486-4	12/2	GL-0.4mまで盛土。	22K471	HQ 353	1
宮内省跡	上・主税町1232、1232-3	12/12	GL-0.4mまで盛土。	22K476	HQ 368	1
太政官跡、聚楽遺跡	上・主税町1100-1、1100-2	4/4・5・8・11	GL-0.63~-0.95mでにぶい黄褐色粘質土の時期不明包含層。	21K697	HQ 002	1
太政官跡、聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町1023	6/23	GL-0.55mで黒褐色粘質土、-0.85~-1.22mで明黄褐色シルトの地山を切って黒褐色シルトの時期不明土坑。	21K561	HQ 116	1
太政官跡、聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町1023-2	6/28	GL-0.79~-1.06mで明黄褐色砂礫の地山。	21K562	HQ 125	1
太政官跡、聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町1023-3	7/1	GL-0.61mで褐色シルト、-1.03mで褐灰色泥砂、-1.1~-1.25mで黄褐色砂質土の地山。	21K563	HQ 126	1
右馬寮跡	中・西ノ京右馬寮町14	9/26	GL-0.55mまで盛土。	22K307	HQ 257	1
右馬寮跡	中・西ノ京右馬寮町地内	10/7	GL-1.35mまで盛土。	22K320	HQ 277	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町34	6/21・22	GL-1.6mまで盛土。	22K115	HQ 112	1
判事跡	中・西ノ京内畑町16-12	10/7・11	GL-0.4mまで盛土。	22K334	HQ 278	1

## 平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊一町跡	上・黒門通中立売上る飛弾殿町166-1、170	8/31	GL-0.9mまで盛土。	22H197	HL 217	2
北辺二坊三町跡	上・中立売通堀川西入役人町256、256-3、256-4、258、258-4	4/21・22・25	No.1；GL-0.77mで灰黄褐色泥砂、-0.96mでにぶい黄褐色砂泥、-1.1mでにぶい黄褐色砂泥、-1.57mで灰黄褐色砂礫、-1.87~-2.76mで黄褐色砂礫の地山。No.3；GL-0.94mでにぶい黄色泥砂（礫混）、-1.55mで明黄褐色砂泥、-1.65~-2.11mで黒褐色シルトの時期不明包含層。	21H715	HL 032	2
北辺二坊八町跡	上・油小路通一条下る油橋詰町79	7/26、8/19	GL-1.35mで黒褐色粗砂混粘土質シルト（積石有）の時期不明包含層（土師器皿）、-1.75mでオリーブ褐色礫混粘土質シルト、-2.1m~-2.6mでオリーブ褐色砂礫の地山。	22H046	HL 168	2
北辺三坊五町跡、上京遺跡	上・一条通烏丸西入広橋殿町410-5	6/23・24・28	No.3；GL-0.48~-0.86mでにぶい黄褐色シルト~黒色粗砂等（堅く締まる）6層の時期不明路面（推定一条大路）、-0.86~-1.25mで黄灰色砂礫。No.4；GL-0.9mで褐灰色砂質土、-1.25mで黒褐色シルト、-1.5~-2.26mで黄灰色砂礫を切って褐灰色泥砂の室町溝（推定一条大路北側溝）。	22H123	HL 119	3・17-3
一条二坊十二町跡	上・下立売通油小路西入東橋詰町178	6/1、12/21・22	GL-2.06mで灰黄褐色泥砂の近世整地層、-2.3mでにぶい黄褐色シルトの近世整地層、-2.36~-2.42mでにぶい黄褐色泥砂の近世整地層。	21H391	HL 080	2
一条四坊十町跡、公家町遺跡、京都新城跡	上・京都御苑2の一部	8/22・23、9/15・16・28	京都新城の堀を検出。『京都市内試掘調査報告令和4年度』（受付番号20H631）に報告。	20H383	HL 205	3
二条二坊九町跡、高陽院跡、二条城北遺跡	上・東堀川通丸太町上る六町目217-3	7/6・11	GL-0.42mで灰黄褐色泥砂の中世包含層（土師器）、-0.6mで灰黄褐色粗砂の平安包含層（土師器）、-0.7~-1.3mで明黄褐色シルトの地山。	22H083	HL 140	2
二条二坊九町跡、高陽院跡、二条城北遺跡	上・東堀川通丸太町上る六町目215	7/20・21・22・25・26・28・29	No.3；GL-0.89mでにぶい黄色泥砂、-0.99mで黄灰色泥砂、-1.25~-1.6mで黄灰色砂泥（炭化物混）の中世包含層（土師器、黄釉陶器）。No.6；GL-1.05mでにぶい黄褐色シルトの時期不明遺物包含層を切って時期不明土坑、-1.2mで褐色シルト、-1.3~-1.68mで黄褐色砂礫の地山。	22H102	HL 158	2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
二条二坊十一町跡	中・油小路通竹屋町下る橋本町490	5/2	GL-0.99mで褐灰色泥砂の近世盛土、-1.5mで灰黄褐色泥砂の近世包含層、-1.8～-2.1mで橙色シルトの地山を切って褐灰色泥砂の中世土坑（土師器）。	21H481	HL 040	2
二条二坊十二・十三町跡	中・油小路通夷川下る薬屋町586	4/12・14	No 2 ; GL-0.56mで明黄褐色シルトの土間、-0.62mで暗灰黄色砂質土（礫混）、-0.76mで暗灰黄色砂質土、-1.04～-1.27mで明黄褐色砂礫、にぶい黄色粗砂、にぶい黄褐色砂礫、暗灰黄色砂礫の時期不明路面。No 3 ; GL-1.35mで明黄褐色砂礫の地山を切って褐灰色泥砂（固く締まる、路面?）と褐灰色砂礫の鎌倉落込（推定油小路西側溝）。	21H744	HL 018	2
二条二坊十三町跡	中・小川通夷川下る樋屋町607-13・14	9/7	GL-0.27mで褐灰色泥砂、-0.56～-0.67mで明黄褐色泥砂。	22H200	HL 233	2
二条三坊十二町跡	中・二条通烏丸西入東玉屋町482-1	10/7	GL-0.7mまで盛土。	22H146	HL 279	3
二条三坊十四町跡、 烏丸丸太町遺跡	中・東洞院通竹屋町下る三本木五丁目479、479-3	9/6	GL-0.35mまで盛土。	21H634	HL 228	3
二条四坊六町跡、 烏丸丸太町遺跡	中・堺町通竹屋町下る絹屋町118	7/20、 9/15	GL-0.27～-0.71mで暗褐色砂質シルトの近代焼土。	22H138	HL 159	3
二条四坊十町跡、 烏丸丸太町遺跡、 京都新城跡	中・菊屋町	8/17	巡回時掘削終了。	22H210	HL 200	3
三条一坊三町跡	中・西ノ京職司町75-1	11/24・29	GL-1.41～-1.64mで明黄褐色礫混細砂の地山。	22H324	HL 334	2
三条二坊二町跡、 堀川御池遺跡	中・俵屋町205	9/20	GL-1.53mで暗青灰色シルト質細砂の平安後期包含層（土師器、須恵器、瓦）、-1.83mでオリブ灰色シルトの地山。	22H090	HL 245	2
三条二坊十三町跡	中・小川通姉小路下る西堂町494、495	12/22・26	GL-0.87mで灰黄褐色細砂、-1.08mで褐灰色粗砂、-1.16mで灰黄褐色シルト、-1.27mで明黄褐色シルトの地山、-1.90～-2.03mで灰色礫混じり粗砂。	22H289	HL 386	2
三条三坊三町跡	中・西洞院通姉小路上る西洞院町555-1、558	8/31、 10/13・19	GL-2.23～-2.48mで黒褐色泥砂。	22H199	HL 218	3
三条三坊十町跡、 二条殿御池城跡、 烏丸御池遺跡	中・両替町通押小路下る金吹町454、455、457-5	4/26	GL-1.39mで灰黄褐色砂泥、-1.61mで褐色泥砂、-1.78mで褐灰色泥砂の室町包含層（土師器）、-2.04mで灰黄褐色泥砂の室町包含層（土師器）、-2.29～-2.34mでにぶい黄褐色細砂の室町包含層（土師器）。	20H581	HL 038	3
三条三坊十二町跡、 烏丸御池遺跡	中・御倉町73、75、柿本町386-1・2・3	6/6～13	GL-1.2mまで盛土。	21H723	HL 087	3
三条四坊十三町跡、 三条せと物や町跡	中・弁慶石町地先	8/26	GL-1.4mまで盛土。	22H131	HL 213	3
四条一坊四町跡	中・壬生御所ノ内町26-15、32、32-9、61の一部	5/11・12	GL-1.28～-2.77mで灰黄褐色砂礫の地山。	21H701	HL 052	4
四条一坊八町跡	中・壬生馬場町8-3の一部	6/7	GL-0.2mまで盛土。	21H669	HL 088	4
四条二坊八町跡	中・岩上通三条下る下八文字町697	5/27、6/2	GL-1.29mで褐灰色泥砂の平安整地層（土師器、灰釉陶器）、-1.45mで灰黄褐色泥砂の地山、-1.53mで灰黄色粗砂、-1.84～-1.98mで明黄褐色粗砂。	22H039	HL 072	4
四条二坊十四町跡	中・油小路通錦小路上る山田町530	5/31、6/2	GL-2.0mまで盛土。	21H706	HL 079	4
四条四坊八町跡	中・柳馬場通三条下る樋谷町95、95-1、95-3	5/17・ 19・23・ 26	GL-0.81mで灰色シルト（オリブ黄色粗砂含）、-1.20mで灰色泥砂（オリブ黄色粗砂含）、-1.55～-1.95mでオリブ黒色泥砂。	21H646	HL 064	5
四条四坊八町跡、 烏丸御池遺跡	中・高倉通三条下る丸屋町164	10/3	GL-1.4mで黄色粗砂の地山。	22H176	HL 268	5
五条一坊三町跡	中・壬生辻町18-30	7/5・13	GL-1.95mまで盛土。	21H785	HL 138	4
五条一坊三・四・ 五・十二町跡	中・壬生辻町～壬生相合町地内	10/11～12/27	巡回時掘削終了。	21H586	HL 283	4
五条一坊七町跡	中・壬生賀陽御所町41-3、41-17、41-18、41の一部	9/22・26	GL-0.43～-0.52mで黄褐色シルトの地山か。	22H095	HL 252	4
五条一坊十二町跡	中・壬生相合町8-8の一部	12/16・20	GL-0.3mまで盛土。	22H351	HL 374	4
五条一坊十四町跡	下・仏光寺通大宮西入坊門町826-2	9/26・29	GL-0.78mまで盛土。	22H293	HL 256	4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
五条二坊十六町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・綾小路通油小路東入芦刈山町130	4/18・20・25、5/2・6	平安後期整地層と土坑やピットを検出。 <b>本報告22ページ</b> 。	22H008	HL 025	4
五条三坊四町跡、 烏丸綾小路遺跡、 だいうすの城跡	下・松原通西洞院東入藪下町20、 高辻通西洞院東入菊屋町757	5/6・10・11・13	GL-0.88mで黒褐色シルトの中世包含層（土師器皿）、-0.92mで黒褐色粗砂を切ってオリブ褐色シルトの平安ピット（土師器皿、灰釉陶器椀）、-1.22～-1.52mで黄褐色シルトの地山。	21H692	HL 044	5
五条四坊一町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・立売西町68-2他	4/8	既存基礎を利用して建物を建築、掘削無し。	21H655	HL 015	5
五条四坊四町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・高倉通高辻下の葛籠屋町513	11/14・24・28、12/2・6	GL-1.22mで褐灰色粘質土、-1.56～-2.05mで灰黄褐色砂礫の地山。	21H759	HL 323	5
五条四坊十三町跡	下・麩屋町通高辻下の鍵屋町200、 201、201-2、201-3	12/16・20	GL-1.32mで灰黄褐色泥砂、-1.62mで褐色泥砂、-1.72mでオリブ黄色砂質土のウグイス色の整地層、-1.9m～-2.12m暗灰黄色泥砂（拳大礫少量含）。	22H406	HL 375	5
五条四坊十四町跡	下・高辻通寺町西入茶磨屋町236	11/24・25・29	GL-1.1mでにぶい黄褐色粘質土、-1.4mで灰黄褐色粘質土、-1.77～-2.47mで灰黄褐色砂礫混粘質土の地山。	22H114	HL 335	5
六条一坊二町跡	下・中堂寺坊城町26-1	12/9・12	GL-0.55mまで盛土。	22H398	HL 363	4
六条一坊三・四町跡	下・中堂寺坊城町地先	8/31	GL-1.0mで明黄褐色シルトの地山。	21H688	HL 215	4
六条一坊七町跡	下・中堂寺壬生川町22-2	8/3～18	GL-0.9～-3.2mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	21H778	HL 182	4
六条二坊七町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・猪熊通五条上る柿本町583-11 他	11/18・21・24・28	GL-1.05mでにぶい黄褐色粘質土の近世包含層、-1.13mで明黄褐色粘質土の地山。	22H175	HL 327	4
六条二坊十五町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・油小路通五条上る上金仏町 263の一部	7/26	GL-0.65mまで盛土。	22H093	HL 169	4
六条三坊五町跡	下・銭屋町259-4	4/5・12・13・18	GL-1.15mで黒褐色泥砂、-1.6mで黄灰色砂礫の時期不明整地層を切って褐色粘質土の時期不明土坑、-1.72mで黄灰色砂礫の時期不明整地層、-2.04～-2.15mで暗灰黄色砂礫の地山。	21H571	HL 009	5
六条三坊十五町跡	下・玉屋町515-2、519、521-1	6/9	GL-0.3mで近代焼土。	21H578	HL 098	5
六条四坊六・七町跡	下・五条通堺町西入塩竈町359、 堺町通五条上る俵屋長202-2	10/11・13・20	GL-1.72mで黒褐色泥砂の近世包含層、-1.92mで灰黄褐色泥砂、-2.09～-2.55mで灰黄褐色砂礫。	22H097	HL 281	5
六条四坊十一町跡	下・塩竈町387-1、2	4/4	GL-2.45mまで盛土。	21H558	HL 003	5
六条四坊十三町跡	下・南橋詰町地内	7/14～ 10/31	GL-0.26mで黄灰色粗砂の近世以降河川堆積、-0.44mで橙色砂礫の近世以降河川堆積、-0.71～-1.1mでにぶい黄褐色砂礫の時期不明河川堆積。	21H702	HL 151	5
七条一坊十五町跡	下・下松屋町通花屋町下る突抜 2-364	8/18～9/1	GL-0.45mで明黄褐色粗砂～シルトの地山を切ってにぶい黄色泥砂の近世ピット、-0.6～-0.75mで灰黄色砂礫。	22H207	HL 201	6
七条二坊十一・ 十四町跡、東市跡	下・正面通堀川東入堺町102～ 正面通西洞院西入西洞院町地先	10/24～ 12/6	№9；GL-0.85mでにぶい黄褐色砂泥、-1.05～-1.4mで灰黄色砂礫。№10；GL-0.6～-0.8mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層。	22H298	HL 298	6
七条二坊十四町跡	下・東中筋通正面下る紅葉町362、 364-1	10/11	GL-0.4mまで盛土。	22H321	HL 282	6
七条三坊十・ 十五町跡、 東本願寺前古墓群	下・常葉町754地先	12/22	GL-0.7mまで盛土。	22H302	HL 385	7
七条三坊十一町跡、 東本願寺前古墓群	下・烏丸通七条上る常葉町754他	9/22・26	GL-0.18mで灰黄褐色泥砂（礫混）の近代整地層、-0.38mで明赤褐色砂泥の江戸末期（1864）焼土層、-0.49mで黄色泥砂の時期不明整地層、-0.53～-0.63mでにぶい黄褐色砂礫。	22H246	HL 253	7
七条四坊七町跡、 寺町旧域	下・富小路通花屋町下る唐物町444	8/19、9/5	GL-0.7mまで盛土。	22H242	HL 202	7
七条四坊八町跡、 寺町旧域	下・富小路通六条下る栄町515の一 部、516の一部、524-2	5/6～16	GL-0.92～-1.01mで黒褐色粗砂混粘土質シルトの中世包含層（土師器）。	21H754	HL 042	7
七条四坊九町跡、 御土居跡	下・梅湊町88	8/8	GL-1.5mまで盛土。	22H062	HL 190	7
七条四坊十二町跡、 御土居跡	下・新日吉町135-7他	5/16	GL-1.29～-1.44mで明黄褐色細砂礫の河川堆積。	21H719	HL 062	7
八条二坊六町跡	下・猪熊通塩小路下る二丁目南夷町 167-2	5/16	GL-0.25mまで盛土。	21H770	HL 060	6

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
八条二坊十五・十六町、三坊一・二町跡	下・東塩小路町1002・1007、東町583、夷之町 地内	5/30、6/1・2・3	GL-0.9mまで盛土。	21H352	HL 075	6・7
八条二坊十六町跡	下・大黒町223、223-1、226-2、221-1	7/12・20	GL-0.13mで灰褐色礫混シルトの近現代堆積層、-0.69~-1.32mで黒褐色粗砂混シルトの近世包含層。	21H732	HL 149	6
八条四坊七町跡	下・上之町 地先	5/31~6/3	GL-1.6mまで盛土。	21H636	HL 078	7
八条四坊七・八町跡	下・郷之町 地内	12/20	GL-1.0mまで盛土。	22H422	HL 381	7
八条四坊八町跡	下・七条通間之町東入材木町477、479	9/15・21・22	GL-0.64mで灰色砂礫、-0.72mで黄色泥砂（礫混）、-0.75mで灰黄褐色砂礫、-0.83mで浅黄色砂泥の時期不明整地層、-0.91~-1.83mで浅黄褐色砂礫の地山。	22H014	HL 244	7
八条四坊十一町跡	下・下之町6-3	9/15	GL-0.6mまで盛土。	21H660	HL 243	7
九条二坊四町跡	南・西九条川原城町25-2、25-3、21-1、21-2	6/8	GL-0.3mまで盛土。	22H065	HL 096	6
九条二坊五町跡	南・西九条川原城町34-1	8/22・24・25	GL-0.33mで黒褐色礫混シルトの中世包含層（土師器皿）、-0.47mで褐灰色礫混細砂の時期不明整地層、-0.6~-1.36mでにぶい黄褐色砂礫の河川堆積。	22H247	HL 207	6
九条三坊十一町跡、烏丸町遺跡	南・東九条北烏丸町3-5、3-13	5/13・17	GL-0.45mで灰黄褐色粘質土、-0.8mで褐灰色粘土の近代包含層、-1.1~-1.64mで橙色細砂礫の地山。	21H644	HL 056	7
九条三坊十四町跡、烏丸町遺跡	南・東九条北烏丸町38、38-3、38-8、38-9、38-29、38-33	8/1・3・4	GL-0.81mで褐灰色シルト、-0.99mで黒褐色シルト、-1.16m~-2.08mで灰色粘土の平安末~鎌倉井戸（土師器）。	22H148	HL 180	7
九条四坊三町跡、烏丸町遺跡	南・東九条南山王町35-2、35-3、35-4	6/14・15・16・20	GL-0.54mで黄灰色砂礫、-0.72mで灰黄色泥砂（土師器）、-0.85mで黄灰色シルト（土師器）、-1.08mで灰白色微砂の地山、-1.32~-2.33mで灰黄色砂礫。	21H783	HL 105	7
九条四坊九・十六町跡	南・東九条東岩本町15-16~18-10 地先	4/4~7/20	GL-1.1~-1.55mで明黄褐色砂礫の近代河川堆積。	21H749	HL 004	7

## 平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊一町跡	上・一条通御前西入大東町96	9/28	GL-0.8~-2.1mで明黄褐色砂礫~粗砂の紙屋川氾濫堆積土。	22H239	HR 259	9
一条二坊三町跡	上・御前通下立売上る天満屋町315	9/3・5	GL-0.99mで黄褐色粗砂、-1.18~-1.29mで黄色シルトの地山。	22H211	HR 220	9
一条二坊九町跡、御土居跡	北・大將軍東鷹司町171	12/13	GL-0.3mまで盛土。	22H466	HR 370	9
一条三坊四町跡	中・西ノ京南大炊御門町32-1	12/5	GL-0.72mで黒褐色シルト、-0.77mで灰白色粘質土の地山、-1.12~-1.85mで淡黄色粘土。	22H245	HR 356	8
二条二坊三町跡	中・西ノ京冷泉町1	4/1、5/6	GL-0.58mまで盛土。	20H281	HR 001	9
二条二坊五・十二町跡、御土居跡、西ノ京遺跡	中・西ノ京笠殿町38	12/2・5	GL-0.6mまで盛土。	21H153	HR 354	9
二条四坊十三町跡、龍翔寺跡	右・太秦安井奥畑町3	7/5・6・7	GL-0.7mで黒褐色シルトの時期不明包含層、-0.48~-0.85mで明黄褐色シルト（礫混）の地山を切つて黒色シルトの時期不明土坑。	22H069	HR 139	8
三条一坊五町跡、壬生遺跡	中・西ノ京小倉町129	12/1	GL-0.6mまで盛土。	22H353	HR 352	9
三条一坊十四町跡	中・西ノ京西月光町1-13他	7/6・12	GL-0.55~-1.1mで黄褐色砂礫の地山。	21H103	HR 141	9
三条二坊十二町跡、西ノ京遺跡	中・西ノ京新建町7	5/9~17	GL-0.78mで黒褐色粗砂混粘土質シルト、-1.01~-2.4mで黄褐色粗砂混粘土質シルトの地山を切つて時期不明土坑6基（土師器、須恵器、陶磁器）。	21H063	HR 047	9
三条四坊十町跡	右・太秦安井西沢町7-6の一部	11/22	GL-0.36~-0.43mでにぶい黄褐色泥砂。	22H301	HR 333	8
三条四坊十三町跡	右・太秦安井松本町22-26	4/12	GL-0.41mで明黄褐色砂質土の地山。	21H722	HR 019	8

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
四条二坊十一町跡	右・西院東今田町44の一部	5/6	GL-0.86～-2.36mで黄灰色粗砂混粘土質シルトの地山。	21H734	HR 043	11
四条二坊六・十一町跡、壬生遺跡	右・西院東淳和院町8～壬生淵田町17地先	4/18・20・21、5/30	GL-0.85mまで盛土。	21H746	HR 026	11
四条三坊九・十町跡、西ノ京遺跡	右・西院金槌町～西院春栄町地先	11/1～12/7	№1；GL-0.5mで灰白色シルト、-0.6～-0.7mで浅黄色シルト。№10；GL-0.25～-0.8mで黒褐色砂泥の近代包含層。	22H376	HR 308	10
四条三坊十四町跡	右・山ノ内赤山町7-1、7-2の一部、8、39-1、40	6/1	GL-0.49mまで盛土。	22H087	HR 081	10
四条四坊二町跡、山ノ内遺跡	右・山ノ内瀬戸畑町25-2の一部	7/1	GL-0.3mまで盛土。	22H125	HR 129	10
五条一坊二町跡	中・壬生下溝町地内	9/29～10/18	GL-0.65mまで盛土。	21H602	HR 262	11
五条二坊十二町跡、西院遺跡	右・西院高田町16-3の一部	6/3・14	GL-0.6mまで盛土。	21H779	HR 086	11
五条二坊十三町跡、西院遺跡	右・西院西平町7-3、6-26、6-27	4/15・18・19	GL-0.46～-1.22mで黄色砂礫の地山。	21H788	HR 023	11
五条四坊一町跡	右・西院日照町18	7/26～9/5	GL-1.29mで灰色粗砂の旧耕作土、-1.47mで黒褐色シルトの地山、-1.63mでにぶい黄褐色シルト、-1.89～-2.44mでにぶい黄褐色シルト。	22H136	HR 170	10
六条二坊十一・十四町跡	右・西院南高田町1、2の一部	8/5・9・10・17・18・19	№4；GL-0.15mで褐色シルトの近世耕作土、-0.25mでにぶい黄褐色粗砂混シルトの時期不明整地層、-0.4mで褐色粗砂混シルトの地山を切って黒褐色粗砂混シルトの時期不明土坑（土師器甕）、-0.85～-2.0mで暗褐色砂礫。№5；GL-0.45mで黒褐色シルトの旧耕作土、-0.7mで褐色粗砂混シルトの地山を切って灰黄褐色細砂混シルトの時期不明土坑（土師器皿）、黒褐色細砂混シルトのピット、-2.3mで明黄褐色砂礫。	21H222	HR 186	11
六条三坊十五町跡、西京極遺跡	右・西院久保田町地内	5/30～6/10	GL-0.5mでにぶい黄褐色シルト、-0.7～-1.25mで黄褐色粘土質シルトの地山。	21H728	HR 076	10
六条四坊一町跡、西京極遺跡	右・西院清水町152の一部	9/5	GL-0.3mまで盛土。	21H743	HR 230	10
六条四坊二町跡、西京極遺跡	右・西院清水町164-1	12/12	GL-0.26mで灰黄褐色泥砂の平安包含層（須恵器甕）-0.4mでにぶい黄褐色シルト、-0.51mで暗褐色シルト、-0.63～-0.89mで暗褐色シルト～粗砂。	22H240	HR 365	10
六条四坊十六町跡	右・西京極葛野町2及び3の一部	7/25、8/1・5・10	GL-0.86mで明黄褐色シルト、-1.13mで灰黄褐色泥砂、-1.26～-1.46mで明黄褐色シルトの地山。	20H697	HR 165	10
七条一坊二町跡、御土居跡、堂ノ口遺跡	下・朱雀分木町	9/20・28	GL-0.53mまで盛土。	22H262	HR 246	13
七条一坊四・五町跡、堂ノ口町遺跡	下・朱雀北ノ口町50他	11/28	GL-0.55mまで盛土。	22H343	HR 344	13
七条一坊十六町跡、衣田町遺跡	下・西七条西八反田町1-1	6/8・13	GL-0.86mで灰色泥土、-0.94～-1.18mで黄褐色砂礫の地山。	22H002	HR 097	13
七条二坊四町跡、西市跡、衣田町遺跡	下・西七条中野町6-2	4/25	GL-0.77mで黄褐色シルトの時期不明包含層。	21H795	HR 034	13
七条二坊八町跡	下・西七条西石ヶ坪町5	5/11、8/4・18・19、11/25	GL-0.35mで旧耕作土、-0.5mで暗灰黄色細砂混シルト、-0.65mで黒褐色砂混シルト、-0.75～-0.9mで黄灰色微砂混粘土質シルトの中世包含層。	21H679	HR 053	13
七条四坊七町跡	右・西京極東池田町44	8/31	GL-0.55mまで盛土。	22H264	HR 216	12
八条一坊十六町跡、衣田町遺跡	下・西七条南東野町7	4/18・20	GL-0.52mで褐色砂礫、-0.79～-1.15mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	21H752	HR 027	13
八条二坊四・五町跡、梅小路城跡	下・七条御所ノ内本町89-2～梅小路西中町66地先	8/3～12/27	GL-0.24mで黒褐色粗砂混シルトの近現代整地層、-0.4mで黒褐色粗砂混シルトの近世耕作土、-0.57mで黒褐色砂混シルトの近世包含層、-0.75mで黒色粗砂混シルトの中世包含層、-1.05mで黒褐色微砂混粘土質シルト、-1.3～-1.5mで黄灰色砂礫の河川堆積。	22H162	HR 183	13
八条四坊八町跡	右・西京極前田町16-1、55	7/25	GL-0.45mまで盛土。	22H015	HR 166	12

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
九条一坊十五町跡、西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町1	10/26	GL-0.3～-0.5mで黒色シルトの近世包含層。	22H360	HR 303	13
九条二坊三町跡、唐橋遺跡	南・唐橋平垣町64-6	8/2	GL-0.25mまで盛土。	22H173	HR 181	13
九条二坊五町跡、唐橋遺跡	南・唐橋大宮尻町7-4、7-5	11/21	GL-1.39～-1.64mで明黄褐色砂礫の地山。	22H328	HR 328	13
九条二坊六町跡、唐橋遺跡	南・唐橋平垣町24-4、24-8、24-10	8/2	GL-0.77mまで盛土。	21H290	HR 178	13
九条二坊十六町跡	下・七条御所ノ内南町8・9	9/2・9・13・14	GL-0.53mで灰黄褐色シルトの平安前期包含層（須恵器、土師器）、-0.67mでにぶい黄褐色シルト、-0.89mでにぶい黄褐色粘質土、-1.18mで褐灰色砂礫、-1.27～-1.38mで灰黄色微砂。	22H282	HR 221	13
九条四坊十二町跡	南・吉祥院新田参ノ段町1、2-1、2-2	8/8	GL-1.23mで淡黄色細砂の河川堆積層、-1.3～-1.55mで暗灰黄色砂礫の河川堆積層。	22H183	HR 191	12

## 太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
観空寺跡	右・嵯峨観空寺明水町38	5/17、9/2	GL-0.36～-0.61mで明黄褐色粘質土の地山。	21S582	UZ 063	24-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-15	7/4	GL-0.45mで黄色シルト（礫混）の地山。	22S021	UZ 136	24-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-17	7/1・4・7	巡回時掘削終了。	22S143	UZ 130	24-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-25	8/19	GL-0.2～-0.3mで黒色シルト。	22S190	UZ 194	24-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-20	8/17	GL-0.3mまで盛土。	22S192	UZ 195	24-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-18	8/18	GL-0.2～-0.4mで黒色シルトの中世包含層。	22S193	UZ 196	24-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-21	9/2	GL-0.45mまで盛土。	22S217	UZ 223	24-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-16の一部、10-17	4/8	GL-0.84～-1.06mで黒褐色シルト。	21S684	UZ 016	24-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-24	9/2	GL-0.3mまで盛土。	22S191	UZ 224	24-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-19	11/9	GL-0.4mまで盛土。	22S316	UZ 319	24-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨釈迦堂門前裏柳町13-1の一部	9/20	GL-0.3mまで盛土。	22S163	UZ 249	24-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺今堀町2-6	10/3～21	GL-0.18～-0.44mで褐色シルトの地山。	21S768	UZ 269	24-1
嵯峨遺跡、嵯峨北堀町遺跡	右・嵯峨天龍寺今堀町14-11	9/8	GL-0.3mまで盛土。	22S225	UZ 237	24-1
音戸山古墳群	右・鳴滝音戸山町～太秦中山町 地内	4/25～5/20	GL-0.35～0.7mで明黄褐色礫混粘土質シルトの地山。	21S647	UZ 037	21
円宗寺跡	右・御室小松野町18、19-2	6/23・24・27・29・30	No.3；GL-0.94mで明黄褐色シルトの地山を切って近世ピット、土坑、溝。No.4；GL-0.94mで明黄褐色シルトの地山を切って近世ピット、土坑。	21S537	UZ 113	21
草木町遺跡	右・鳴滝西嵯峨園町11	7/20	GL-0.16mで褐色細砂混シルトの地山。	22S041	UZ 154	21
常盤柏ノ木古墳群	右・常盤下田町2	9/20	No.1；GL-0.15～-0.25mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層。No.2；GL-0.37mで黄色シルトの地山。	22S278	UZ 250	21
太秦馬塚町遺跡	右・太秦中筋町9-1の一部	6/8	GL-0.25mで黄褐色泥砂の旧耕作土、-0.3～-0.5mで明黄褐色泥砂。	22S067	UZ 094	21
太秦馬塚町遺跡	右・太秦中筋町9-1の一部	7/15	GL-0.12mで黒褐色礫混シルトの近現代堆積層、-0.3～-0.5mで暗褐色粘土質シルト。	22S066	UZ 152	21
上ノ段町遺跡	右・太秦西蜂岡町9-1他	8/4	GL-0.3mまで盛土。	22S144	UZ 185	21
西野町遺跡	右・嵯峨野秋街道町51-25他	6/30	GL-0.45mまで盛土。	22S049	UZ 124	21
多藪町遺跡	右・太秦多藪町15-1	10/5・6・7	GL-0.78mで褐灰色泥砂、-0.94～-1.61mで明黄褐色礫混シルトの地山。	22S260	UZ 273	21
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町9-2	9/5	GL-0.2mで黒褐色砂質土、-0.4mでにぶい黄褐色砂礫。	22S259	UZ 226	21
千首塚古墳	右・太秦井戸ヶ尻町23-13	12/7	GL-0.5mまで盛土。	22S400	UZ 359	21
海正寺跡	右・太秦海正寺町15-4、15-29	5/12	GL-0.7mまで盛土。	21S757	UZ 055	21
海正寺跡	右・太秦海正寺町15-44	11/24	GL-0.7mまで盛土。	22S415	UZ 339	21
海正寺跡	右・太秦海正寺町15-25	11/24	GL-0.35mまで盛土。	22S390	UZ 338	21

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
上ノ庄田瓦窯跡	北・西賀茂下庄田町 地先	12/8	GL-0.4mで黒褐色砂礫、-0.75~-1.15mで黄褐色岩盤。	22S389	RH 361	27-2
蟹ヶ坂瓦窯跡	北・西賀茂蟹ヶ坂町26-4	5/30	GL-0.16~-0.33mで明黄褐色泥砂の地山。	21S709	RH 073	27-2
醍醐ノ森瓦窯跡	北・西賀茂中川上町70-1	8/22~10/12	江戸の庭園跡を確認。本報告24ページ。	21S525	RH 204	26-1
大宮北山ノ前瓦窯跡	北・大宮北山ノ前町25-1	9/1	GL-0.33mで明黄褐色シルトを切って黒褐色泥砂の時期不明落込、-0.48mで黄灰色砂礫の地山。	22S236	RH 219	26-1
大宮北山ノ前瓦窯跡	北・大宮西総門口町28-1	9/30	GL-0.2mまで盛土。	22S279	RH 265	26-1
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町628-17	10/31	GL-0.57mまで盛土。	22S305	RH 306	27-3
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町628-25	9/30	GL-0.12~-0.25mで明黄褐色シルトの地山。	22S271	RH 267	27-3
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町628-24	12/19	-0.27mで黒褐色泥砂（炭含）、-0.3mで浅黄色シルト（固く締まる）。	22S414	RH 379	27-3
木野墓窯跡	左・岩倉幡枝町	9/12	飛鳥の須恵器と瓦を多量に採集。本報告32ページ。	19A002	RH 128	27-3
植物園北遺跡	北・上賀茂梅ヶ辻町7-11、上賀茂岡本町36	6/1	GL-0.4mまで盛土。	22S053	RH 082	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂梅ヶ辻町7-8	6/1・2	GL-0.5mまで盛土。	22S052	RH 083	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂蟬ヶ垣内町47の一部、48	6/20~23	GL-0.55mまで盛土。	22S078	RH 111	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂神田町32-1、23-1	4/27、 5/6・9	GL-0.19mで灰黄褐色砂泥、-0.38mでにぶい黄褐色粘土質砂泥、-0.51~-0.6mでにぶい黄褐色礫混泥砂。	21S623	RH 039	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨水口町24-1、24-3の各一部	10/5・6	GL-0.52mで明黄褐色泥砂の近世耕作土、-0.7mで褐灰色泥砂、-0.97~-1.06mで明黄褐色シルトの地山。	22S164	RH 272	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨水口町51-3	6/24	GL-0.6mで黒褐色シルトの時期不明包含層、-0.68mで明黄褐色シルトの地山。	22S055	RH 120	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨北芝町1、2-1	5/18	GL-0.3mまで盛土。	21S690	RH 065	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨南芝町9-2	9/14	GL-0.25~-0.3mで旧耕作土。	22S165	RH 242	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂岩ヶ垣内町105、106、113、114	5/18・23・ 24	GL-0.25mで黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの旧耕作土、-0.6mで黒色シルトの時期不明包含層を切って黒褐色泥砂の時期不明土坑、-0.75~-1.22mで明黄褐色粘土の地山を切って褐色粘土の時期不明ピット。	21S708	RH 066	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨南芝町45-1	9/5・6・9	GL-0.5mで褐灰色シルトを切って時期不明土坑2基、-0.65mで明黄褐色シルトの地山、-0.85~-2.2mで黒色砂礫。	22S073	RH 229	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨南芝町46-1	5/30・31、 6/1	GL-0.25mで褐灰色泥砂とにぶい黄褐色泥砂の旧耕作土、-0.66mで灰黄褐色泥砂、-0.8~-1.11mで明黄褐色泥砂の地山。	22S054	RH 074	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨梁田町26-2	11/28	GL-0.35mまで盛土。	22S447	RH 345	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨夜光町5	4/8・13	GL-0.23mでにぶい黄褐色砂泥の地山、-0.58~-0.79mで黄褐色砂泥。	21S160	RH 014	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨北園町12-1、12-2	7/25	GL-0.32~-0.48mでにぶい黄褐色シルト（拳大礫含）。	22S070	RH 164	24-2
松ヶ崎廃寺	左・松ヶ崎御所ノ内町16の一部	5/16	GL-0.3mまで盛土。	22S016	RH 057	27-2
鹿苑寺 旧境内（北殿）	北・大北山天神岡町1 地先	8/22	GL-0.2mで褐色礫混シルトの地山。	22S160	RH 203	16-3
鹿苑寺 旧境内（北殿）	北・衣笠馬場町20-3	10/27	GL-0.16mで暗褐色粗砂混シルト、-0.47~-0.6mで明黄褐色粗砂混シルトの地山。	22S366	RH 304	16-3
御土居跡	北・紫野花ノ坊町54-1	7/11	GL-0.2~-0.53mで橙色泥砂（礫混）の御土居構築土か。	22S035	RH 146	16-3
御土居跡	上・御前通今出川上る三丁目神明町615-2、615-3、615-8、615-9、615-10	5/16	GL-0.42mでにぶい黄褐色砂礫、-1.52~-2.51mで浅黄褐色砂礫。	22S020	RH 059	16-3
御土居跡	上・御前通今出川上る三丁目神明町615-2、615-3、615-8、615-9、615-10、北・平野鳥居前町24-77、24-83	6/15	GL-0.7mまで盛土。	21S547	RH 108	16-3
御土居跡	北・平野鳥居前町24-24	4/12	GL-0.2mまで盛土。	21S587	RH 021	16-3



遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
香隆寺跡	北・等持院北町地先	9/28	GL-0.23~-0.76mで明黄褐色シルトの地山を切つてにぶい黄褐色シルトの中世土坑（土師器皿、焼締陶器備前播鉢、瓦）。	22S306	RH 261	16-1
北野廃寺、北野遺跡	北・北野東紅梅町6-2	5/16・25、6/6	No.2；GL-0.35mで褐色泥砂の時期不明包含層、-0.49mで灰黄褐色泥砂の地山、-0.81mで明黄褐色砂礫。No.3；GL-0.59mでにぶい黄褐色泥砂の平安包含層（須恵器）、-0.83~-0.94mで褐色泥砂の時期不明包含層（土師器）。	21S110	RH 058	16-3
北野廃寺、北野遺跡	北・北野上白梅町35-9	10/31、11/1	GL-0.35mで黒色礫混シルトの時期不明包含層、-0.47mで黒褐色礫混シルト、-0.58~-0.72mで明黄褐色粘土質シルトの地山。	22S226	RH 307	16-3
北野廃寺、北野遺跡、北野製鉄遺跡	北・北野上白梅町地先	11/10	GL-1.05~-1.4mで極暗褐色粘性中砂。	22S375	RH 320	16-3
尊重寺跡	上・今出川通千本東入般舟院前町148	12/23	GL-0.65mまで盛土。	22S362	RH 390	16-3
世尊寺跡、上京遺跡	上・大宮通上立売下る芝大宮町22-1	7/4	GL-0.2~-0.3mで明黄褐色砂礫。	22S082	RH 132	16-3・17-3
寺ノ内旧域、上京遺跡	上・寺之内通新町西入妙顕寺前町515-14	4/5・11	GL-1.63~-2.99mで褐色砂礫の地山。	21S097	RH 007	17-3
上京遺跡	北・鞍馬口通衣棚東入る長乗東町～上・室町通鞍馬口下る森之木町地先	5/31～9/6	GL-0.5mで暗褐色砂質土の近世包含層、-0.7mで黒褐色砂質土の時期不明包含層。	22S104	RH 077	17-3
上京遺跡	上・寺之内堀川半丁西入下る芝之町517-1	7/8・11・12	GL-0.38mで明褐色砂礫、-0.56mでにぶい黄褐色砂礫の近世包含層（土師器皿）、-0.9mで灰黄褐色砂礫、-1.21~-2.73mで黄褐色砂礫の地山。	21S643	RH 144	17-3
上京遺跡	上・大宮通寺之内半丁下る東入西北小路町438、440	9/20	GL-0.73~-0.92mで灰褐色シルトの地山。	22S256	RH 248	16-3・17-3
上京遺跡	上・小川通上立売下る西入実相院町137	6/27	GL-0.4mまで盛土。	22S124	RH 122	17-3
上京遺跡	上・衣棚通今出川下る今関子町385-1、385	6/23	GL-0.95mまで盛土。	21S777	RH 118	17-3
上京遺跡	上・室町通一条上る小島町～烏丸通一条上る観三橋町地先	10/17～11/30	GL-0.2mでにぶい黄褐色泥砂の近世包含層、-0.4~-0.66mでにぶい黄褐色泥砂の近世包含層。	22S335	RH 291	17-3
上京遺跡、一条室町殿跡	上・武者小路町447	11/21・24・25	GL-0.48mで暗灰黄色泥砂、-0.73~-0.82mで黄灰色砂礫。	22S382	RH 330	17-3
上京遺跡、相国寺旧境内	上・室町通寺之内上る三丁目上柳原町99 他	7/29、8/1・3	GL-0.67mで褐色シルト（炭含）の時期不明整地層、-0.97mで黄灰色シルト（炭含）の時期不明整地層、-1.04mで暗灰黄色泥砂（小礫含）、-1.29~-1.68mで黄灰色砂礫の地山。	22S155	RH 176	17-3
相国寺旧境内	上・今出川通烏丸東入玄武町601	10/5・12	GL-0.55~-0.85mでにぶい黄褐色シルトの近世包含層。	22S258	RH 271	17-3
相国寺旧境内	上・今出川通烏丸東入玄武町601	4/4	GL-0.8mまで盛土。	21S769	RH 006	17-3
相国寺旧境内、公家町遺跡	上・今出川通烏丸東入玄武町601	4/7	巡回時掘削終了。	22S001	RH 013	17-3
上京遺跡、公家町遺跡、常盤井殿町遺跡	上・今出川通寺町西入三丁目常盤井殿町543、543-10 他	12/21	GL-0.13mでにぶい黄褐色泥砂、-0.57~-0.9mでにぶい黄色砂泥（固く締まる）の整地層。	22S186	RH 384	17-3
公家町遺跡	上・京都御苑3	10/19・25、11/24	GL-0.31mで褐灰色砂質土盛土、-0.65mで褐灰色砂礫、-0.73mで灰褐色粗砂、-0.86mで褐色粗砂。	22S309	RH 294	17-3
寺町旧域	上・表町14	8/25・26、9/9～26	GL-2.28mで明黄褐色砂礫の地山。	22S230	RH 210	17-3

## 北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
沖殿町遺跡	左・修学院沖殿町1	4/15	GL-0.65mまで盛土。	21S574	KS 024	27-5
一乗寺松田町遺跡	左・一条寺里ノ西町35	12/12	GL-0.5mまで盛土。	22S404	KS 367	27-6
北白川瓦窯跡	左・北白川上終町23	9/14・27	GL-0.35mで浅黄色泥砂、-0.57~-0.65mで暗灰黄色砂泥。	22S195	KS 241	22

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
上終町遺跡	左・北白川堂ノ前町29	8/9・10	GL-0.55mで黄橙色粗砂、-0.68~-0.82mで暗灰黄色細砂の近世包含層。	22S187	KS 192	22
小倉町別当町遺跡	左・北白川上別当町3-1、3-4	9/2・9、 10/14	GL-0.51mで淡黄色粗砂、-0.84mで黄褐色微砂、-1.2mで明黄褐色細砂、-1.6mで黒色細砂、-2.41~-3.07mで暗オリーブ色細砂。	22S178	KS 222	22
追分町古墳群	左・北白川久保田町58-3	7/8	GL-0.12~-0.58mで灰色砂、にぶい黄褐色粗砂、にぶい黄橙色粗砂の3層による斜め堆積の地山。	22S180	KS 143	22
追分町古墳群、北白川追分町縄文遺跡、北白川追分町遺跡、吉田上大路町遺跡	左・北白川追分町1-6	6/15~7/7	GL-0.07mでにぶい黄褐色泥砂、-0.25~-1.03mで淡黄色粗砂の弥生前期末土石流堆積。	21S771	KS 106	22
田中関田町遺跡、吉田泉殿町遺跡	左・吉田泉殿町56~吉田泉殿町47-11 地先	7/22~9/5	GL-0.28mで灰黄色泥砂の近世包含層、-0.45mで灰黄褐色泥砂、-0.57~-0.67mで灰黄色砂礫の地山。	22S196	KS 163	22
吉田二本松町遺跡、吉田上大路町遺跡	左・吉田二本松町21-8	6/15~24	No.1 ; GL-0.48mで灰黄褐色砂泥、-1.06~-1.5mで灰白色粗砂の弥生時代前期末土石流堆積。 No.2 ; GL-0.36mで黒褐色砂泥、-0.75mでにぶい黄褐色泥砂、-0.97~-1.27mで灰白色粗砂を切って黒褐色砂泥の時期不明土坑。	22S127	KS 107	22
吉田二本松町遺跡、吉田上大路町遺跡	左・吉田二本松町21-10	8/17~22	鎌倉の土坑、ピット、包含層を検出。 <b>本報告40ページ。</b>	22S150	KS 199	22
白河街区跡	左・聖護院西町21、21-34、21-35、21-94	6/23	GL-0.4mまで盛土。	21S641	KS 117	22
白河街区跡	左・聖護院山王町31、42	9/26	GL-0.6mまで盛土。	22S086	KS 255	22
白河街区跡	左・東丸太町41-2、聖護院川原町25-15、35-40	5/10	GL-0.18mで黒褐色粗砂混シルトの近世包含層、-0.44mでオリーブ褐色礫混細砂、-0.58~-1.04mで黄灰色細砂~粗砂を切って黄褐色礫混粗砂の時期不明流路。	22S018	KS 049	22
白河街区跡	左・岡崎天王町26、26-5	12/15・ 19・20	GL-0.5mでにぶい黄褐色泥砂、-0.77~-0.94mで明黄褐色泥砂。	22S151	KS 373	22
白河南殿跡、白河街区跡	左・聖護院蓮華蔵町20-4、20-5	5/11	GL-2.04~-2.26mで黒褐色シルト。	20R006	KS 051	22
白河南殿跡、白河街区跡	左・聖護院蓮華蔵町35-1の一部	4/8	GL-0.3mまで盛土。	21R046	KS 017	22
得長寿院跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎徳成町15-7	10/19	GL-0.2mまで盛土。	22R251	KS 293	22
得長寿院跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎徳成町29-16・18	6/27	GL-0.4mまで盛土。	22R108	KS 121	22
尊勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎西天王町56	4/7・12	巡回時掘削終了。	21R662	KS 011	22
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町117	6/8	GL-0.3mでにぶい黄褐色砂質シルトの時期不明包含層。	20R111	KS 095	22
白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎徳成町23	4/7・12	GL-0.6mまで盛土。	21R737	KS 012	22
白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎円勝寺町62、140-6	8/16、 10/11	GL-1.36mまで盛土。	22S119	KS 193	22
禅林寺旧境内	左・永観堂町48、41の一部、41-1、42、43、46の一部、49、51-9、58	12/14・15	GL-0.9mまで盛土。	21S123	KS 371	22
中尾城跡、浄土寺七廻り町遺跡	左・浄土寺大山町他	4/12・13	赤色立体図を作成し、未確認平坦地を踏査。 <b>本報告43ページ。</b>	22A001	KS 325	25-1

## 洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
祇園遺跡	東・祇園町北側292	5/20・24	GL-0.11mで褐灰色砂質土、-0.18mで黒褐色泥砂、-0.3mで褐灰色粗砂(明黄褐色粘土多量含)、-0.43~-0.53mで灰黄褐色泥砂(粗砂多含)の江戸以降の整地層。	21S625	RT 068	23

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
音羽・五条坂窯跡	東・六波羅裏門通東入多門町155	11/11	GL-0.5mまで盛土。	22S267	RT 321	23
六波羅政庁跡	東・大和大路通松原下る弓矢町38、 大和大路通二丁目薬師町245	8/1～9/14	No.2 ; GL-0.27mで黒褐色泥砂の室町～安土桃山 包含層（土師器皿、白磁）、-0.52mで黒褐色シル トの室町包含層（土師器皿）、-0.81mでオリ ブ黄色シルトの地山、-1.01～-1.43mでオリ ブ黄色砂礫。No.5 ; GL-1.2mで暗灰黄色砂泥の鎌倉 包含層（土師器）、-1.58mでにぶい黄色泥砂、 -1.86mで黄灰色砂泥（炭化物含）の平安後期包 含層（土師器、須恵器）、-2.02～-2.21mで灰 黄色微砂（粘性有）。	22S077	RT 179	23
六波羅政庁跡	東・新宮川筋五条上る田中町507- 16	11/28・29・ 30、12/1・2	GL-0.5mまで盛土。	22S323	RT 341	23
六波羅政庁跡	東・大和大路通五条下る二丁目上梅 屋町180-1	9/20	GL-0.85～-1.37mで黄色砂泥（礫混）の地山。	22S149	RT 247	23
六波羅政庁跡、 法住寺殿跡	東・茶屋町（耳塚公園）	11/28	GL-0.6mまで盛土。	22S272	RT 340	23
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り	11/2	GL-0.2mで暗オリブ褐色粗砂混シルトの近代 造成土、-0.46mで黒褐色細砂混シルトの中近世 包含層（青磁椀、平瓦）、-0.55～-0.60mでオ リーブ褐色礫混粘土質シルトの地山。	22S241	RT 310	23
法住寺殿跡	東・今熊野宝蔵町他 地内	6/3～11/24	GL-2.65mまで盛土。	21S501	RT 085	23
法住寺殿跡	東・今熊野榎ノ森町11-39	8/25・30	GL-0.05～-0.55mでにぶい黄褐色砂泥や黄色シル ト等の互層による時期不明造成土。	22S072	RT 212	23
法性寺跡	東・本町十五丁目 地先	6/2～16	GL-0.25～-0.6mで褐色シルト。	22S076	RT 084	23・ 28-1
法性寺跡	東・福稲上高松町5-2、5-4	4/5・12	GL-0.58mで明黄褐色シルトの地山、-1.09～ -2.16mで浅黄色シルト。	21S272	RT 008	28-1
鳥戸野古墳群、 鳥部（辺）野	東・今熊野泉山町	12/6・13	GL-0.15mで明黄褐色シルト+灰白色シルトの整 地層、-0.35mで黄褐色シルトの地山。	22S231	RT 358	23
鳥部（辺）野、 本多山古墳群	東・今熊野南谷町9-4	7/20	GL-0.05mでオリブ褐色粗砂混シルトの近世～ 近代堆積層、-0.39mでオリブ褐色礫混シルト、 -0.85～-1.23mで明黄褐色礫混シルトの地山。	22S064	RT 156	28-2
安祥寺下寺跡	山・御陵平林町22	11/28	GL-0.46mまで盛土。	22S442	RT 342	28-4
山科本願寺跡 （寺内町遺跡）	山・西野今屋敷町2-15	4/21	巡回時掘削終了。	21S358	RT 033	28-5
山科本願寺南殿跡	山・音羽初田町11-2、11-3、11-4	10/7	GL-0.85mで黄褐色泥砂の近世整地層、-1.05mで 褐色泥砂、-1.2～-1.3mで黒褐色泥砂（礫含）の 地山。	22S292	RT 276	28-6
山科本願寺南殿跡	山・音羽千本町7-1（A号地）	11/22	GL-0.55mまで盛土。	22S223	RT 331	28-6
山科本願寺南殿跡	山・音羽千本町7-1（B号地）	11/22	GL-0.65mで灰黄褐色泥砂。	22S224	RT 332	28-6
中臣遺跡	山・東野舞台町 地先	4/21・26	GL-0.8mまで盛土。	21N731	RT 031	26-3
中臣遺跡	山・東野森野町56-10、56-11、 56-16	11/2	GL-0.11mで黒色礫混シルト、-0.34～-0.4mで灰 黄褐色粗砂混シルトの地山。	22N363	RT 311	26-3
中臣遺跡	山・西野山中臣町15-1	4/4	GL-0.65mまで盛土。	21N756	RT 005	26-3
中臣遺跡、 稲荷塚古墳 の一部	山・西野山中臣町25の一部、26-39 の一部	8/22、 10/7	GL+0.6～-0.15mで盛土。	22N103	RT 206	26-3
中臣遺跡、 中臣十三塚	山・西野山中臣町44-15（北側）	11/28	GL-0.5mまで盛土。	22N396	RT 343	26-3
中臣遺跡、 中臣十三塚	山・西野山中臣町44-15（南側）	12/19	GL-0.28mで黄褐色泥砂（炭含）の時期不明包含 層、-0.39～-0.43mで明黄褐色シルトの地山。	22N481	RT 380	26-3
中臣遺跡	山・西野山中臣町77-2	8/17	GL-0.3～-0.4mで黒色シルトの近世包含層（土師 器焙烙）。	22N227	RT 197	26-3
中臣遺跡	山・西野山中臣町75-3	9/5	GL-0.25mまで盛土。	22N261	RT 225	26-3
中臣遺跡	山・柳辻番所ケ口町38-10、38-11	11/8	GL-0.25mまで盛土。	22N290	RT 318	26-3
中臣遺跡	山・西野山中臣町126	8/17	GL-0.5mまで盛土。	22N145	RT 198	26-3
中臣遺跡	山・勸修寺西栗栖野町138	11/30	GL+0.3mまで盛土。	22N397	RT 350	26-3
大宅廃寺、大宅遺跡	山・大宅鳥井脇町 地先	8/4、9/13	GL-0.4～-1.0mで褐色粘質土。	22S205	RT 184	28-7

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
稲荷山古墳群、 伏見稲荷大社境内	伏・深草藪之内町68 他75筆	9/12、 10/6	GL-0.53~-1.86mで黄褐色粗砂〜シルトの地山。	22S286	FD 239	26-4
極楽寺跡	伏・深草大門町〜深草野手町 地内	10/6〜18	GL-0.7~-1.2mで黄褐色礫混シルトの地山。	22S208	FD 275	26-4
寺本城跡	伏・深草西出町6-2	4/25〜5/9	中世の溝状遺構を検出。 <b>本報告59ページ。</b>	21S791	FD 036	26-4
おうせんどろ廃寺	伏・大岩街道、深草東伊達町〜深草 谷口町他 地内	9/12〜 10/24	GL-0.3~-0.45mで明黄褐色砂泥。	22S044	FD 235	29-1
伏見城跡	伏・桃山最上町 地先	6/6〜11/8	No.3 ; GL-1.3~-1.7mで灰白色シルト。No.8 ; GL-0.7~-1.4mでにぶい黄褐色泥砂。	22F098	FD 091	14
伏見城跡	伏・両替町十四丁目153	10/24・25	GL-0.47~-0.53mで褐色砂質土。	22F268	FD 300	14
伏見城跡	伏・新町十丁目〜京町北七丁目 地先	4/12〜5/23	GL-0.6~-1.7mで灰黄褐色粘質土。	22F007	FD 020	14
伏見城跡	伏・桃山井伊掃部東町16	7/21〜27	GL-0.15mまで盛土。	22F177	FD 162	14
伏見城跡、 桃山古墳群 (永井久太郎古墳)	伏・桃山町島津58-18	5/11	GL-0.45~-0.65mで褐色礫混シルトの造成土。	22F017	FD 050	14・ 15
伏見城跡	伏・桃山筒井伊賀西町32-2の一部、 31-1の一部、31-2の一部	7/4・6	GL-0.6~-0.7mで明黄褐色砂質土の地山。	22F120	FD 133	14
伏見城跡	伏・桃山福島太夫南町89・98	6/27、 7/1・6	GL-0.46~-1.1mでにぶい橙色砂礫等の造成土を 切ってにぶい褐色砂礫〜赤褐色砂泥の安土桃山 土坑(瓦)。	21F607	FD 123	14
伏見城跡	伏・桃山町島津76、51-2、53-4、 54-4、55-1	10/17〜26・ 11/1〜15	GL-0.46mで明黄褐色粗砂、-1.15~-1.76mで橙 色砂礫の地山。	22F219	FD 289	14
伏見城跡	伏・桃山町三河49-9	7/27・28	GL-0.27~-0.36mで黄褐色粗砂の安土桃山造成土。	22F085	FD 172	14
伏見城跡	伏・竹中町〜東大手町757 地先	6/6〜8/1	No.6 ; GL-0.65mで褐色シルトの時期不明包含層、 -0.85mで明黄褐色シルトの地山。No.8 ; GL-0.35m で明黄褐色シルトの地山、-0.6~-0.7mで明黄褐 色シルト(礫混)。	22F099	FD 090	14
伏見城跡	伏・西大手町322-2	9/9・12	GL-0.35mまで盛土。	22F168	FD 238	14
伏見城跡、 御香宮廃寺	伏・御香宮門前町 地先	6/13	巡回時掘削終了。	22F011	FD 102	14
伏見城跡、 三淵氏伏見城跡	伏・桃山町松平筑前10-18、10-20	4/13	GL-0.25mで明黄褐色粗砂、-0.35mで暗灰黄色シ ルト、-0.55mで明黄褐色シルトの時期不明造成土。	21F726	FD 022	14
伏見城跡	伏・大阪町609の一部	5/9・11・ 12	GL-0.3mでにぶい黄褐色シルト、-0.5~-0.8mで 黄褐色粗砂を切って暗褐色礫混粗砂〜砂質シル トの近世土坑(瓦)。	21F680	FD 046	14
伏見城跡	伏・大阪町600-2	5/12	GL-1.39~-1.77mで明黄褐色砂質土の地山。	21F792	FD 054	14
伏見城跡	伏・新町四丁目470	7/21・22・ 25・28	GL-0.6mで褐灰色泥砂、-1.0mで黒褐色シルト、 -1.27mで灰白色粘土の地山、-2.32mでにぶい黄 褐色粗砂、-3.39mで灰白色粘土。	21F061	FD 161	14
伏見城跡	伏・新町四丁目464	7/6・7・ 12	GL-0.49mで黄褐色シルト〜粗砂、-1.08mでに ぶい黄褐色粗砂、-1.16mでにぶい黄褐色細砂、 -1.22mで明黄褐色細砂、-1.27mで灰黄色細砂、 -1.54~-2.01mで灰白色砂礫(微砂多く含)。	21F423	FD 142	14
伏見城跡	伏・村上町381-2、381-4、381-5、 392	12/23	GL-0.6mで黄色粗砂、-0.73mで黒褐色中粒砂、 -0.81mで明黄褐色粗砂、-0.87~-0.95mで灰黄 褐色泥砂の近世包含層(焼締陶器備前鉢)。	22F431	FD 387	14
伏見城跡	伏・丹後町142	12/12	GL-0.2mまで盛土。	22F381	FD 366	14
伏見城跡、指月城跡	伏・桃山町泰長老 地先	8/24	巡回時掘削終了。	22F243	FD 208	14
伏見城跡、指月城跡	伏・桃山町泰長老84-8他の一部	10/25	GL-0.36~-0.51mで明黄褐色砂礫の地山。	22F291	FD 301	14
伏見城跡	伏・深草大亀谷六鉢町106-5	10/13	GL-0.4mまで盛土。	22F287	FD 288	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷六鉢町106-6	7/28	GL-0.35mまで盛土。	22F172	FD 175	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷六鉢町106-8	9/29	巡回時掘削終了。	22F244	FD 263	15
伏見城跡	伏・桃山町古城山	10/12〜28	安土桃山の整地層を確認。 <b>本報告61ページ。</b>	22F269	FD 286	15

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
唐橋遺跡	南・吉祥院九条町31-2、31-3、32	7/4・7	GL-0.61mで灰色泥土、-0.73mで淡灰黄色砂質土（炭化物少量混）の時期不明包含層、-1.09～-1.23mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	22S141	TB 131	29-3
唐橋遺跡	南・吉祥院御池町21-2、21-3の一部	7/11・15	GL-1.6mでオリープ褐色微砂混シルトの近世耕作土、-1.74～-2.15mで褐色～オリープ褐色砂礫の時期不明流路。	21S712	TB 147	29-3
深草遺跡	伏・深草町通町25、24-8	10/12・18・24	GL-1.0mで褐灰色極細砂、-1.1mで灰黄褐色細砂～極細砂、-1.24mで灰色細砂～中砂、-1.48mで灰色細砂～中砂。	22S233	TB 284	26-4
深草遺跡	伏・深草西浦町五丁目21	10/11	GL-0.6mでにぶい黄褐色砂泥、-0.84mで明黄褐色砂泥、-1.08～-1.33mで褐灰色砂泥の弥生包含層（弥生土器）を切って黒褐色泥砂の時期不明ピット。	22S174	TB 285	26-4
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・竹田真幡木町136	11/24・25、 12/5・6・ 7・8・14	No.1；GL-0.68mでにぶい黄色粘質土、-0.81～-0.92mで灰黄色微砂。No.3；GL-0.77mで緑灰色シルト～細砂、-1.25mで灰オリープ色シルト。	22T394	TB 336	25-2
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・竹田西小屋ノ内町50の一部	11/14・17	GL-0.58mまで盛土。	22T385	TB 324	25-2
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・中島御所ノ内町31	6/7	GL-0.11～-0.26mで明黄褐色シルト。	21T742	TB 089	25-2
鳥羽離宮跡	伏・竹田中内畑町101、102、103	10/13	GL-0.5～-0.6mで旧耕作土。	22T333	TB 287	25-2
鳥羽離宮跡	伏・中島秋ノ山町102-1 地内	11/2	巡回時掘削終了。	21T695	TB 041	25-2
鳥羽離宮跡	伏・竹田中宮町 地内	9/30	GL-0.8mまで盛土。	22T221	TB 266	25-2
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町1-15	11/29・30	GL-0.65mまで盛土。	22T377	TB 348	25-2
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町4-41の一部	7/15	GL-0.3mまで盛土。	22T113	TB 153	25-2
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町4-61	9/28	GL-0.73mまで盛土。	22T317	TB 260	25-2
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町132	7/21	GL-0.3mまで盛土。	22T182	TB 160	25-2
久我殿遺跡	伏・久我御旅町5-221、久我本町7-20、7-26	10/24	GL-0.79mでにぶい黄褐色粗砂の氾濫堆積、-1.13mで浅黄色シルト、-1.24mで浅黄褐色細砂、-1.72～-1.95mで灰色シルト。	22S383	TB 297	19
久我東町遺跡	伏・久我東町229	6/13	GL-0.28mで褐色礫混シルト、-0.55～-0.62mでにぶい黄褐色粗砂混粘土質シルト。	21S683	TB 103	19
富ノ森城跡	伏・横大路北ノ口町 地先	7/8～27、 9/2	GL-0.95mでにぶい黄色泥砂、-1.0mで黄褐色泥砂、-1.7mで暗灰黄色泥砂～細砂、-2.0～-2.1mで明黄褐色細砂の地山。	21S763	TB 145	29-5
淀城跡	伏・淀池上町147-2	12/7	GL-0.49～-0.7mで黄褐色泥砂の近世包含層。	22S453	TB 360	20
淀城跡	伏・淀新町124-23	7/28	GL-0.35mまで盛土。	20S452	TB 173	20

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京北辺四坊十一・十四町跡	南・久世築山町212-1	10/26	GL-0.5mまで盛土。	22NG019	NG 302	18-3
左京一条三坊十四町、四坊三町跡、東土川遺跡	南・久世東土川町285-2、287-6	6/22	GL-0.4mまで盛土。	21NG105	NG 115	18-3
左京一条四坊四・五町跡、東土川遺跡	南・久世東土川町350-10	11/2	-3.0mまで盛土。	22NG179	NG 312	18-3
左京二条四坊十一・十三・十四町跡	伏・久我御旅町9-8他 11筆	9/7～12/8	GL-1.52mで灰色シルトの旧耕作土、-1.69mで灰オリープ色シルト、-1.9mで浅黄色シルト、-2.14～-2.57mでにぶい黄褐色シルト（粘性有）。	22NG189	NG 232	19
左京四条三坊十四町跡	伏・羽束師菱川町544-5	5/9	GL-0.7mまで盛土。	22NG042	NG 045	19
左京四条三坊十四町跡	伏・羽束師菱川町544-9	9/8	GL-0.15mまで盛土。	22NG212	NG 236	19
左京四条三坊十四町跡	伏・羽束師菱川町544-11、544-12	10/3	GL-0.15mまで盛土。	22NG299	NG 270	19

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京六条四坊九町跡	伏・羽東師古川町141-12	4/20	GL-0.2mまで盛土。	21NG521	NG 029	19
左京七条四坊五・十・十一・十二・十四・十五町、八条四坊七・八・九町跡	伏・横大路南島地先	7/4～8/29	GL-0.64mで黒色シルトの現代湿地状堆積、-0.9～-1.12mで灰白色細砂～粗砂の河川堆積。	22NG106	NG 134	20
左京跡(条坊外)、淀城跡	伏・淀本町225	7/19	GL-0.85mまで盛土。	22NG122	NG 155	20
左京跡(条坊外)、淀城跡	伏・淀池上町128	4/6、6/10・13	江戸末期の礎石と瓦溜を検出。 <b>本報告64ページ</b> 。	21S037	NG 010	20
右京北辺四坊十四・十五・十六町跡、上里北ノ町遺跡	西・大原野上里南ノ町112～大原野上里北ノ町1139-3地先	4/19～6/10	№1；GL-0.5mでにぶい黄褐色泥砂、-0.8～-1.6mで明黄褐色シルト～粗砂。№2；GL-0.2mで灰黄褐色泥土、-0.55mで浅黄色礫混じり泥砂、-0.9～-1.05mで明黄褐色シルト。	22NG023	NG 028	29-7
右京北辺四坊十四・十五・十六町跡、上里北ノ町遺跡	西・大原野上里北ノ町地内	4/25～5/26	GL-0.5mで暗褐色シルト、-0.6mでにぶい黄褐色砂泥、-0.7～-0.8mで明黄褐色シルトの地山。	21S789	NG 035	29-7

### 南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
穀塚古墳	西・山田葉室町地先	5/16	GL-1.0mまで盛土。	21S297	MK061	29-8
檜原遺跡	西・檜原里ノ垣外町14-1の一部	5/26	GL-0.66～-0.89mで黄色灰色泥砂。	22S059	MK071	18-1
檜原遺跡	西・檜原里ノ垣外町31	7/4・7・12	GL-0.47mで褐灰色泥砂、-0.72mで灰黄色粗砂、-0.88mでにぶい黄橙色微砂、-0.99～-1.13mで明黄褐色シルトの地山。	22S081	MK135	18-1
中久世遺跡	南・久世中久世町3-53・55・56	6/13・14・15・17	GL-0.65mでオリブ褐色シルトの近世耕作土、-0.75mで黄褐色シルト、-0.85mでオリブ褐色シルトの中世耕作土、-1.0mで暗灰黄色シルトの中世包含層、-1.1mで黄褐色粘土質シルト、-1.3～-1.9mで灰オリブ色粘土質シルトの地山を切つて黄灰色粘土質シルトの鎌倉溝。	22S048	MK100	18-3
中久世遺跡	南・久世大藪町81の一部	5/24	GL-0.3～-0.35mで旧耕作土。	21S762	MK070	18-3
中久世遺跡	南・久世殿城町30-2、30-8、30-9、30-10、30-11	7/28	GL-0.4～-0.45mで旧耕作土。	22S134	MK174	18-3